

# データヘルス計画

## 第3期計画書

---

最終更新日：令和6年03月27日

横浜ゴム健康保険組合

# STEP 1-1 基本情報

組合コード	22431
組合名称	横浜ゴム健康保険組合
形態	単一
業種	化学工業・同類似業

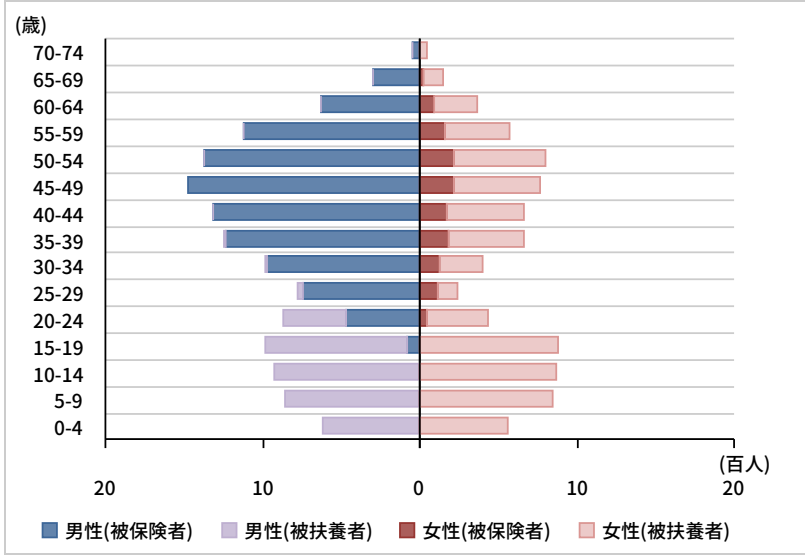
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保険者を除く	11,149名 男性87.8% (平均年齢44.0歳) * 女性12.2% (平均年齢44.1歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	21,846名	-名	-名
適用事業所数	39カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	39カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	95%o	-%o	-%o

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	11	0	-	-	-	-
事業主	産業医	3	7	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-

		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体	8,399 / 9,443 = 88.9 %	
	被保険者	6,648 / 6,851 = 97.0 %	
	被扶養者	1,751 / 2,592 = 67.6 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体	367 / 1,764 = 20.8 %	
	被保険者	345 / 1,588 = 21.7 %	
	被扶養者	22 / 176 = 12.5 %	

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	32,698	2,933	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	11,024	989	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	25,278	2,267	-	-	-	-
	疾病予防費	85,501	7,669	-	-	-	-
	体育奨励費	500	45	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	1,000	90	-	-	-	-
	小計 …a	156,001	13,992	0	-	0	-
経常支出合計 …b	6,593,890	591,433	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	2.37		-	-	-	-	

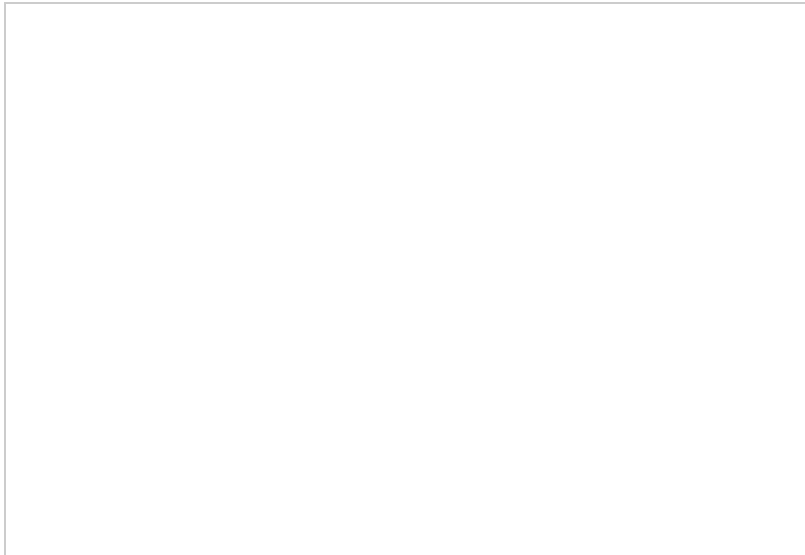
令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



## 男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	80人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	474人	25～29	741人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	966人	35～39	1,229人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1,310人	45～49	1,474人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	1,373人	55～59	1,125人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	634人	65～69	300人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	51人			70～74	-人			70～74	-人		

## 女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	1人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	43人	25～29	114人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	129人	35～39	185人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	175人	45～49	214人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	215人	55～59	155人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	95人	65～69	19人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	3人			70～74	-人			70～74	-人		

## 男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	614人	5～9	856人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	921人	15～19	898人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	396人	25～29	38人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	8人	35～39	6人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	1人	45～49	0人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	3人	55～59	4人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	1人	65～69	2人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	2人			70～74	-人			70～74	-人		

## 女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	560人	5～9	841人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	868人	15～19	883人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	389人	25～29	124人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	273人	35～39	479人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	491人	45～49	551人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	581人	55～59	412人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	270人	65～69	124人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	48人			70～74	-人			70～74	-人		

### 基本情報から見える特徴

- 当健保は横浜ゴム株式会社を中心とした単一健保組合である。
- 被保険者の6割は母体に、4割は38事業所に所属する。
- 被保険者は男性の割合が約9割と多い。
- 特に従業員は35歳～54歳の男性が多い。
- 被扶養者は子供を除くと女性が多い。
- 健保組合が運営する診療所が4か所ある。



## STEP 1-2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

- ・当健保に限られた予算のなかで、予防・早期発見・早期治療に特化する方針で保健事業を行っている。
- ・母体の規模の大きい事業所内には健保組合が運営している診療所があり、要再検者・要治療者への受診勧奨、早期治療を実施している。
- ・被保険者の特定健診・がん検診は、事業主の定期健診に含めて実施しているため受診率は高いが、婦人科検診の受診率は低い。
- ・特定保健指導の実施率が低い。特に母体以外の事業所の実施率が低い。

### 事業の一覧

職場環境の整備	
予算措置なし	健康管理事業推進委員会
加入者への意識づけ	
保健指導宣伝	機関誌発行による健康意識づくり
保健指導宣伝	健康ポータルサイト運営
保健指導宣伝	医療費通知発行
保健指導宣伝	ジェネリック促進通知
保健指導宣伝	育児指導誌の配付
疾病予防	常備薬購入斡旋
予算措置なし	こころの健康づくり
予算措置なし	歯科保健指導
個別の事業	
特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	禁煙促進
疾病予防	がん検診
疾病予防	眼底検査（循環器検診）
疾病予防	婦人科がん検診
疾病予防	被扶養者健診（35～39歳）
疾病予防	人間ドック
疾病予防	脳ドック
疾病予防	糖尿病性腎症重症化予防
体育奨励	体育奨励
その他	インフルエンザ予防接種
事業主の取組	
1	定期健康診断
2	特殊健康診断
3	雇入れ時健康診断
4	海外赴任前健診
5	健康診断事後措置に伴う個別指導
6	メンタルカウンセリング
7	長時間労働者に対する指導
8	傷病による休業者の復職支援
9	安全衛生委員会活動
10	人間ドック費用補助

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備												
予算措置なし	1	健康管理事業推進委員会	事業主と協働で「心と体の健康づくり」を目指す。	母体企業	男女	18～64	-	--				-
加入者への意識づけ												
保健指導宣伝	2,3,4,5	機関誌発行による健康意識づくり	健康づくりに対する啓発、健康増進の為の情報の提供、健保組合活動の周知	全て	男女	18～74	-	--				-
	2,3,5,7	健康ポータルサイト運営	I C Tを活用し、本人へ分かり易い健診データの提供をし、生活習慣改善を図る。	全て	男女	18～74	-	--				-
	2	医療費通知発行	加入者の医療費と給付内容を周知し医療費適正化を図る。	全て	男女	0～74	-	--				-
	7	ジェネリック促進通知	ジェネリック医薬品への切り替えを促し、医療費の適正化を図る。	全て	男女	0～74	-	--				-
	2,5	育児指導誌の配付	育児に不安を感じる可能性の高い初産家庭への情報提供による育児支援を行うとともに、育児の悩みによる精神疾患発症防止の一助とする	全て	男女	18～74	-	--				-
疾病予防	2,8	常備薬購入斡旋	疾病の早期対応、セルフケアを促し、医療費軽減のため実施	全て	男女	0～74	-	--				-
予算措置なし	5	こころの健康づくり	加入者のメンタルリスクの軽減	全て	男女	0～74	-	--				-
	4	歯科保健指導	口腔の健康保持、禁煙の啓蒙	全て	男女	18～74	-	--				-
個別の事業												
特定健康診査事業	3,4	特定健診(被保険者)	生活習慣病予防のために実施	全て	男女	40～74	-	--				-
	3,4	特定健診(被扶養者)	生活習慣病予防のために実施	全て	男女	40～74	-	--				-

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者			事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢		対象者	実施状況・時期	成功・推進要因	
特定保健指導事業	4	特定保健指導	生活習慣の改善を働きかける	全て	男女	40～74	-	--	-	-	-
保健指導宣伝	5,8	禁煙促進	加入者の喫煙率を世間レベルに引き下げる	全て	男女	20～74	-	--	-	-	-
疾病予防	3	がん検診	胃がん、大腸がん、前立腺がん、乳がんの早期発見	全て	男女	35～74	-	--	-	-	-
	3	眼底検査(循環器検診)	高血圧、脂質異常症、糖尿病等の循環器病の予防・管理	全て	男女	35～75	-	--	-	-	-
	3,4	婦人科がん検診	乳がん、子宮頸がんの早期発見	全て	女性	20～74	-	--	-	-	-
	3	被扶養者健診(35～39歳)	被扶養者の疾病予防	全て	男女	35～39	-	--	-	-	-
	3	人間ドック	健康状態の確認、疾病の早期発見・早期治療	全て	男女	18～74	-	--	-	-	-
	3	脳ドック	健康状態の確認、疾病の早期発見・早期治療	全て	男女	18～74	-	--	-	-	-
	4	糖尿病性腎症重症化予防	生活習慣病ハイリスク者の重症化予防	全て	男女	35～74	-	--	-	-	-
体育奨励	5	体育奨励	運動による健康増進奨励	全て	男女	18～74	-	--	-	-	-
その他	3	インフルエンザ予防接種	母体事業主大規模事業所内でのインフルエンザ集団感染の予防	一部の事業所	男女	18～(上限なし)	-	--	-	-	-



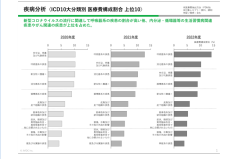
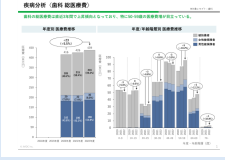

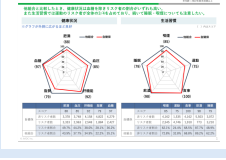
注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

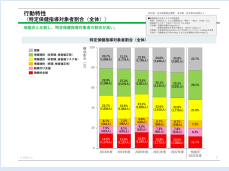


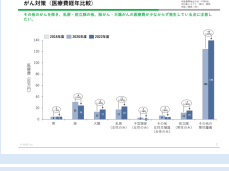

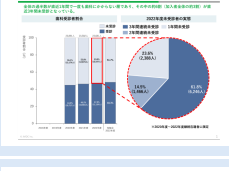
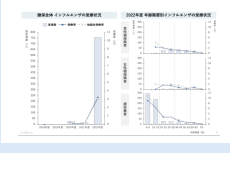
注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%




事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
<b>事業主の取組</b>								
定期健康診断	安衛法に基づき実施 従業員の健康管理	被保険者	男女	18 ～ 74	定期的に実施	勤務時間中の受診可	-	有
特殊健康診断	安衛法に基づき実施 従業員の健康管理	被保険者	男女	18 ～ 64	定期的に実施	-	-	無
雇入れ時健康診断	雇入れ時随時実施 従業員の健康管理	被保険者	男女	18 ～ 60	随時 生活習慣病健診については健保の費用補助あり	-	-	有
海外赴任前健診	海外赴任前に実施	被保険者	男女	18 ～ 64	随時	-	-	無
健康診断事後措置 に伴う個別指導	疾病予防・治療のため要再検査、要精密検査者に対する受診勧奨および生活習慣指導	被保険者	男女	18 ～ 74	母体は安全衛生推進室が再検率100%を目標に指導していることにより再検率は高い	業務指示として推進 事業所に診療所があるため利便性がある	再検後の診療へのつなぎ	有
メンタルカウンセリング	メンタル不調者への対応	被保険者	男女	18 ～ 64	毎月、毎週、外部カウンセラー・精神科医により実施	就業時間中にカウンセリングが受けられる	個人情報の取り扱い	有
長時間労働者に対する指導	法令順守と健康管理を目的に産業医面談を実施	被保険者	男女	18 ～ 64	毎月実施	職場の上司への指導も実施	対象部門、対象者は限られている	無
傷病による休業者の 復職支援	個別状況に合わせた復職支援	被保険者	男女	18 ～ 64	随時	-	-	無
安全衛生委員会活動	従業員の職場の安全衛生と健康管理のための施策を決定する	被保険者	男女	18 ～ 64	各事業所での安全衛生委員会、下部分化会活動を毎月実施	業務として実行	横通しの連携が少ない	有
人間ドック費用補助	従業員の健康管理のため人間ドック受診の費用を補助する	被保険者	男女	37 ～ 62	37歳以降5年ごとの人間ドックを補助対象とする	健保からの費用補助とあわせ、実質本人負担がほとんどなく受診できる	母体事業主のみでの実施	有

# STEP 1-3 基本分析

## 登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		加入者構成の分析	加入者構成の分析	-
イ		医療費分析	医療費・患者数分析	-
ウ		疾病分析	医療費・患者数分析	-
エ		歯科医療費	医療費・患者数分析	-
オ		特定健診実施率	特定健診分析	-
カ		検診・問診分析	特定健診分析	-

キ		特定保健指導対象者割合	特定保健指導分析	-
ク		特定保健指導実施率	特定保健指導分析	-
ケ		生活習慣病リスク分布	健康リスク分析	-
コ		がん医療費・患者数	健康リスク分析	-
サ		メンタル疾患受療率	健康リスク分析	-
シ		歯科受診分析	健康リスク分析	-
ス		インフルエンザ受療状況	健康リスク分析	-

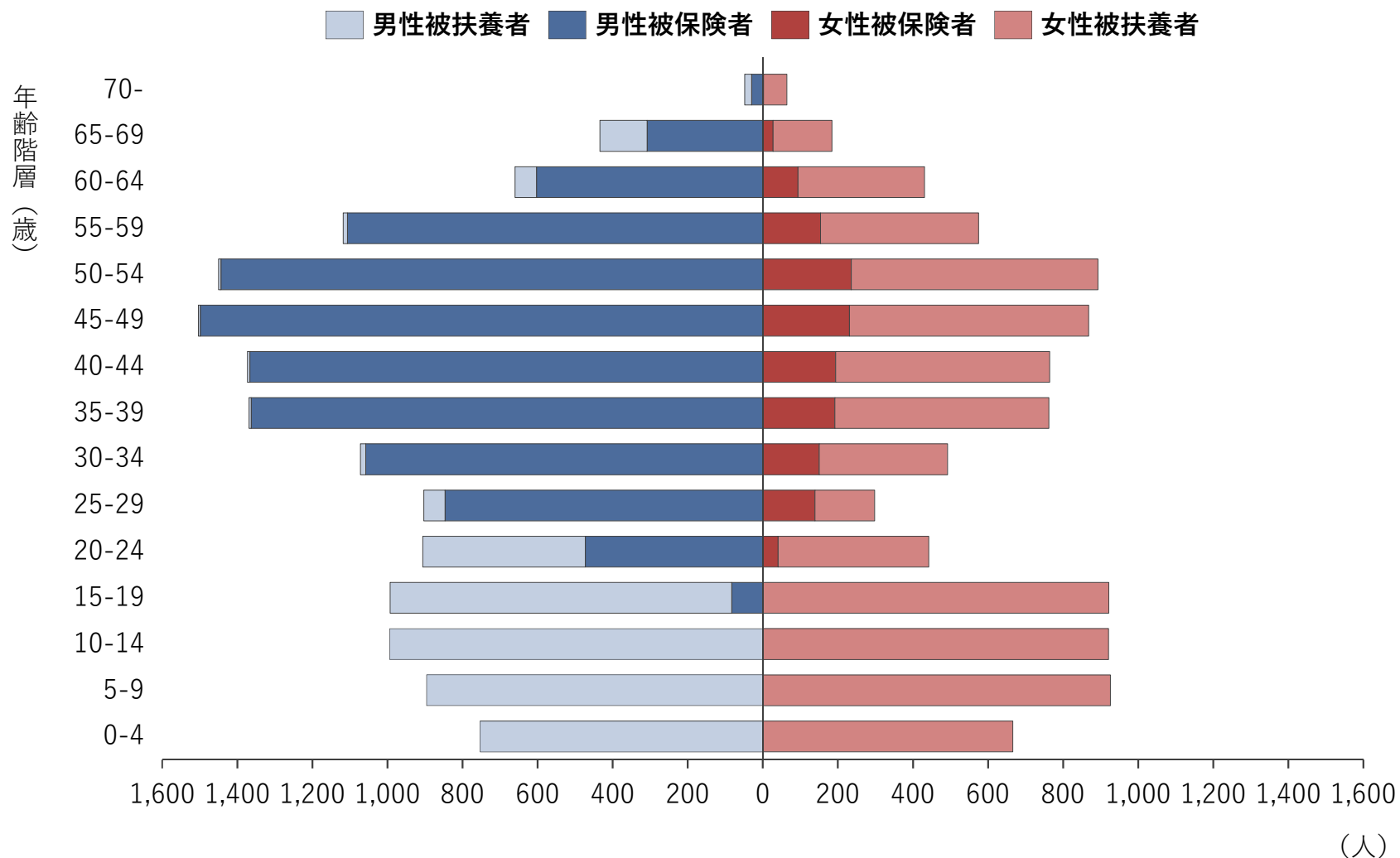
セ		プレゼンティーズム・アブセンティーズム	健康リスク分析	-
ソ		小児疾患 時間外受診	健康リスク分析	-
タ		後発医薬品使用状況	後発医薬品分析	-

# 加入者特性 〈2022年度 年齢階層別加入者構成〉

※年度：2022年度

被保険者では男女ともに45-49歳/50-54歳が高い割合を占めており、被扶養者では男性が、被扶養者では女性割合が高い。

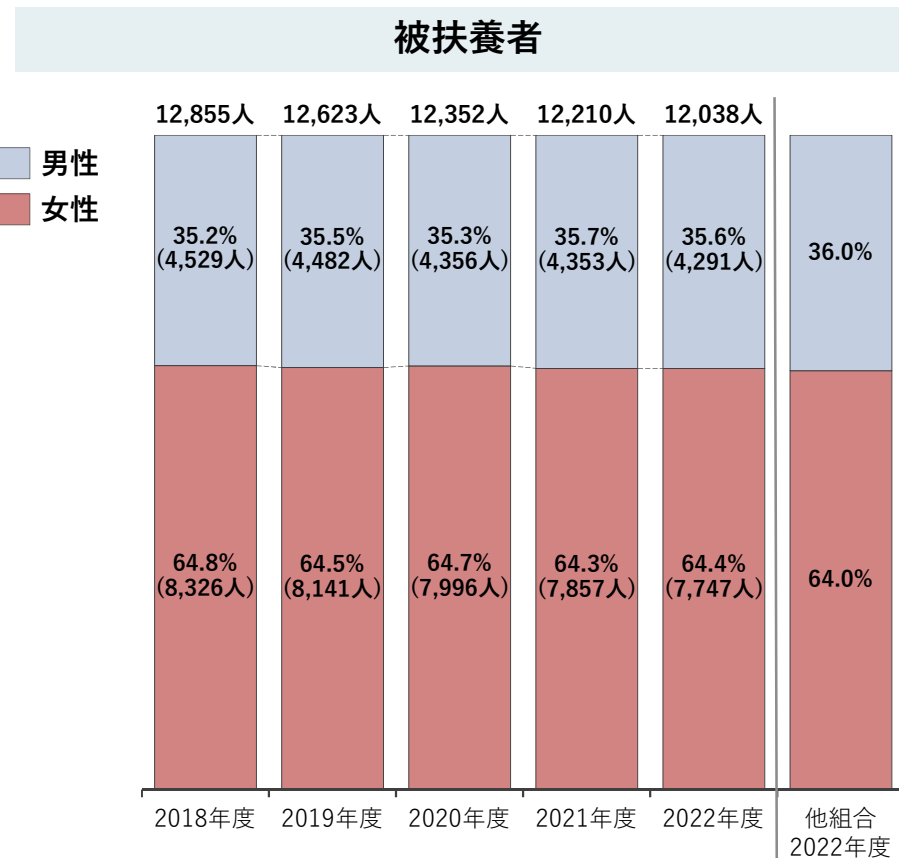
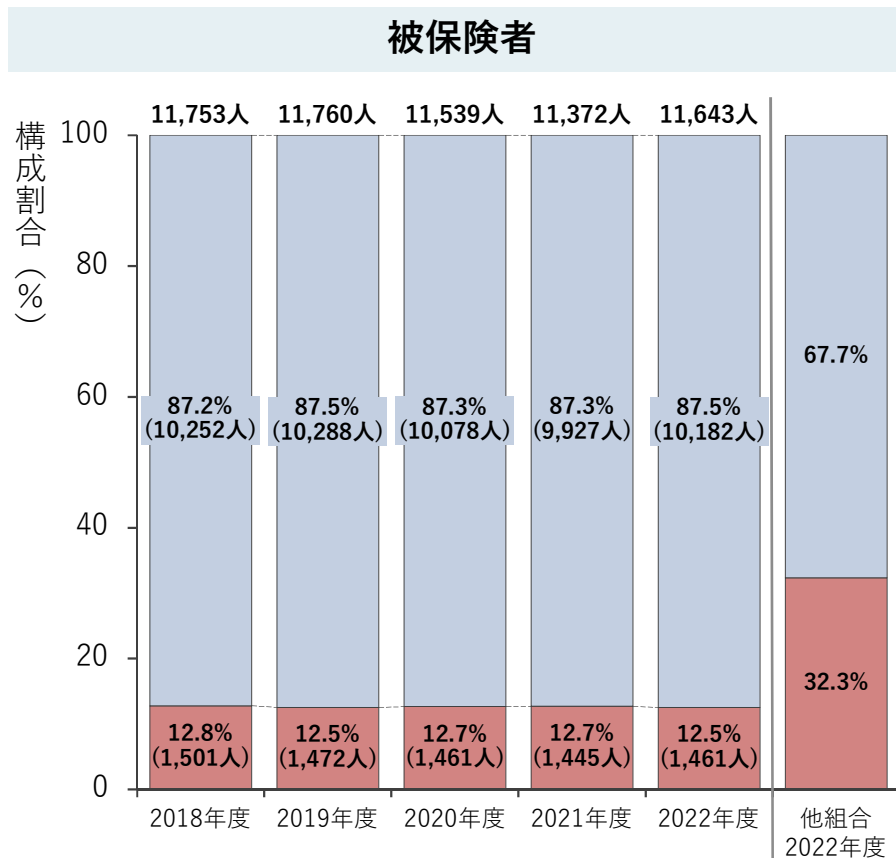
性年齢・属性別加入者構成図





## 加入者特性 〈5か年の男女比率・平均年齢比較〉

被保険者において男性は他組合並の平均年齢だが割合は非常に高い。また女性は3歳ほど平均年齢が高く、直近の5か年で上昇傾向にある。また被扶養者においては男女いずれも他組合よりも2歳以上平均年齢が低い。



平均年齢

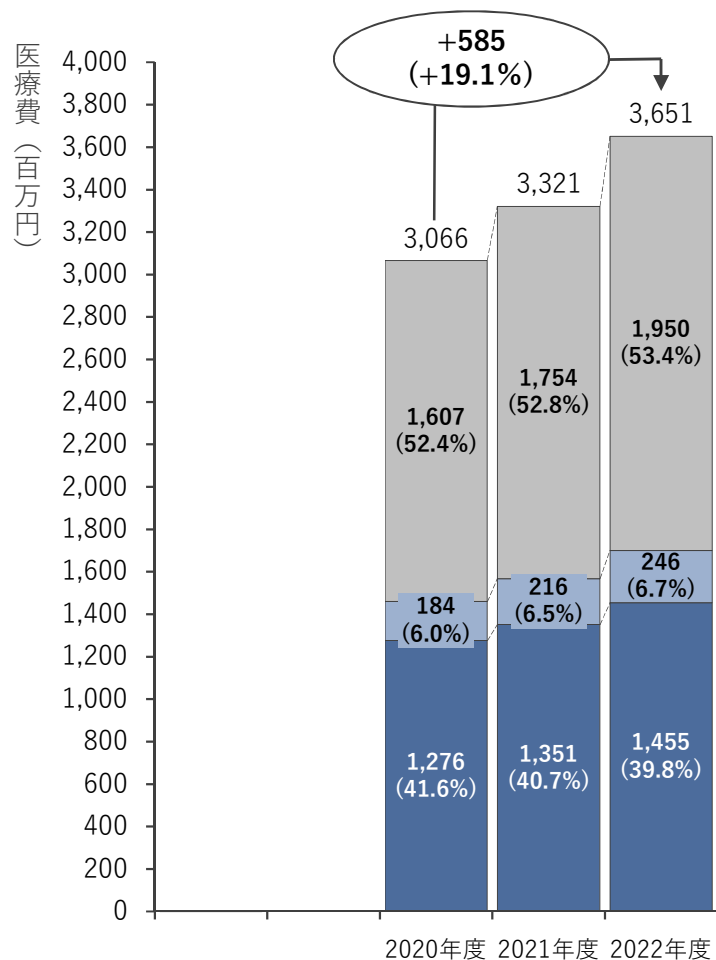
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他組合 2022年度
男性	42.4歳	42.6歳	43.2歳	43.6歳	43.7歳	43.6歳
女性	41.6歳	42.1歳	42.5歳	43.3歳	44.0歳	41.0歳
全体	42.3歳	42.6歳	43.1歳	43.6歳	43.8歳	42.7歳

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他組合 2022年度
男性	14.1歳	14.1歳	14.0歳	14.4歳	14.3歳	17.1歳
女性	28.6歳	28.7歳	28.9歳	29.1歳	29.3歳	31.4歳
全体	23.5歳	23.5歳	23.6歳	23.9歳	24.0歳	26.2歳

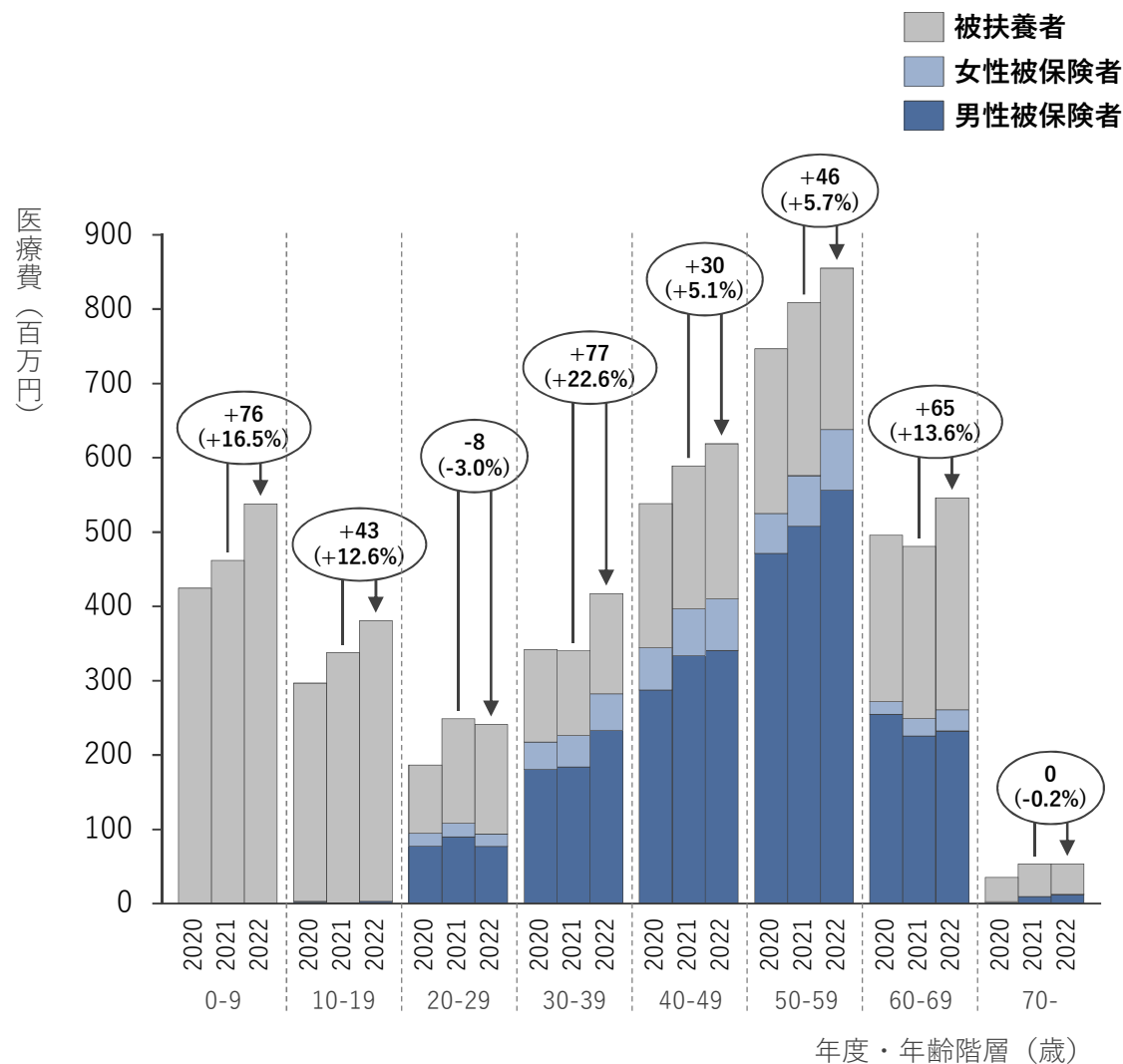
# 医療費分析 〈総医療費〉

直近3か年において、医療費の増加がみられた。

## 年度別 医療費推移



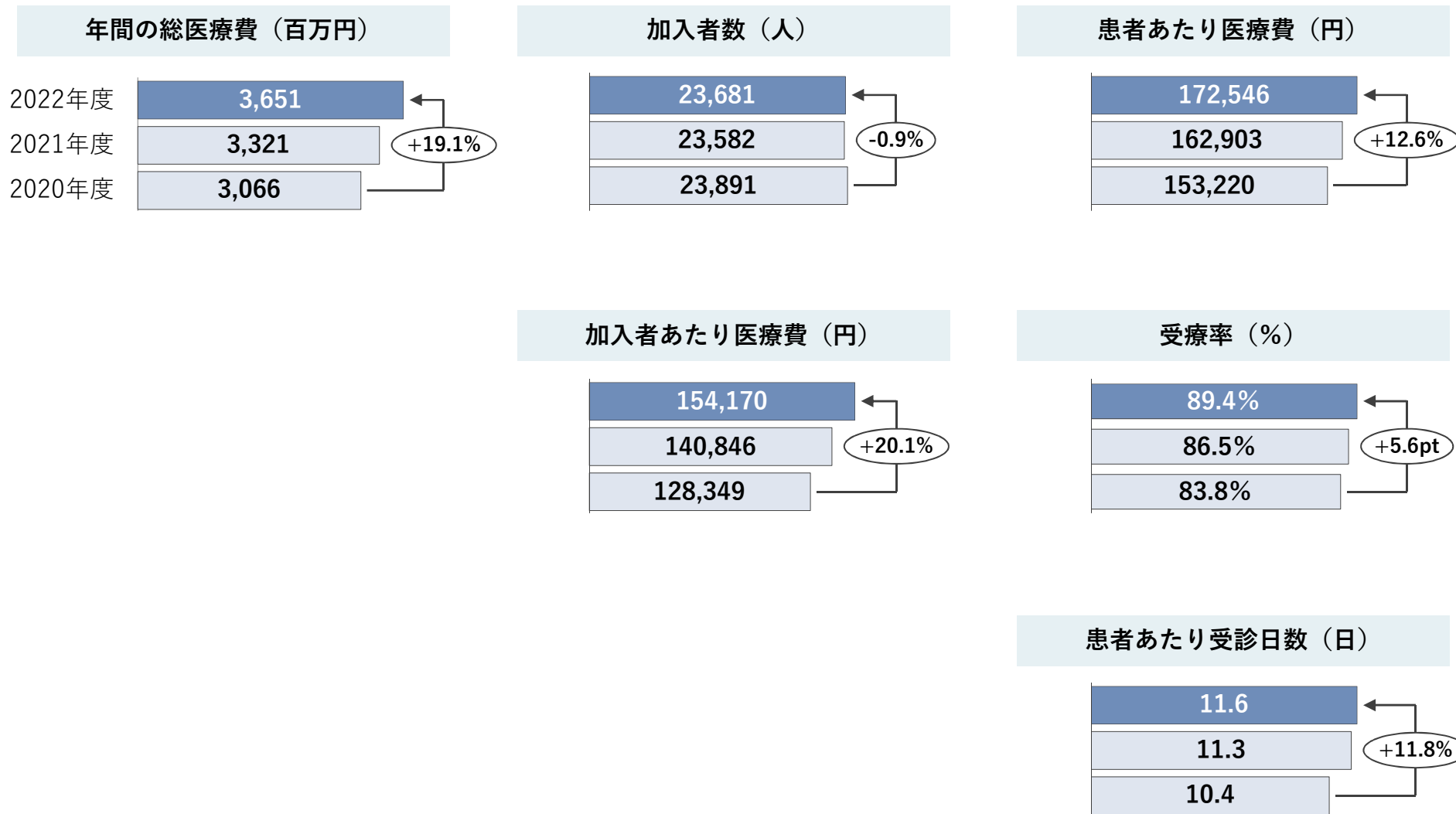
## 年度/年齢階層別 医療費推移



# 医療費分析 〈医療費因数分解〉

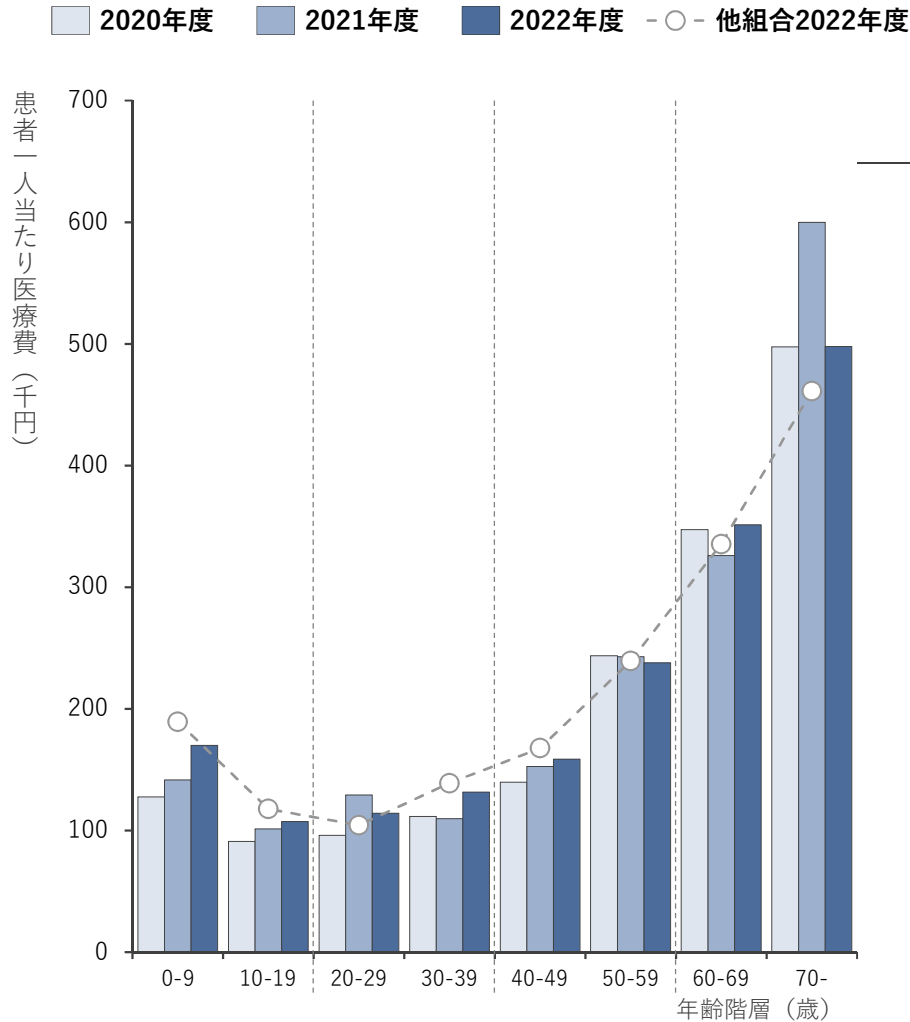
※〇〇% : 変化率  
 ※〇〇pt : 変化値

直近3か年において総医療費の増加がみられた。要因としては患者あたり医療費ならびに受療率の上昇が原因として考えられる。

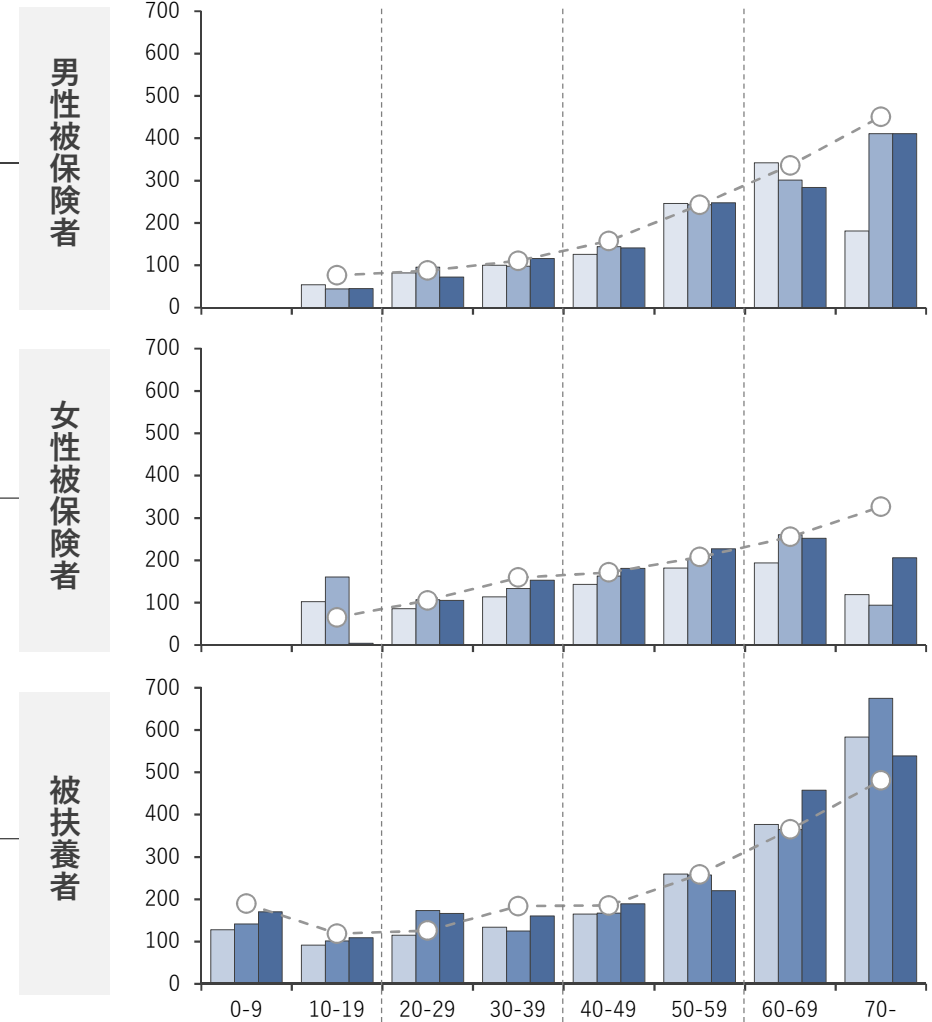


# 医療費分析 〈患者あたり医療費〉

## 健保全体 年齢階層別患者あたり医療費



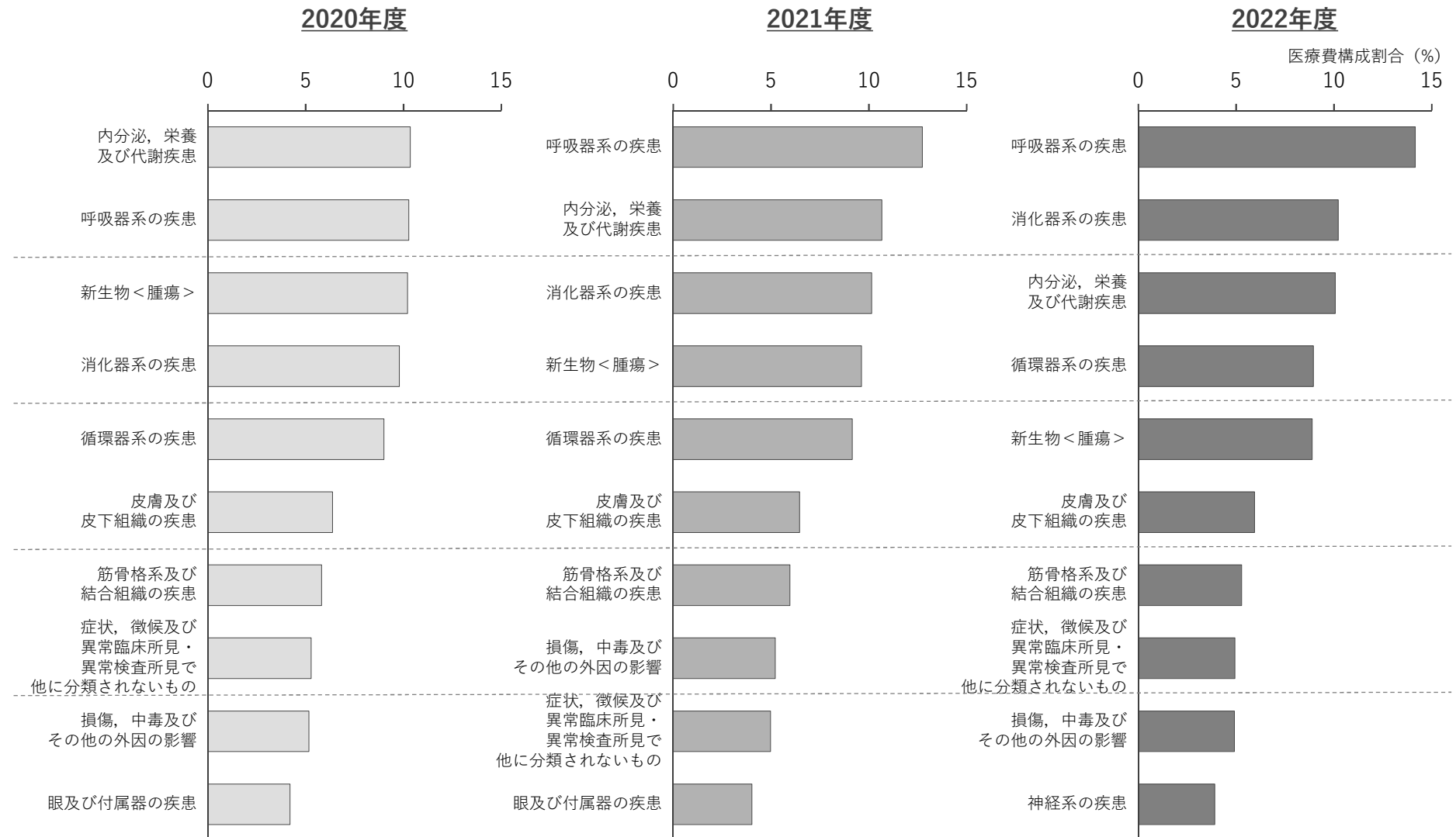
## 属性毎 年齢階層別患者あたり医療費



# 疾病分析 〈ICD10大分類別 医療費構成割合 上位10〉

※医療費抽出方法：PDM法  
 ※対象レセプト：医科、調剤  
 ※疑い傷病：含む

新型コロナウイルスの流行に関連して呼吸器系の疾患の割合が高い他、内分泌・循環器等の生活習慣病関連疾患やがん関連の疾患が上位を占めた。

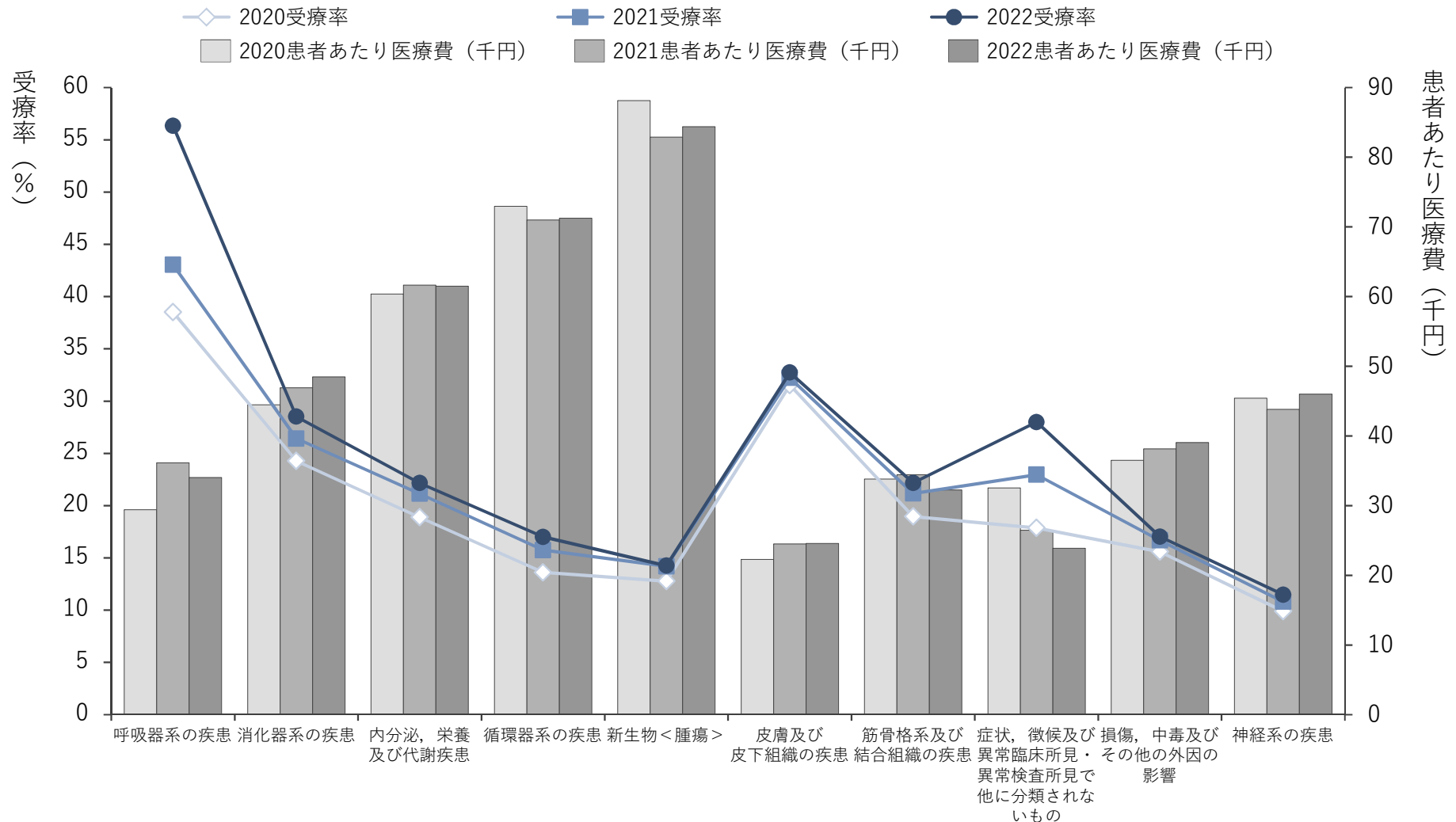


# 疾病分析

## 〈ICD10大分類別 医療費構成割合上位10の受療率と患者あたり医療費〉

※医療費抽出方法：PDM法  
 ※対象レセプト：医科、調剤  
 ※疑い傷病：含む

生活習慣病・がん関連の疾患は受療率が他の疾患と比べて高くないが、一方で患者あたり医療費は高く、患者あたりの医療費に与える影響度の高さがうかがえる。

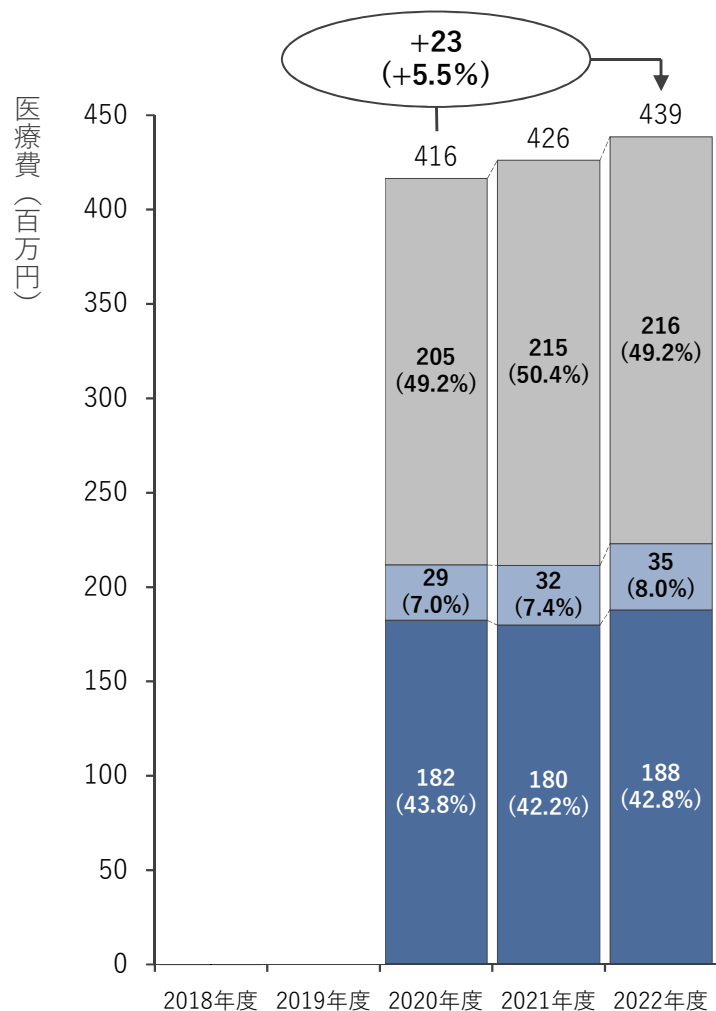


# 疾病分析 〈歯科 総医療費〉

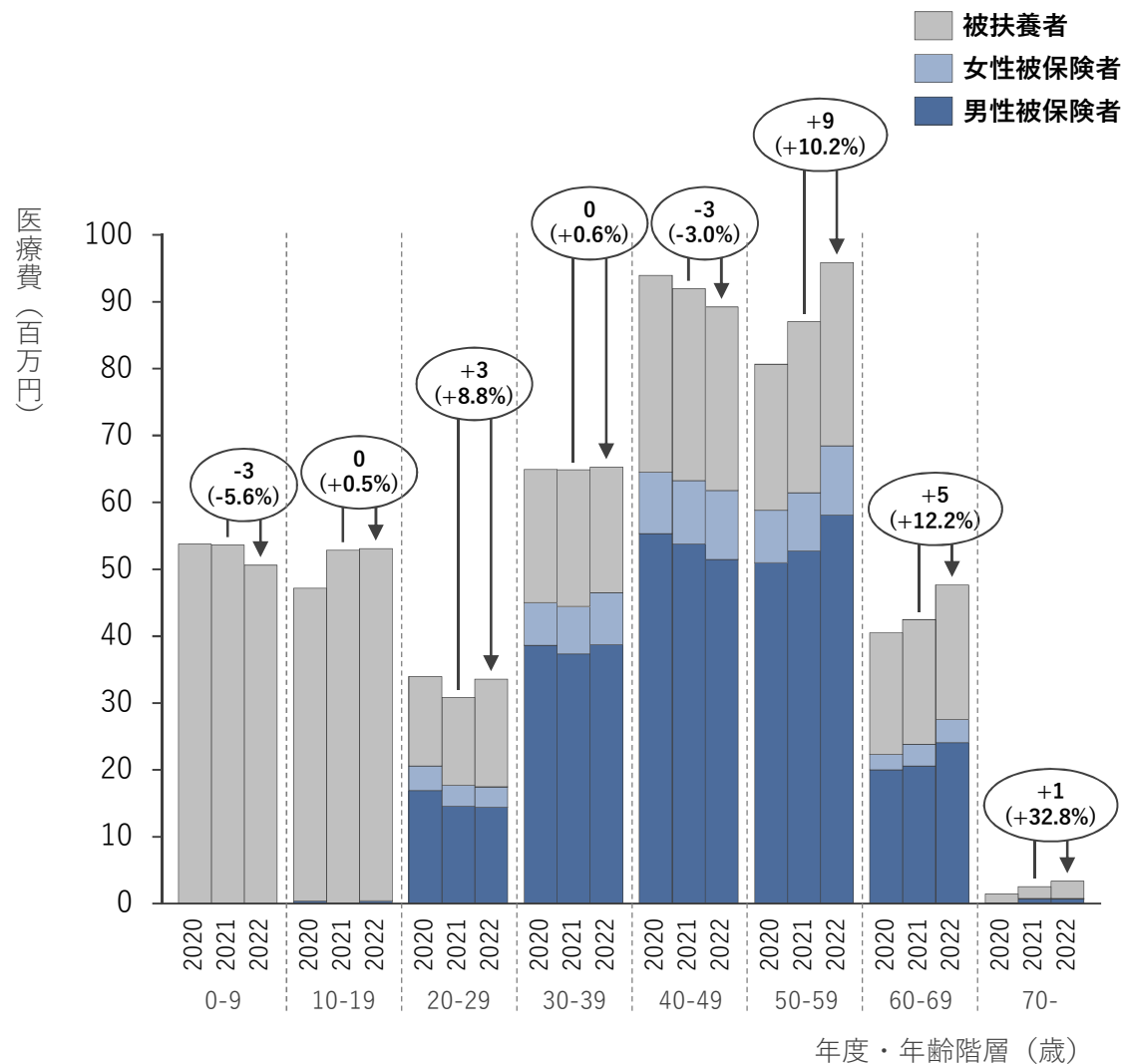
※対象レセプト：歯科

歯科の総医療費は直近3年間で上昇傾向となっており、特に50-59歳の医療費増が目立っている。

### 年度別 医療費推移

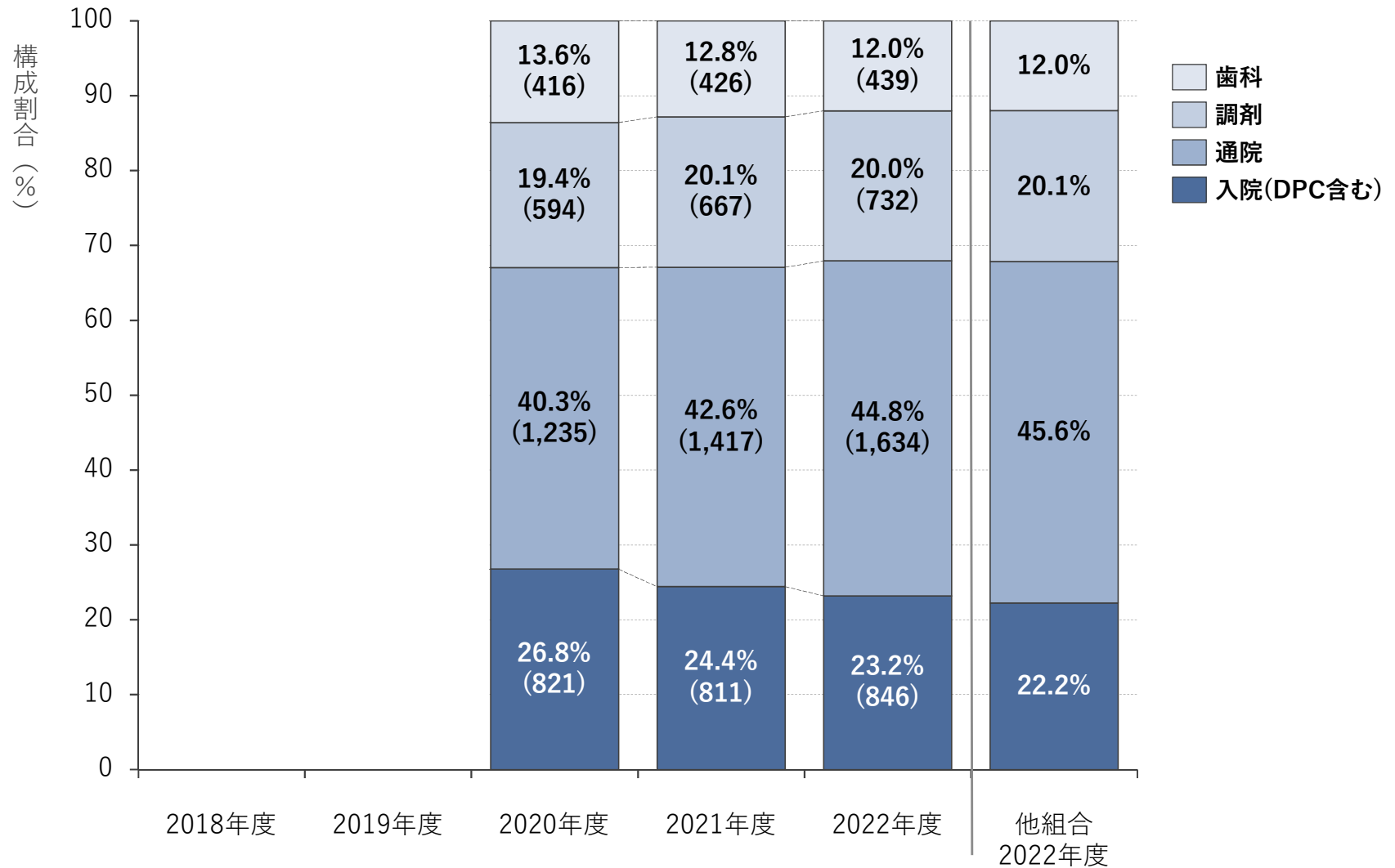


### 年度/年齢階層別 医療費推移



# 医療費分析 〈レセプト種別毎 医療費構成割合〉

歯科の総医療費は全体の12%を占める



( ) 内は医療費 (百万円)

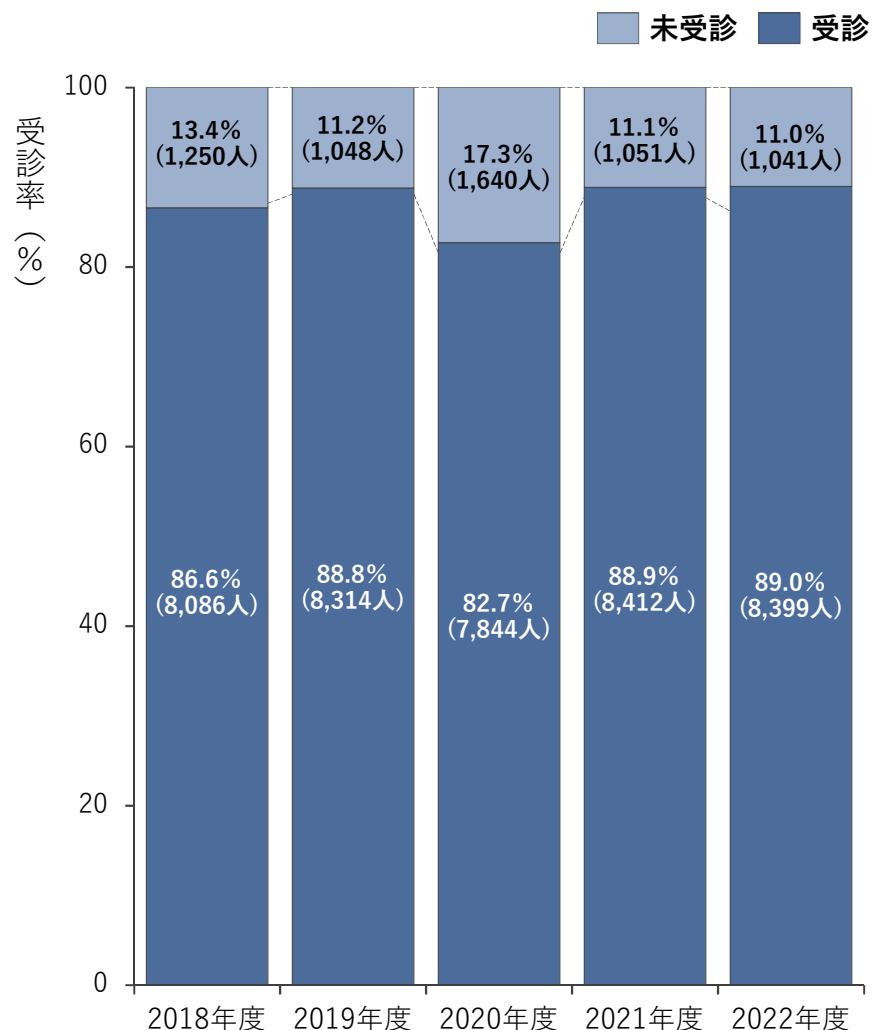


# 行動特性 〈年度別 特定健診受診率〉

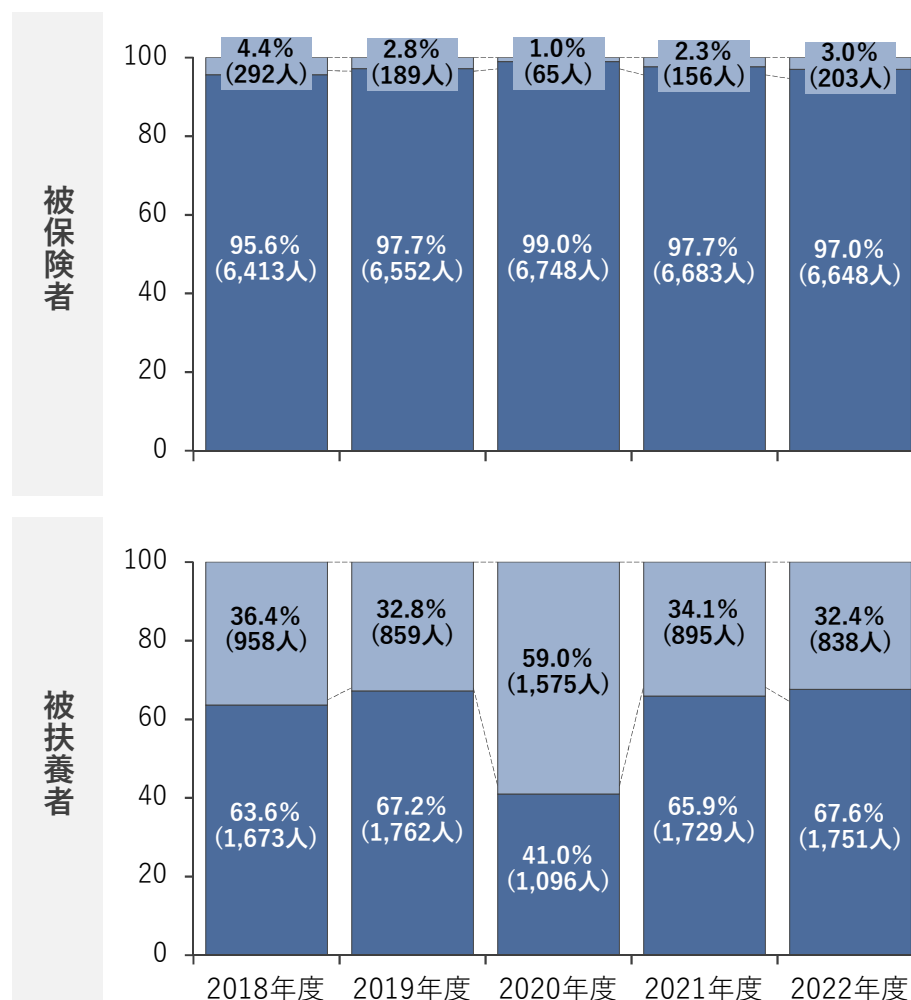
※対象：各年度継続在籍者  
 ※年齢：各年度末40歳以上

2020年度に被扶養者の受診率の低下があったが、翌年度以降は回復した。

### 年度別 健診受診率（全体）



### 年度別 健診受診率（被保険者・被扶養者別）



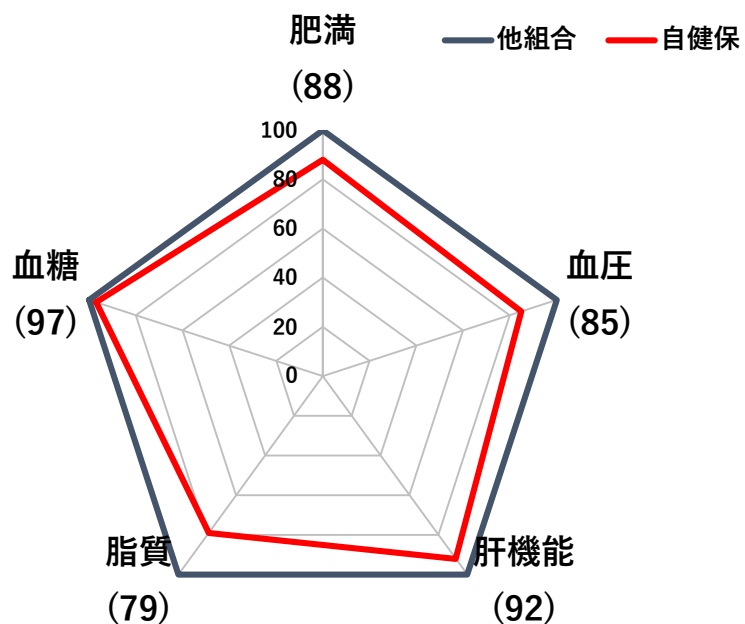
# 健診・問診分析サマリ 〈被保険者全体〉

※年度：2022年度  
 ※対象：被保険者  
 ※年齢：2022年度末40歳以上

他組合と比較したとき、健康状況は血糖を除きリスク者の割合がいずれも高い。  
 また生活習慣では運動のリスク者が全体の3/4を占めており、続いて睡眠・喫煙についても注意したい。

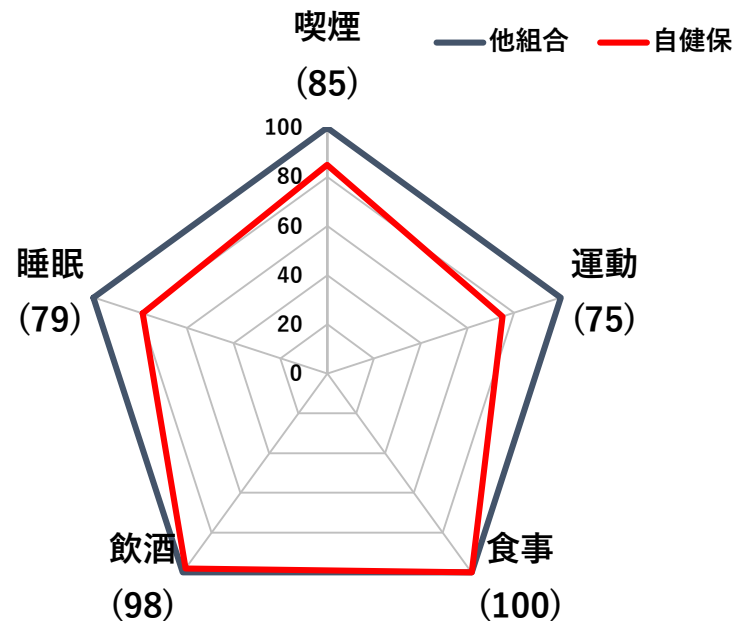
## 健康状況

※グラフが外側に広がるほど良好



## 生活習慣

( ) 内はスコア



		肥満	血圧	肝機能	脂質	血糖
自健保	スコア	88	85	92	79	97
	非リスク者数	3,378	3,748	4,158	4,822	4,279
	リスク者数	3,333	2,963	2,548	1,884	2,427
	リスク者割合	49.7%	44.2%	38.0%	28.1%	36.2%
他組合	リスク者割合	43.9%	37.7%	34.9%	22.2%	35.1%

		喫煙	運動	食事	飲酒	睡眠
自健保	スコア	85	75	100	98	79
	非リスク者数	4,162	1,535	4,162	5,503	3,072
	リスク者数	2,545	4,746	1,910	773	3,210
	非リスク者割合	62.1%	24.4%	68.5%	87.7%	48.9%
他組合	非リスク者割合	72.8%	32.8%	68.8%	89.2%	62.2%

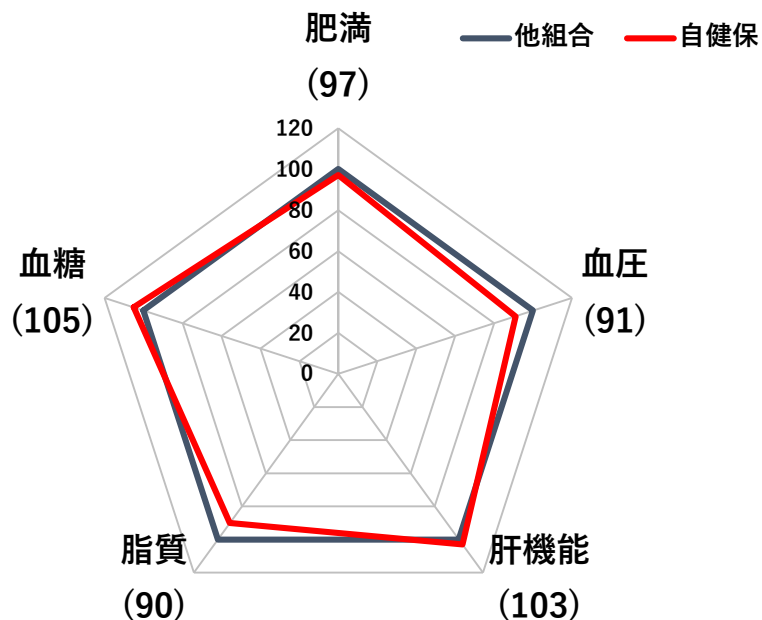
# 健診・問診分析サマリ 〈男性被保険者〉

※年度：2022年度  
 ※対象：男性被保険者  
 ※年齢：2022年度末40歳以上

男性被保険者では他組合比較において、健康状況で血圧・脂質のリスク者割合が高く、生活習慣で被保険者全体と同じく運動、睡眠、喫煙のリスク者割合が高い。

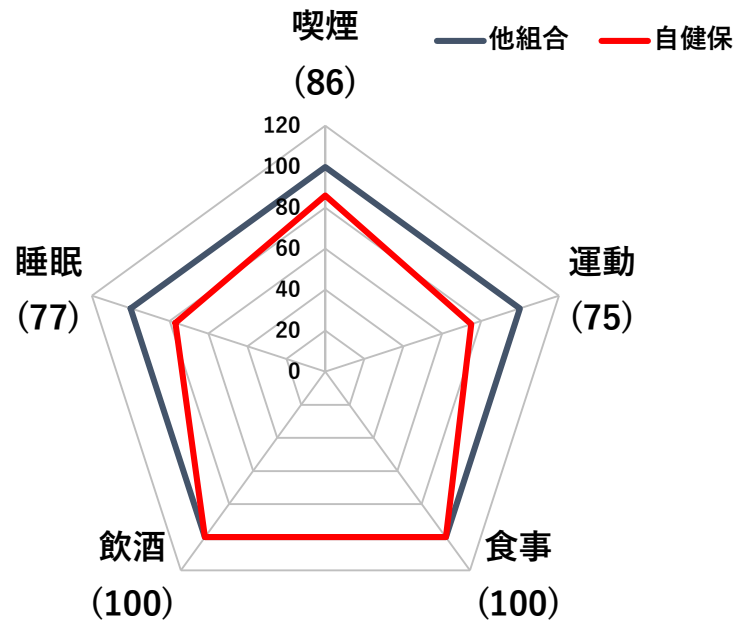
## 健康状況

※グラフが外側に広がるほど良好



## 生活習慣

( ) 内はスコア



		肥満	血圧	肝機能	脂質	血糖
自健保	スコア	97	91	103	90	105
	非リスク者数	2,740	3,150	3,446	4,085	3,628
	リスク者数	3,118	2,708	2,407	1,768	2,225
	リスク者割合	53.2%	46.2%	41.1%	30.2%	38.0%
他組合	リスク者割合	51.5%	41.9%	42.4%	27.1%	39.9%

		喫煙	運動	食事	飲酒	睡眠
自健保	スコア	86	75	100	100	77
	非リスク者数	3,423	1,396	3,595	4,706	2,705
	リスク者数	2,431	4,057	1,689	744	2,749
	非リスク者割合	58.5%	25.6%	68.0%	86.3%	49.6%
他組合	非リスク者割合	67.7%	34.3%	68.1%	86.6%	64.6%

# 健診・問診分析サマリ 〈女性被保険者〉

※年度：2022年度  
 ※対象：女性被保険者  
 ※年齢：2022年度末40歳以上

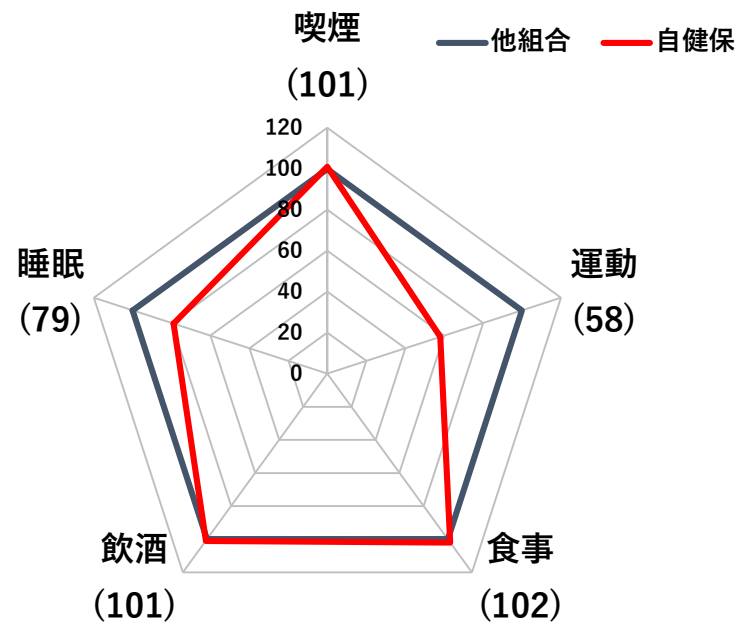
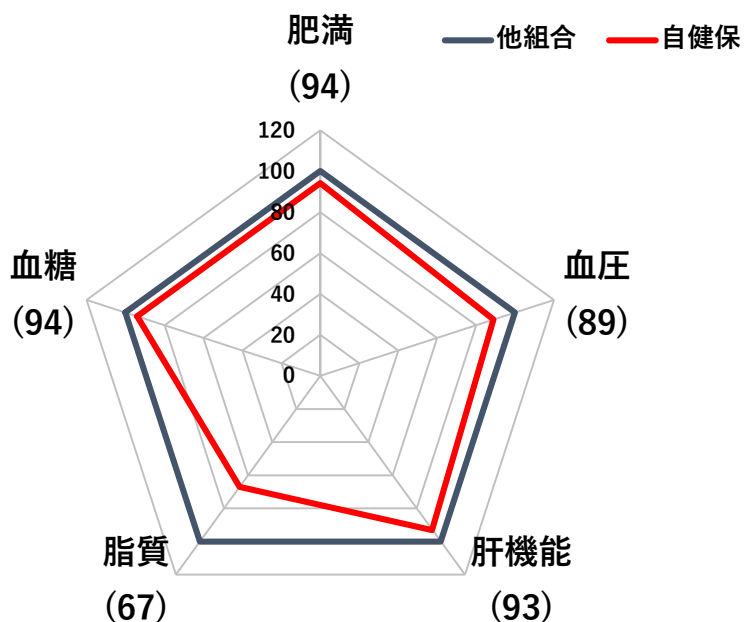
女性被保険者では他組合比較において、健康状況で全体的にリスク者割合が高いが特に脂質に注意が必要である。また生活習慣で喫煙は他組合並ではあるが、特に運動、次いで睡眠のリスク者割合が高い。

## 健康状況

## 生活習慣

※グラフが外側に広がるほど良好

( ) 内はスコア



		肥満	血圧	肝機能	脂質	血糖
自健保	スコア	94	89	93	67	94
	非リスク者数	638	598	712	737	651
	リスク者数	215	255	141	116	202
	リスク者割合	25.2%	29.9%	16.5%	13.6%	23.7%
他組合	リスク者割合	23.8%	26.6%	15.4%	9.1%	22.4%

		喫煙	運動	食事	飲酒	睡眠
自健保	スコア	101	58	102	101	79
	非リスク者数	739	139	567	797	367
	リスク者数	114	689	221	29	461
	非リスク者割合	86.6%	16.8%	72.0%	96.5%	44.3%
他組合	非リスク者割合	86.0%	28.9%	70.5%	95.9%	55.8%

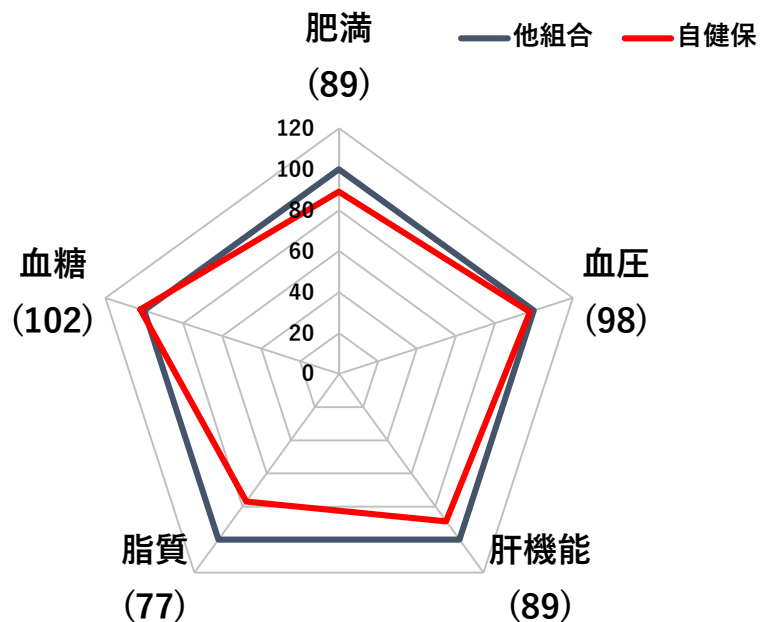
# 健診・問診分析サマリ 〈被扶養者全体〉

※年度：2022年度  
 ※対象：被扶養者  
 ※年齢：2022年度末40歳以上

被扶養者全体では、健康状況は被保険者と状況が近く、血糖と血圧以外のリスク者割合が他組合より高く、また生活習慣の各リスク者割合は他組合並であった。

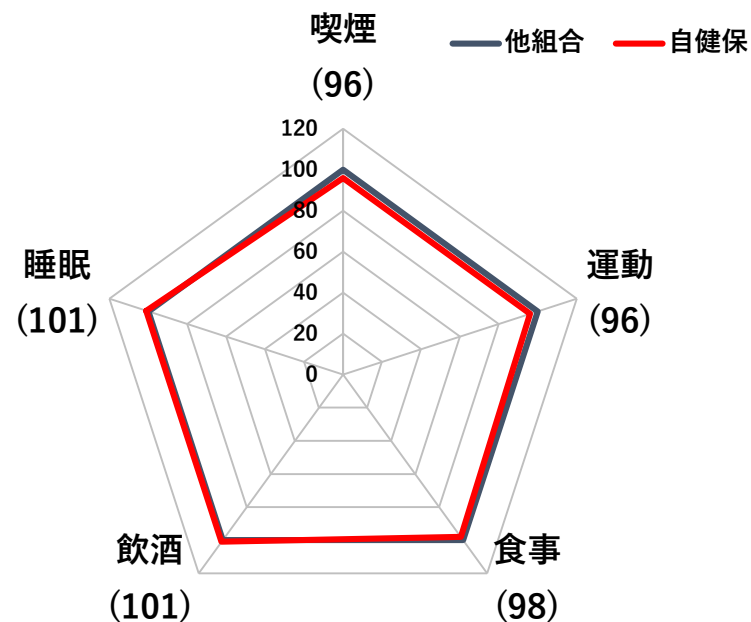
## 健康状況

※グラフが外側に広がるほど良好



## 生活習慣

( ) 内はスコア



		肥満	血圧	肝機能	脂質	血糖
自健保	スコア	89	98	89	77	102
	非リスク者数	1,379	1,276	1,509	1,604	1,393
	リスク者数	488	591	355	260	471
	リスク者割合	26.1%	31.7%	19.0%	13.9%	25.3%
他組合	リスク者割合	23.3%	30.9%	16.9%	10.7%	25.7%

		喫煙	運動	食事	飲酒	睡眠
自健保	スコア	96	96	98	101	101
	非リスク者数	1,685	584	1,320	1,597	1,149
	リスク者数	182	1,037	299	41	470
	非リスク者割合	90.3%	36.0%	81.5%	97.5%	71.0%
他組合	非リスク者割合	93.6%	37.5%	83.3%	96.7%	70.5%

# サマリ定義

## 【健康状況】

$$\text{リスク者割合} = \frac{\text{リスク者の判定基準}^{\ast 1} \text{該当者人数}}{\text{当該検査項目実施者数}}$$

$$\text{スコア} = \frac{\text{他健保のリスク者割合}}{\text{自健保のリスク者割合}} \times 100$$

※1 リスク者の判定基準（保健指導判定基準）

- 肥満（内臓脂肪型肥満のリスク者）  
BMI25以上、または腹囲85cm(男性)・90cm(女性)以上
- 血圧（高血圧のリスク者）  
収縮期130mmHg以上、または拡張期85mmHg以上
- 肝機能（肝機能異常症のリスク者）  
AST 31U/L以上、またはALT 31U/L以上、またはγ-GT 51U/L以上
- 脂質（脂質異常症のリスク者）  
中性脂肪150mg/dl以上、またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- 血糖（糖尿病のリスク者）  
空腹時血糖値100mg/dl以上、またはHbA1c 5.6%以上  
(空腹時血糖及びHbA1cの両方を測定している場合は、空腹時血糖値を優先)

## 【生活習慣】

$$\text{非リスク者割合} = \frac{\text{非リスク者の判定基準}^{\ast 2} \text{該当者人数}}{\text{当該問診項目回答者数}}$$

$$\text{スコア} = \frac{\text{自健保の非リスク者割合}}{\text{他健保の非リスク者割合}} \times 100$$

※2 非リスク者の判定基準

- 喫煙：問診「現在、たばこを習慣的に吸っている」に「いいえ」と回答した者
- 運動：運動習慣に関する3つの問診項目<sup>※3</sup>のうち2つ以上が適切
- 食事：食事習慣に関する4つの問診項目<sup>※4</sup>のうち3つ以上が適切
- 飲酒：「多量飲酒群」（以下①または②）に該当しない者  
①飲酒頻度が「毎日」で1日あたり飲酒量が2合以上の者  
②飲酒頻度が「時々」で1日あたり飲酒量が3合以上の者  
\*ただし飲酒頻度と飲酒量のいずれかのみで回答した者のうち、  
飲酒頻度で「ほとんど飲まない（飲めない）」と回答した者、及び  
飲酒量で「1合未満」「1～2合未満」と回答した者は非リスク者とする
- 睡眠：問診「睡眠で休養が十分とれている」に「はい」と回答した者

※3 運動習慣に関する問診項目の「適切」の該当基準

- ①「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施」に「はい」と回答
- ②「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施」に「はい」と回答
- ③「ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い」に「はい」と回答

※4 食事習慣に関する問診項目の「適切」の該当基準

- ①「人と比較して食べる速度が速い」に「ふつう」または「遅い」と回答
- ②「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」に「いいえ」と回答
- ③「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取している」に「時々」または「ほとんど摂取しない」と回答
- ④「朝食を抜くことが週に3回以上ある」に「いいえ」と回答

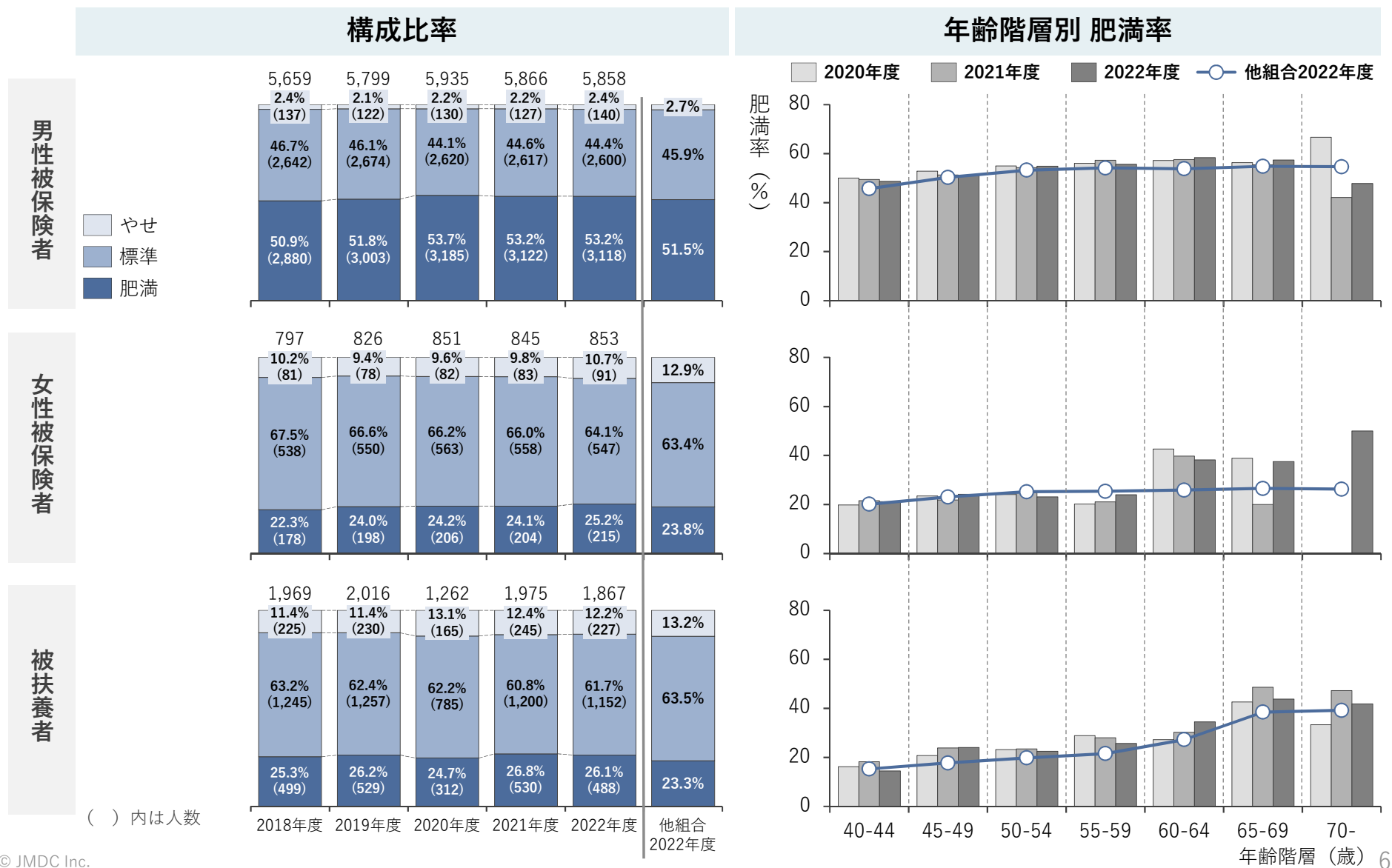
※血糖・食事・飲酒の定義については、厚生労働省の健康スコアリングレポートと異なる

# 健診分析 〈肥満〉

※年齢：各年度末40歳以上

	BMI	腹囲
やせ	<18.5	男性：<85 女性：<90
標準	18.5≦ and <25	
肥満	25≦	男性：85≦ 女性：90≦

男性被保険者で2020年度に若干肥満割合の増加がみられ、その後も依然として他組合より高い状況が続いている。女性被保険者については年々肥満割合が増加している。

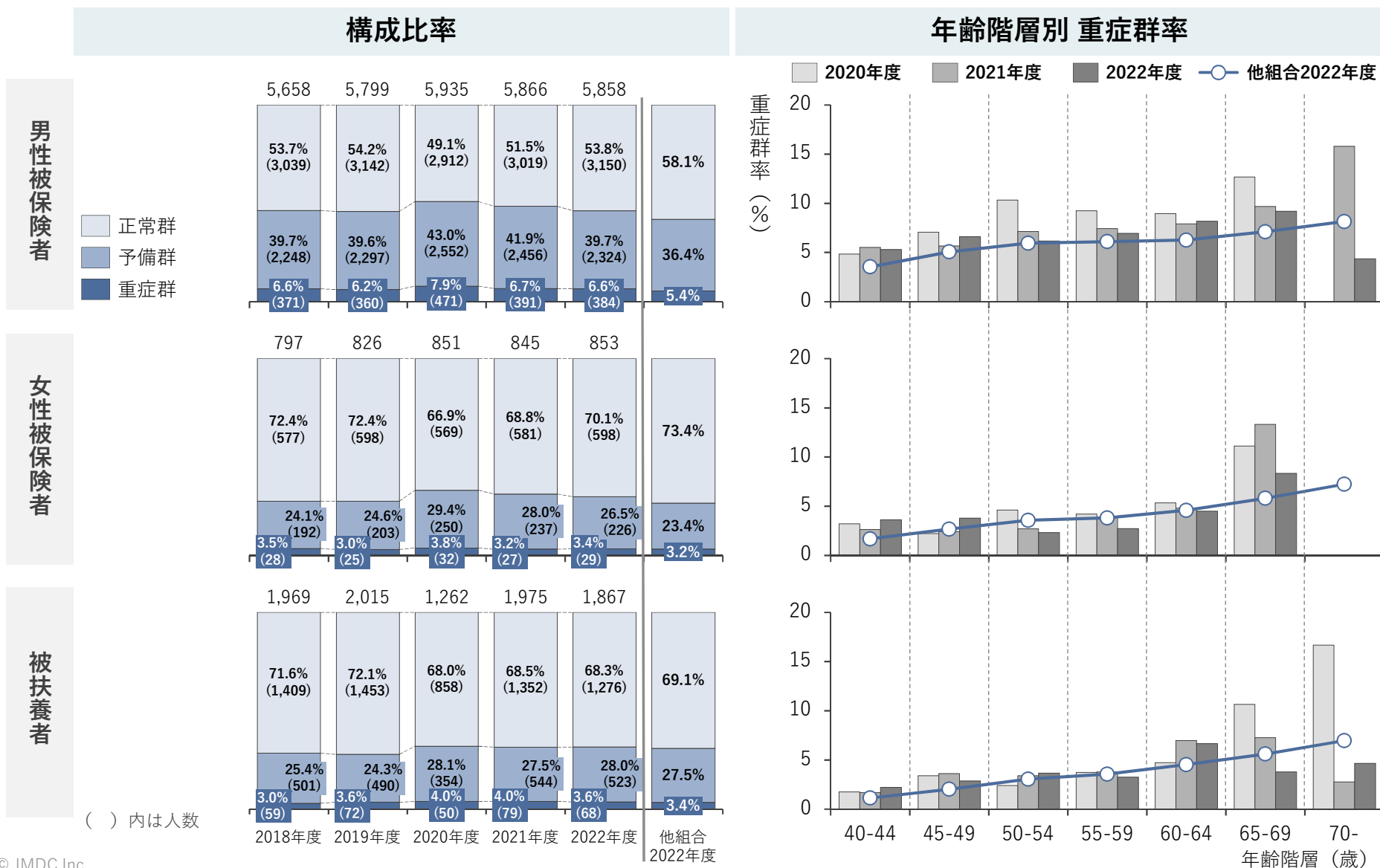


# 健診分析 〈血压〉

	収縮期血圧	拡張期血圧
正常群	<130	<85
予備群	130 ≦ and <160	85 ≦ and <100
重症群	160 ≦	100 ≦

※年齢：各年度末40歳以上

被保険者では男女ともに他組合よりも予備群・重症群の割合は高く、2020年度で予備群の割合は一度増加したが、その後減少がみられる。





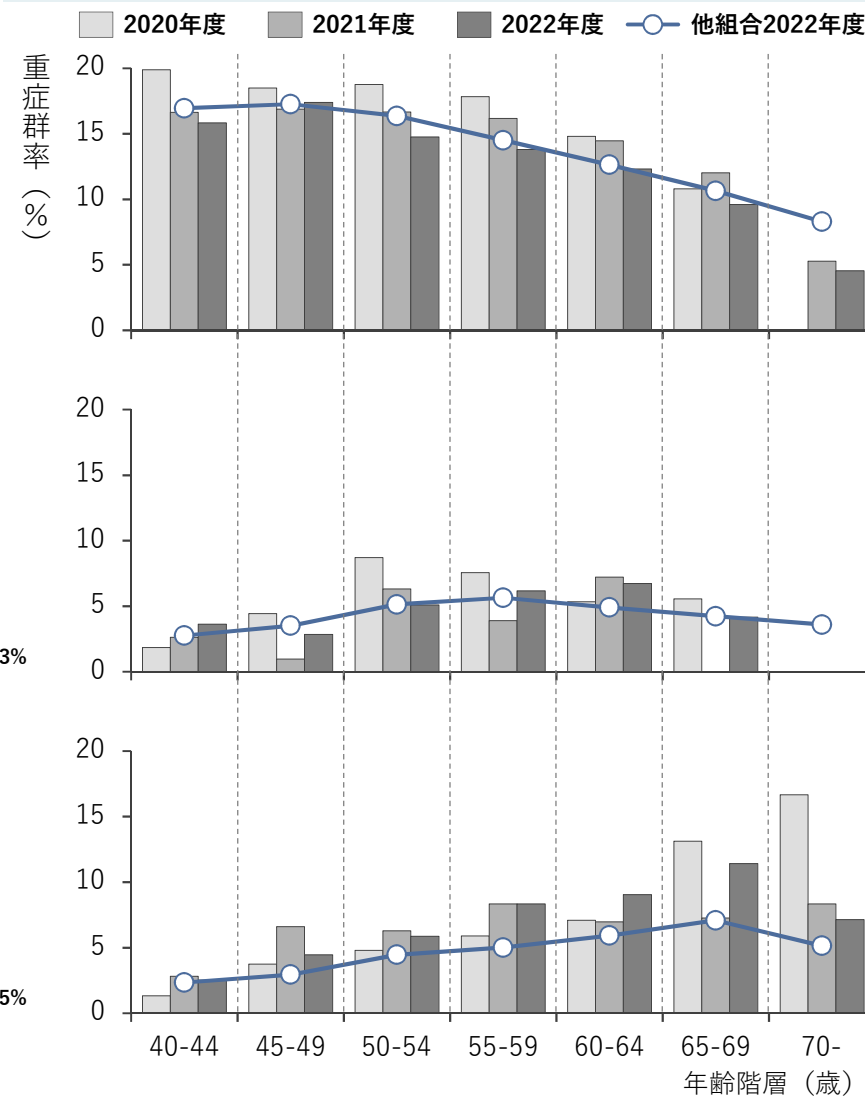
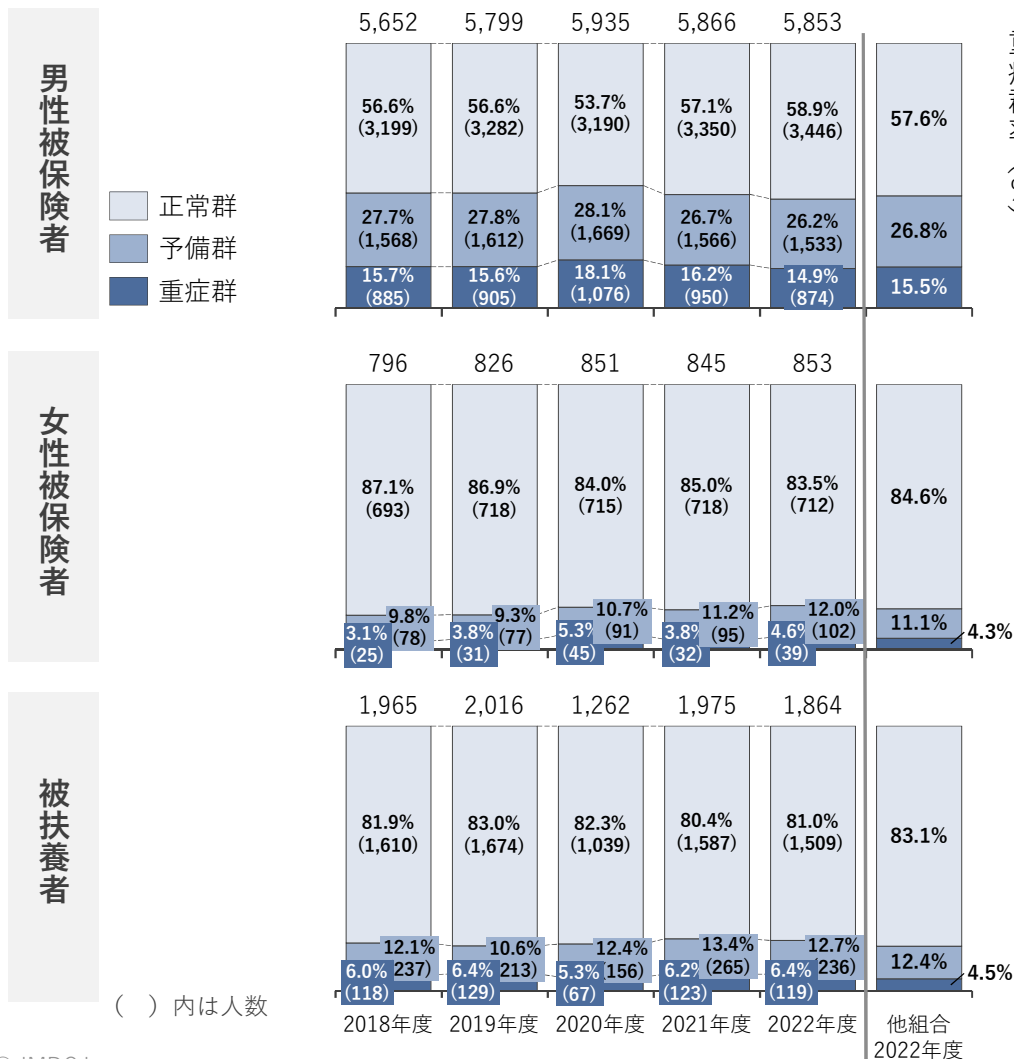
# 健診分析 〈肝機能〉

	AST	ALT	γ-GT
正常群	<31	<31	<51
予備群	31 ≦ and <51	31 ≦ and <51	51 ≦ and <101
重症群	51 ≦	51 ≦	101 ≦

※年齢：各年度末40歳以上

## 構成比率

## 年齢階層別重症群率

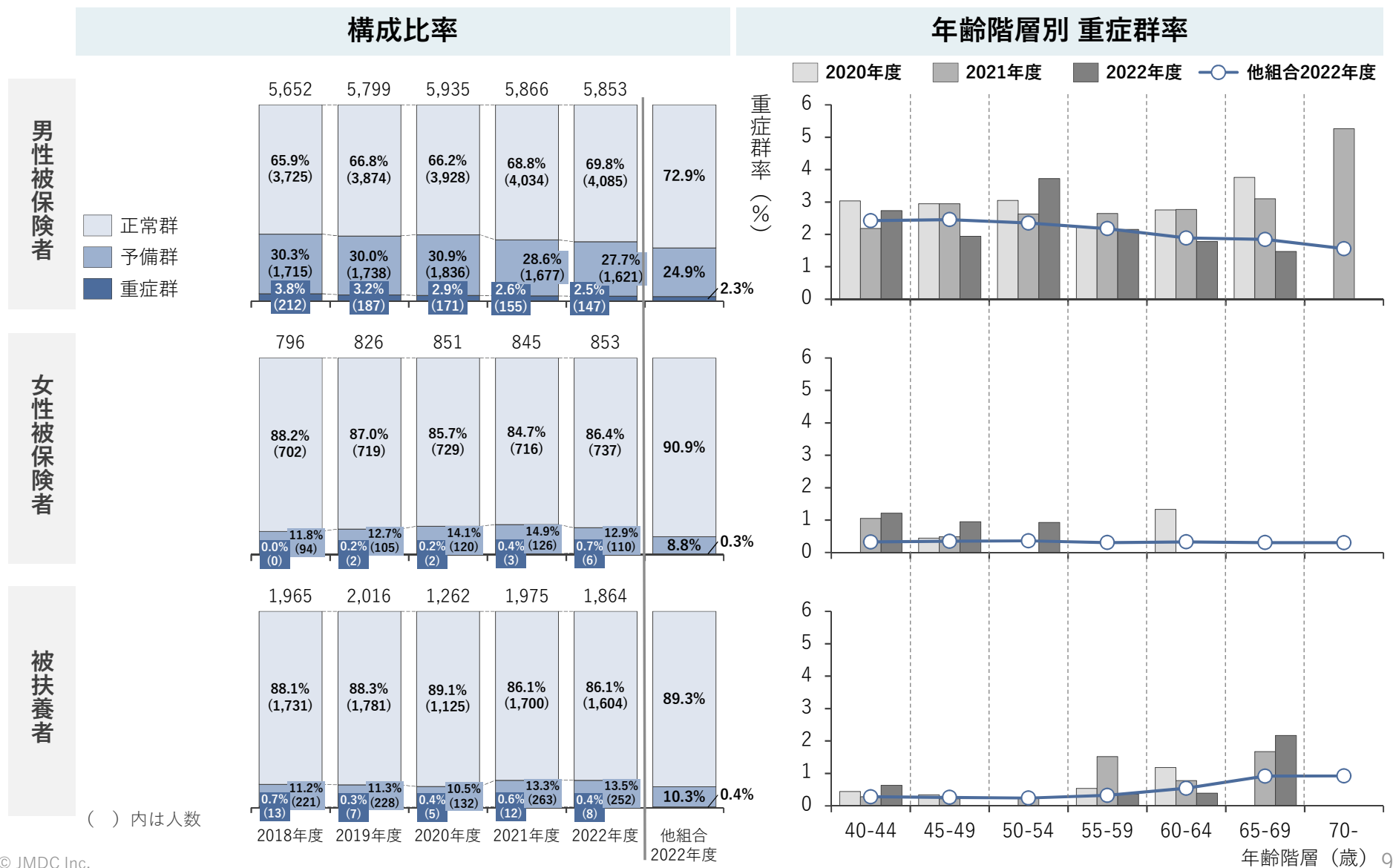


# 健診分析 〈脂質〉

※年齢：各年度末40歳以上

	中性脂肪	HDLコレステロール
正常群	<150	40 ≧
予備群	150 ≧ and <500	35 ≧ and <40
重症群	500 ≧	<35

特にリスク者判定となる予備群の割合が被保険者・被扶養者ともに高い。



# 健診分析 〈血糖〉

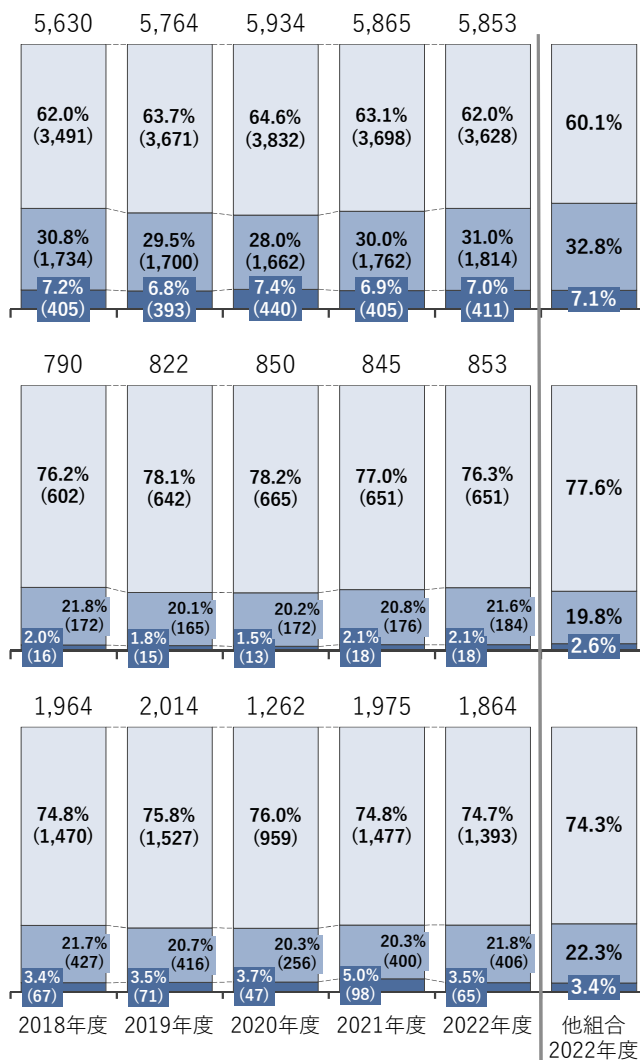
※年齢：各年度末40歳以上  
 ※両方を測定している場合は、空腹時血糖値を優先

	空腹時血糖値	HbA1c
正常群	<100	<5.6
予備群	100 ≦ and <126	5.6 ≦ and <6.5
重症群	126 ≦	6.5 ≦

## 構成比率

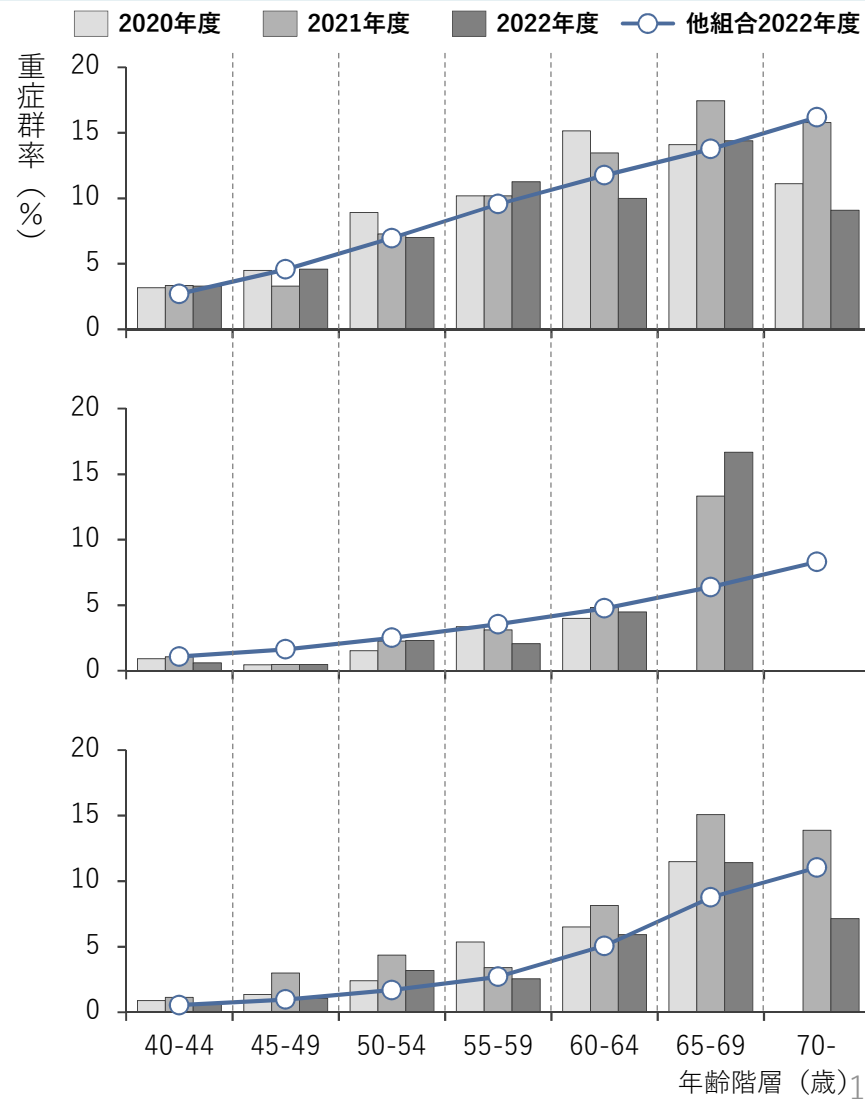
男性被保険者

- 正常群
- 予備群
- 重症群



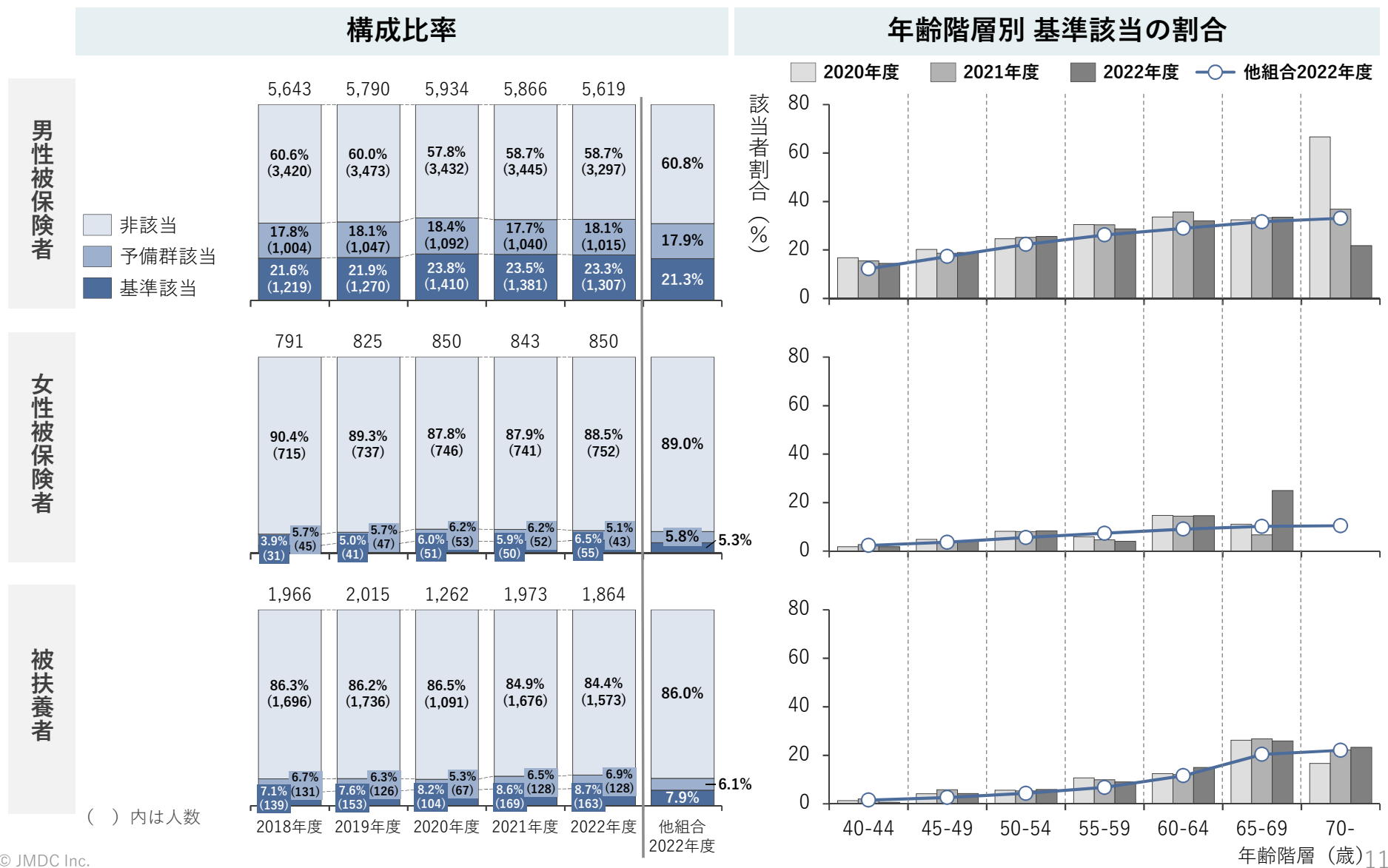
( ) 内は人数

## 年齢階層別 重症群率



# 健診分析 〈メタボリックシンドローム判定〉

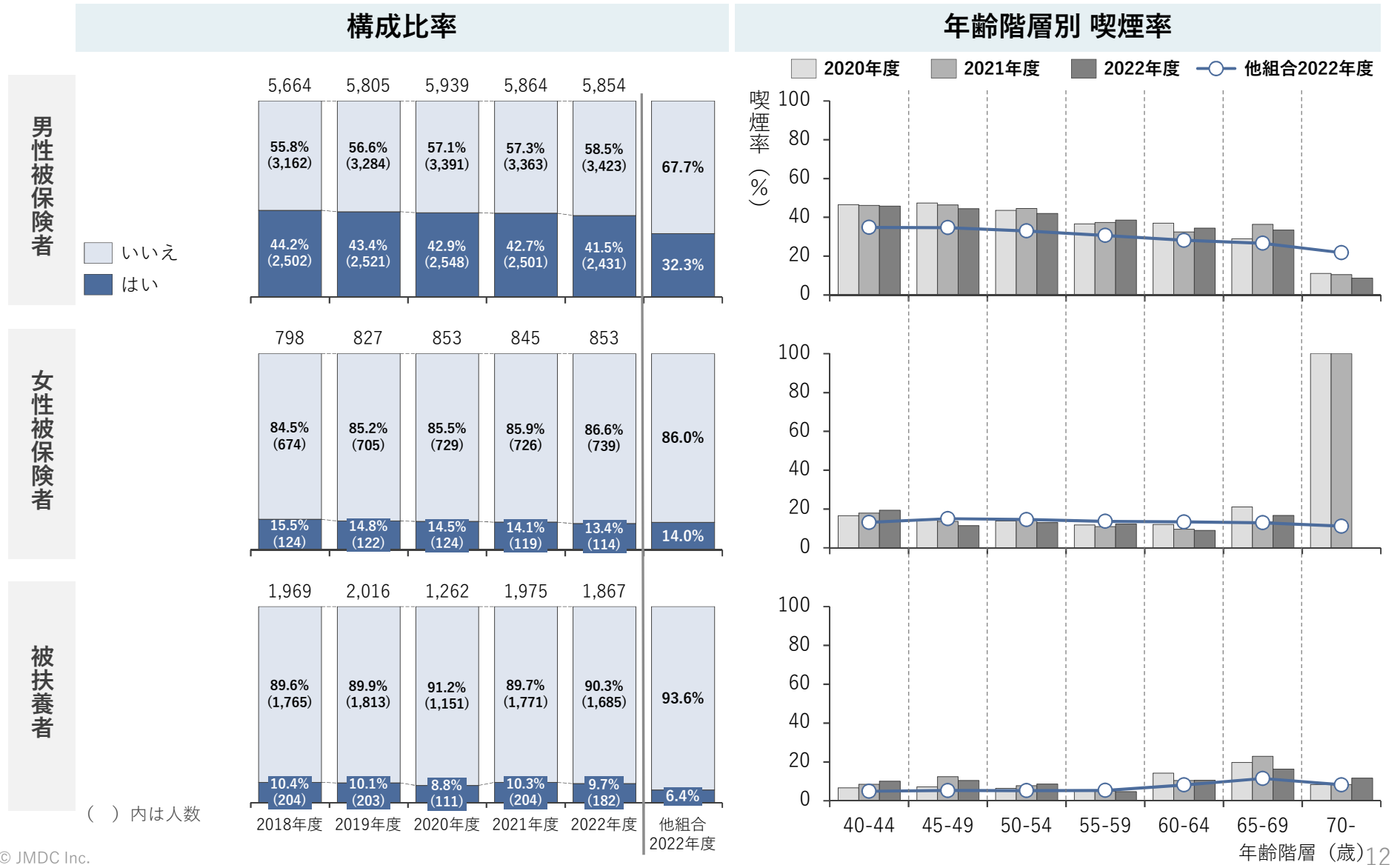
※年齢：各年度末40歳以上



# 問診分析 〈喫煙〉 <現在、たばこを習慣的に吸っていますか>

※年齢：各年度末40歳以上

男性被保険者の喫煙率が高く、他組合よりも10%近く高い結果となった。  
直近5か年で徐々に減少はみられるものの、更なる対策が必要とみられる。

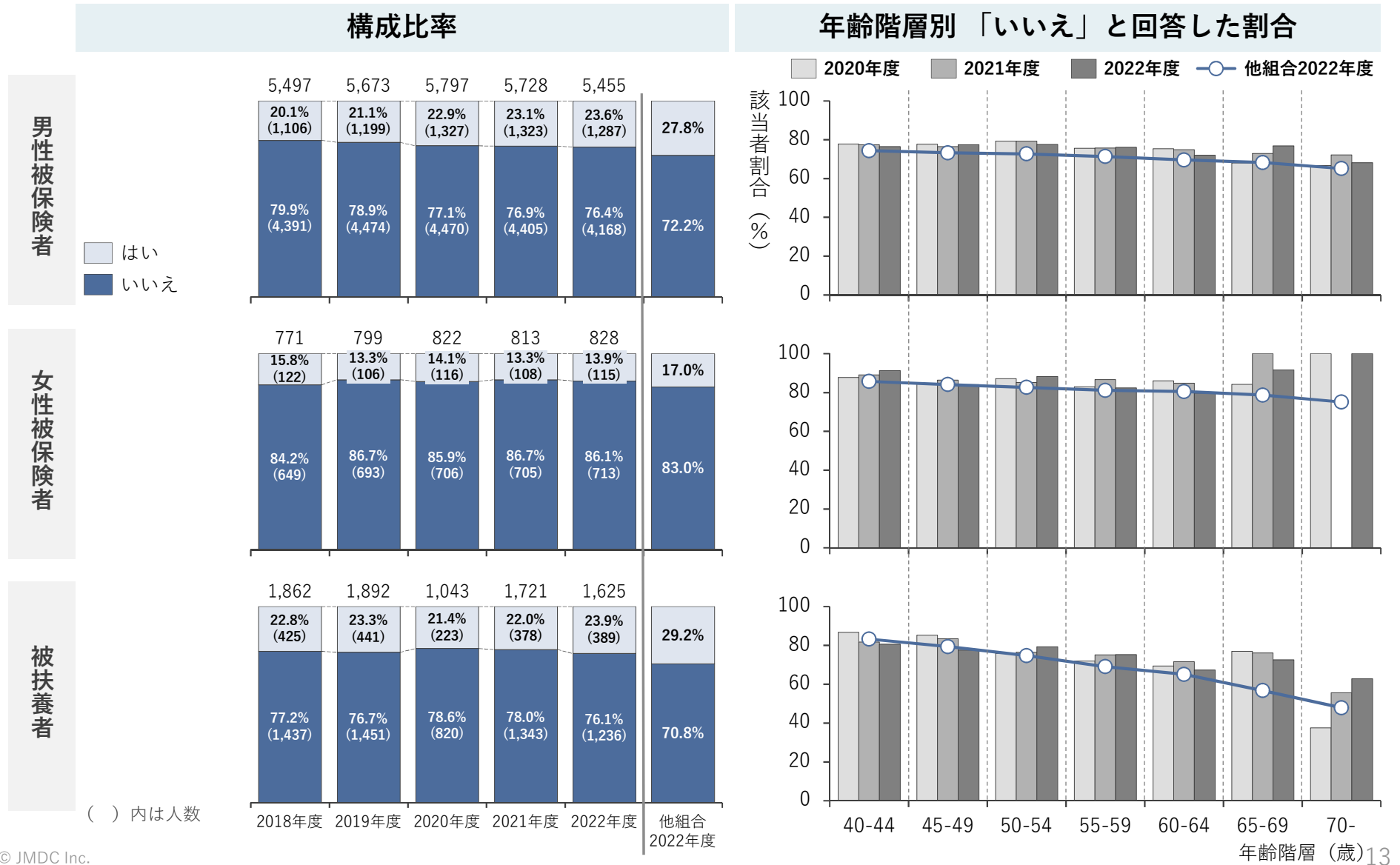


# 問診分析 〈運動-1〉

〈1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施していますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

運動関連について、他組合より習慣がない方の割合が軒並み高く、とくに男性被保険者について微減はみられるが更に促進していきたい。

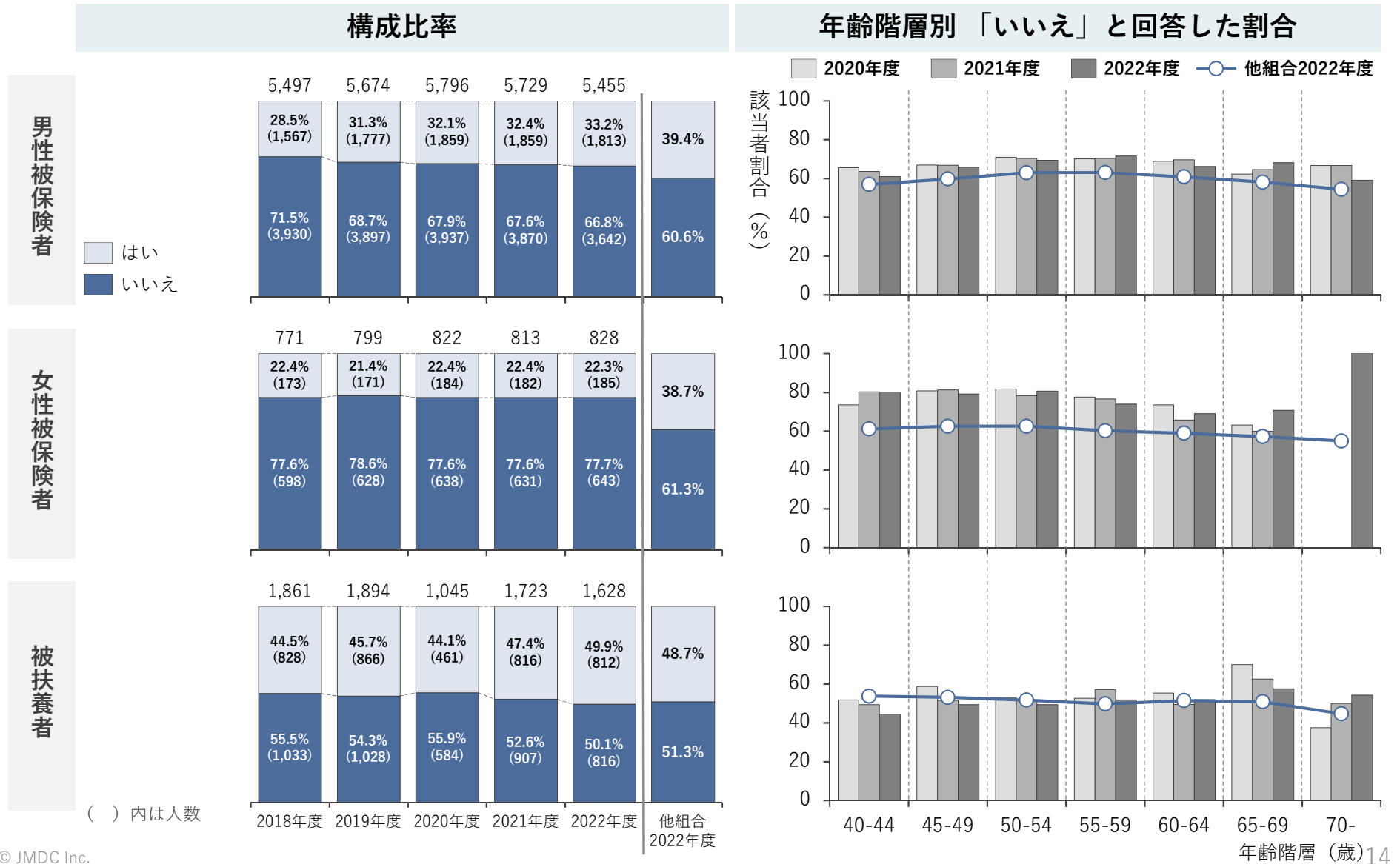


# 問診分析 〈運動-2〉

〈日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

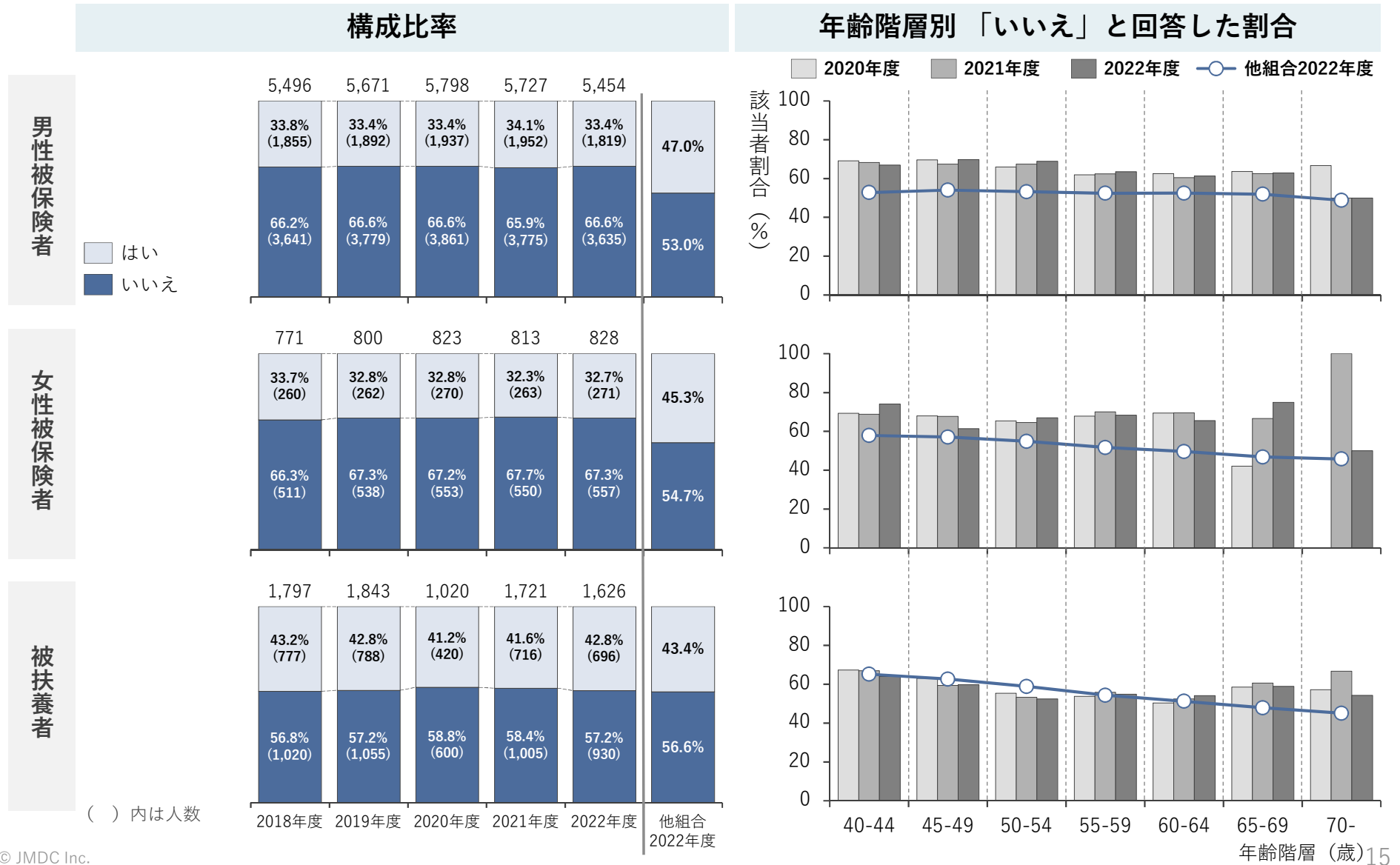
運動関連について、他組合より習慣がない方の割合が軒並み高く、とくに男性被保険者について微減はみられるが更に促進していきたい。



# 問診分析 〈運動-3〉

## <ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速いですか>

※年齢：各年度末40歳以上



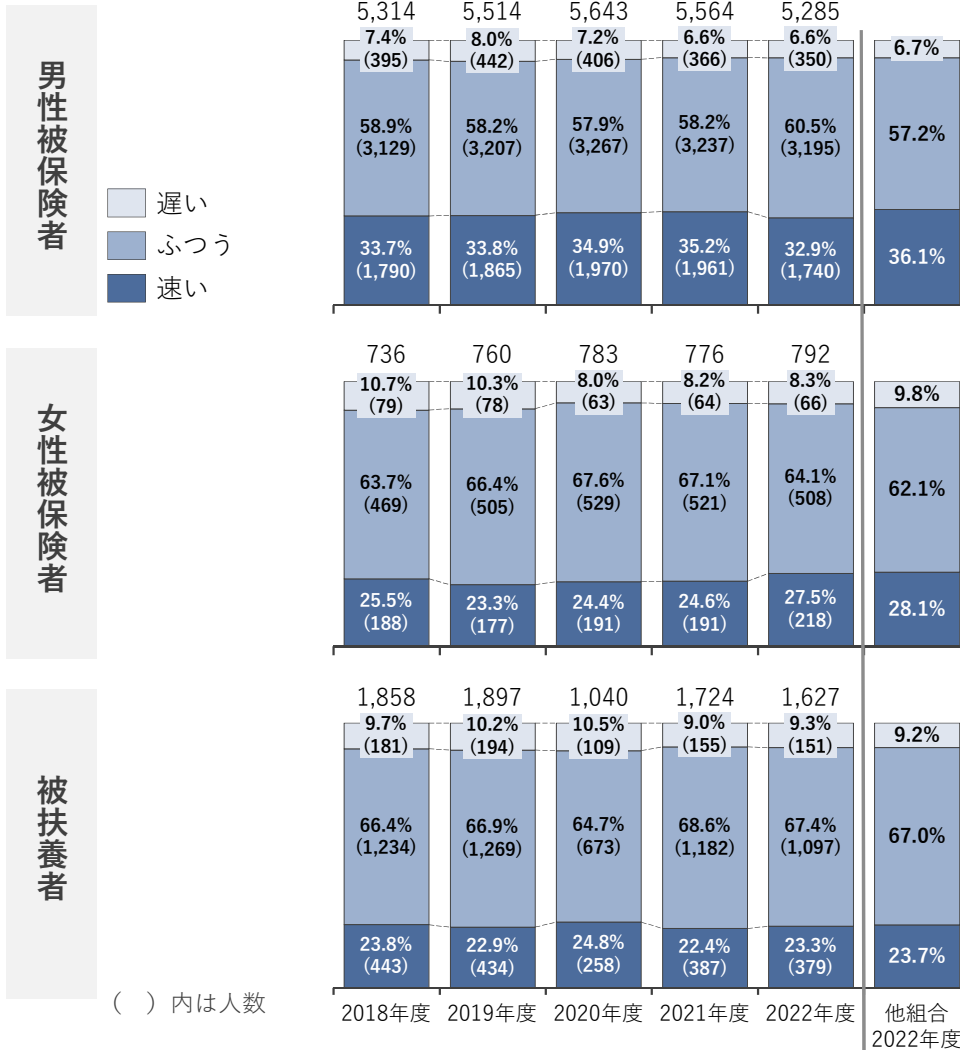


# 問診分析 〈食事-1〉

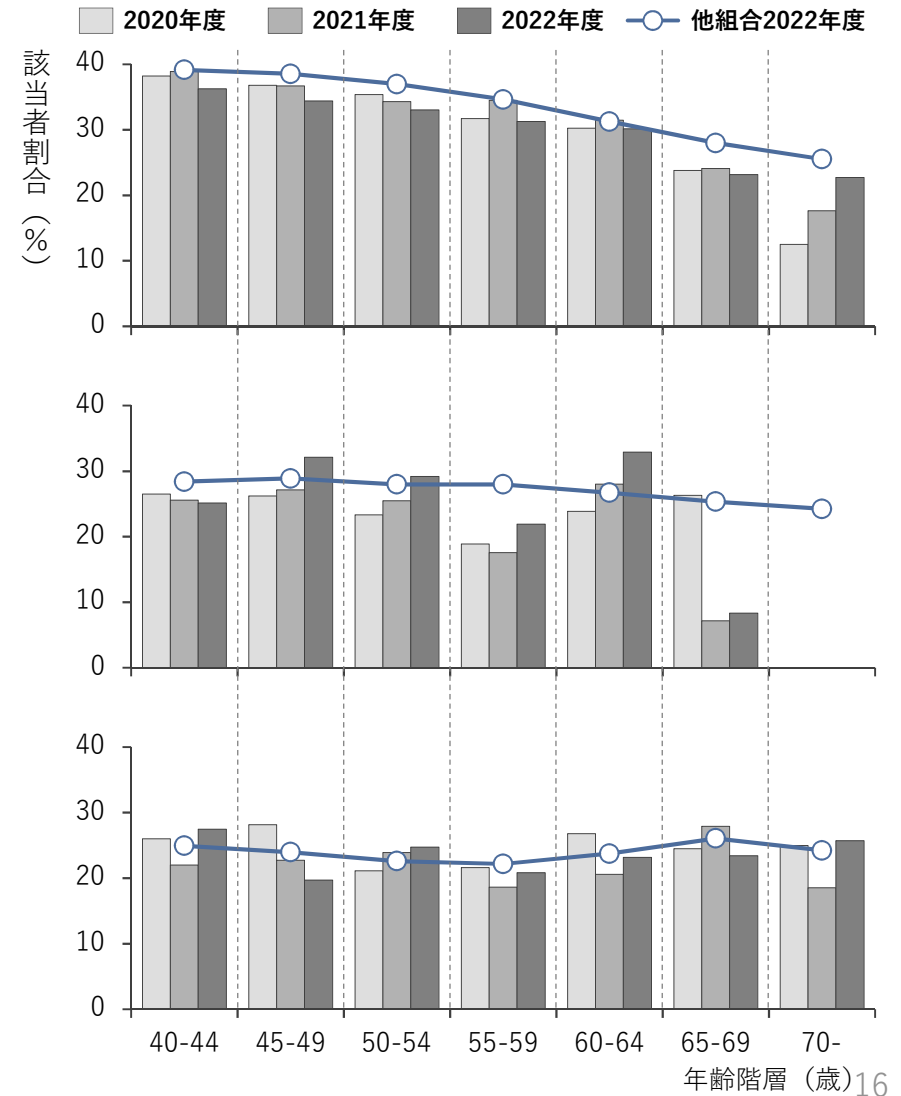
## <人と比較して食べる速度が速いですか>

※年齢：各年度末40歳以上

### 構成比率



### 年齢階層別「速い」と回答した割合

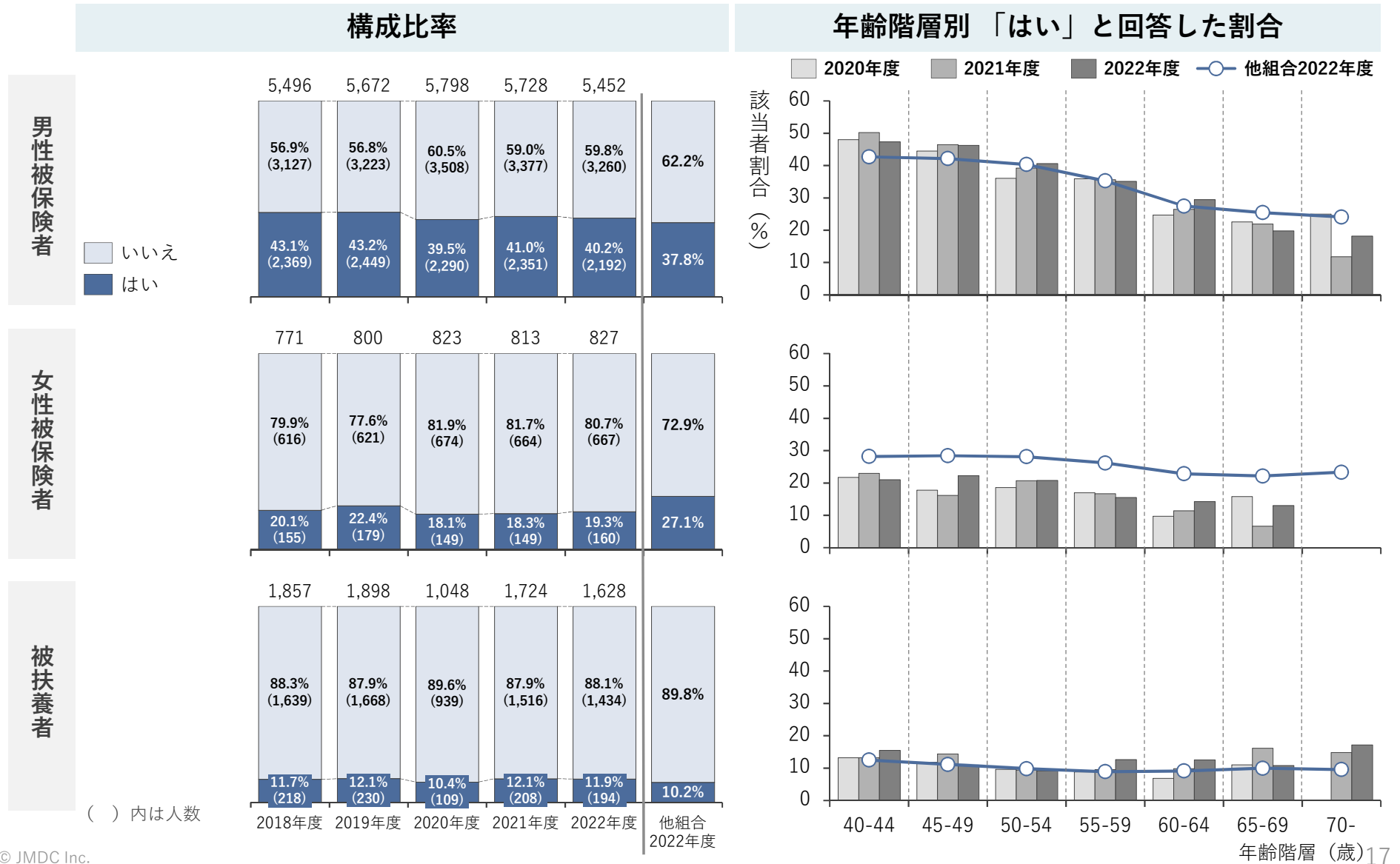


# 問診分析 〈食事-2〉

## 〈就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ありますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

男性被保険者にて「はい」と回答する割合が他組合と比較しやや高く、2020年度の減少から徐々に上がってきている。

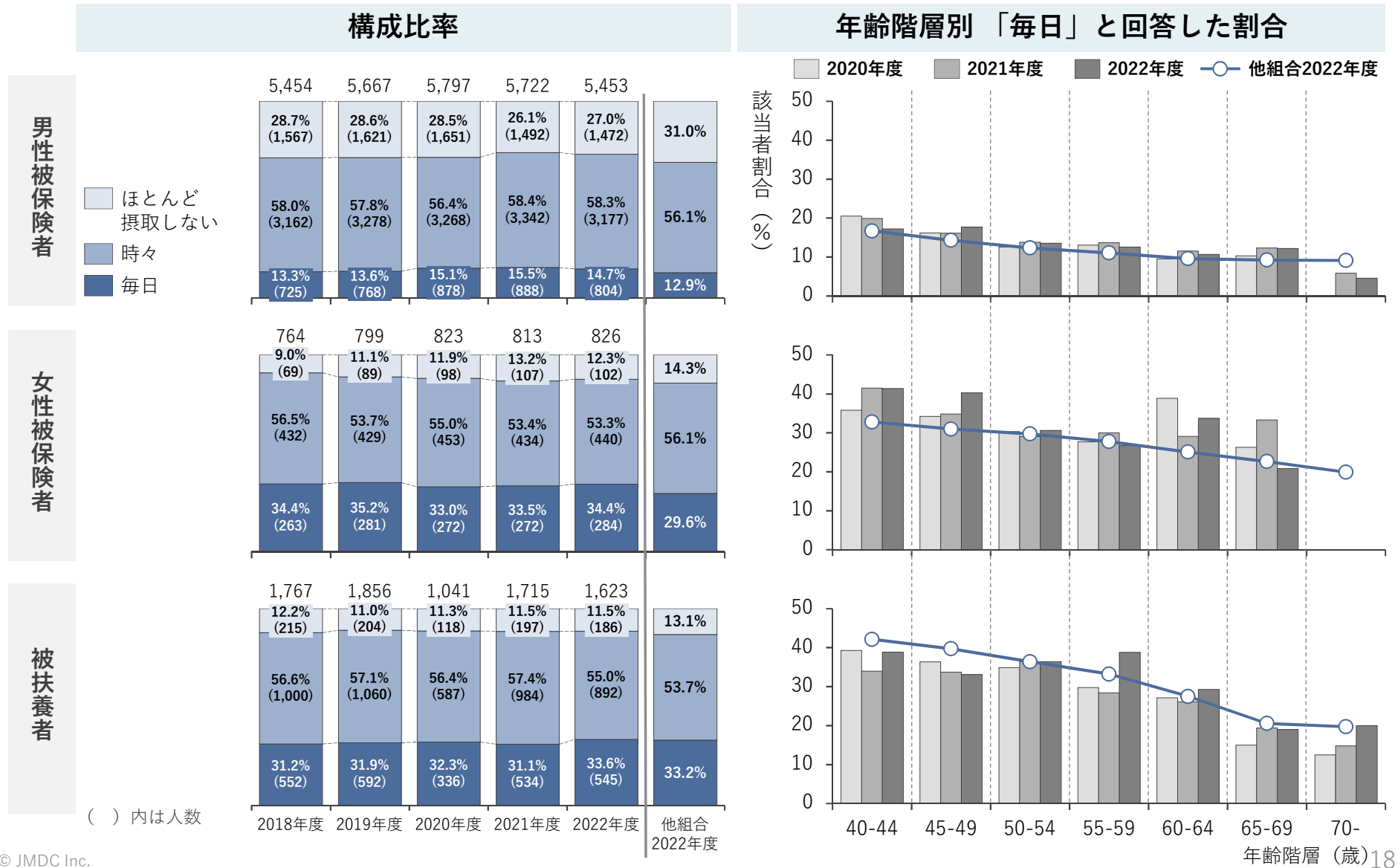


# 問診分析 〈食事-3〉

## 〈朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

男女ともに被保険者にて間食や甘い飲み物の摂取割合が高いが、特に女性被保険者で割合が他組合と比較して高い結果となった。

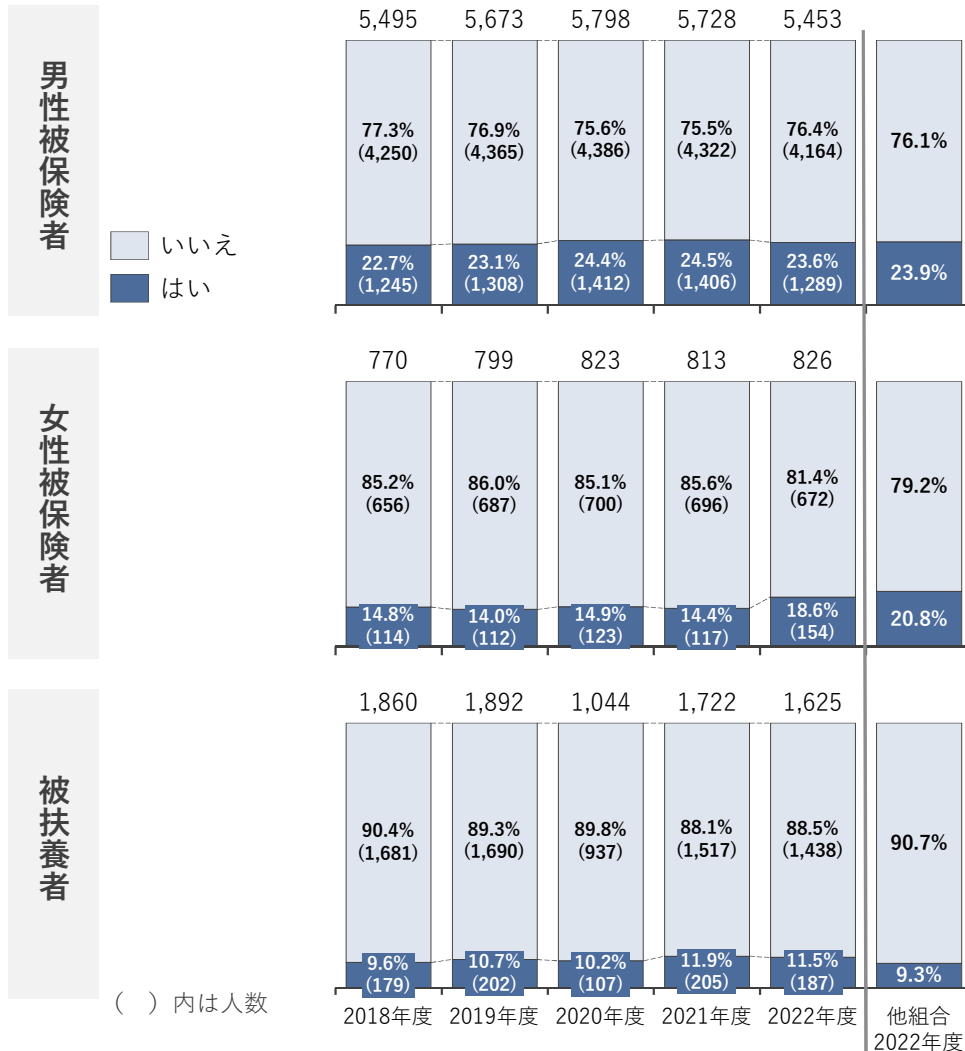


# 問診分析 〈食事-4〉

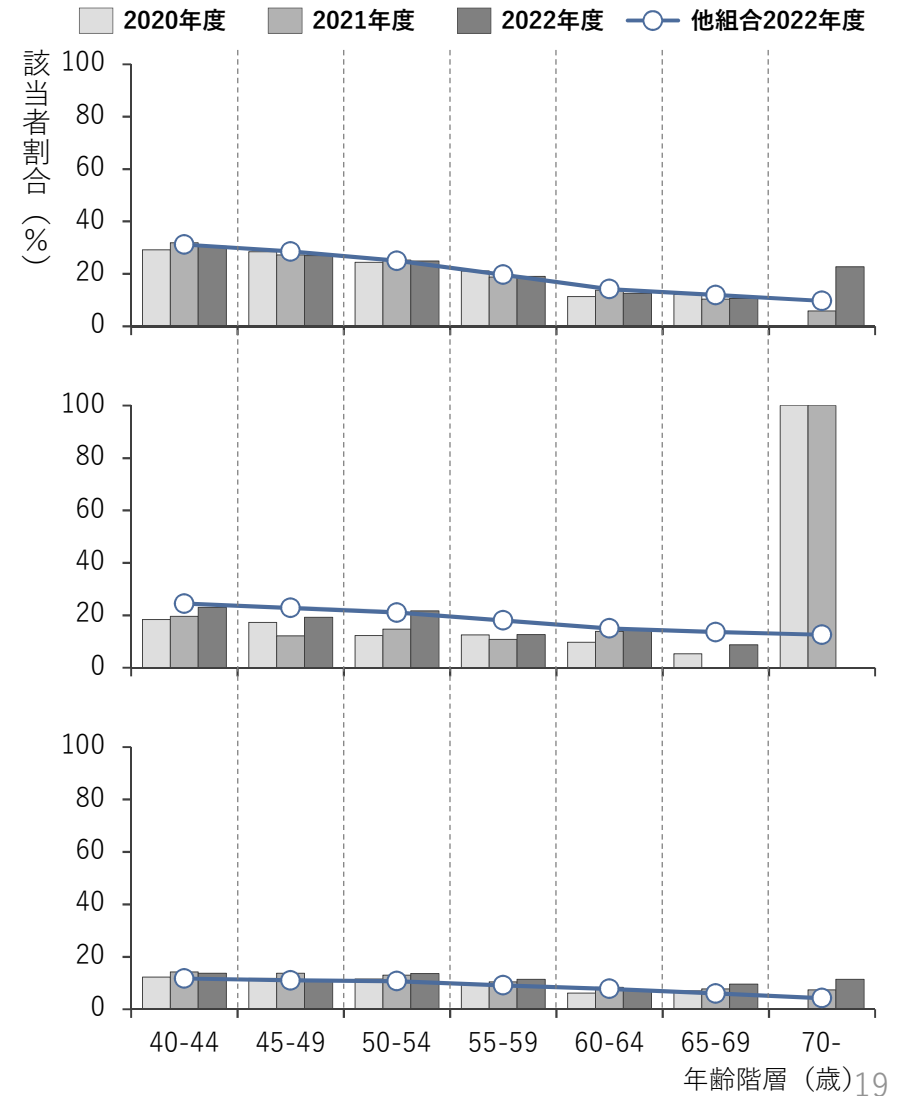
## 〈朝食を抜くことが週に3回以上ありますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

### 構成比率



### 年齢階層別「はい」と回答した割合



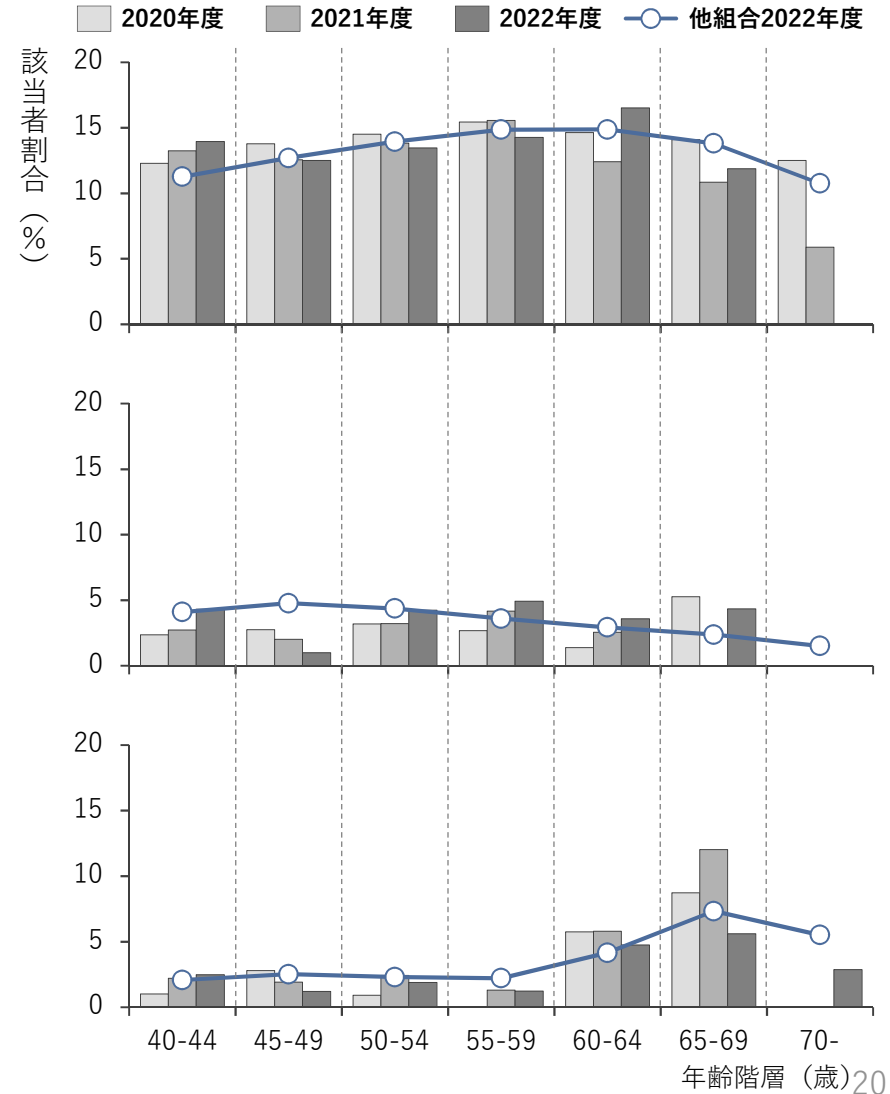
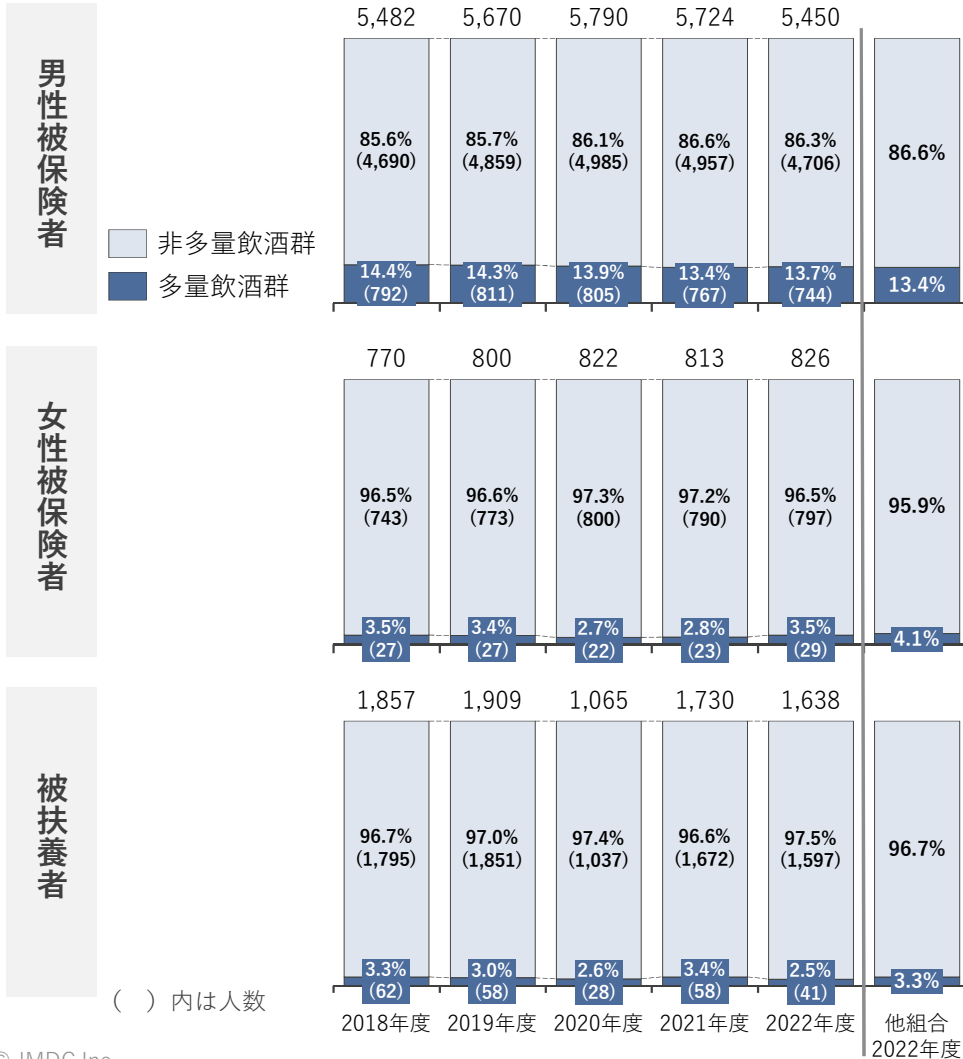
# 問診分析 〈飲酒〉

※年齢：各年度末40歳以上

■「多量飲酒群」（以下①または②）に該当する者  
 ①飲酒頻度が「毎日」で1日あたり飲酒量が2合以上の者  
 ②飲酒頻度が「時々」で1日あたり飲酒量が3合以上の者  
 \*ただし飲酒頻度と飲酒量のいずれかのみで回答した者のうち、  
 飲酒頻度で「ほとんど飲まない（飲めない）」と回答した者、及び  
 飲酒量で「1合未満」「1～2合未満」と回答した者は非多量飲酒群とする

## 構成比率

## 年齢階層別「多量飲酒群」の割合

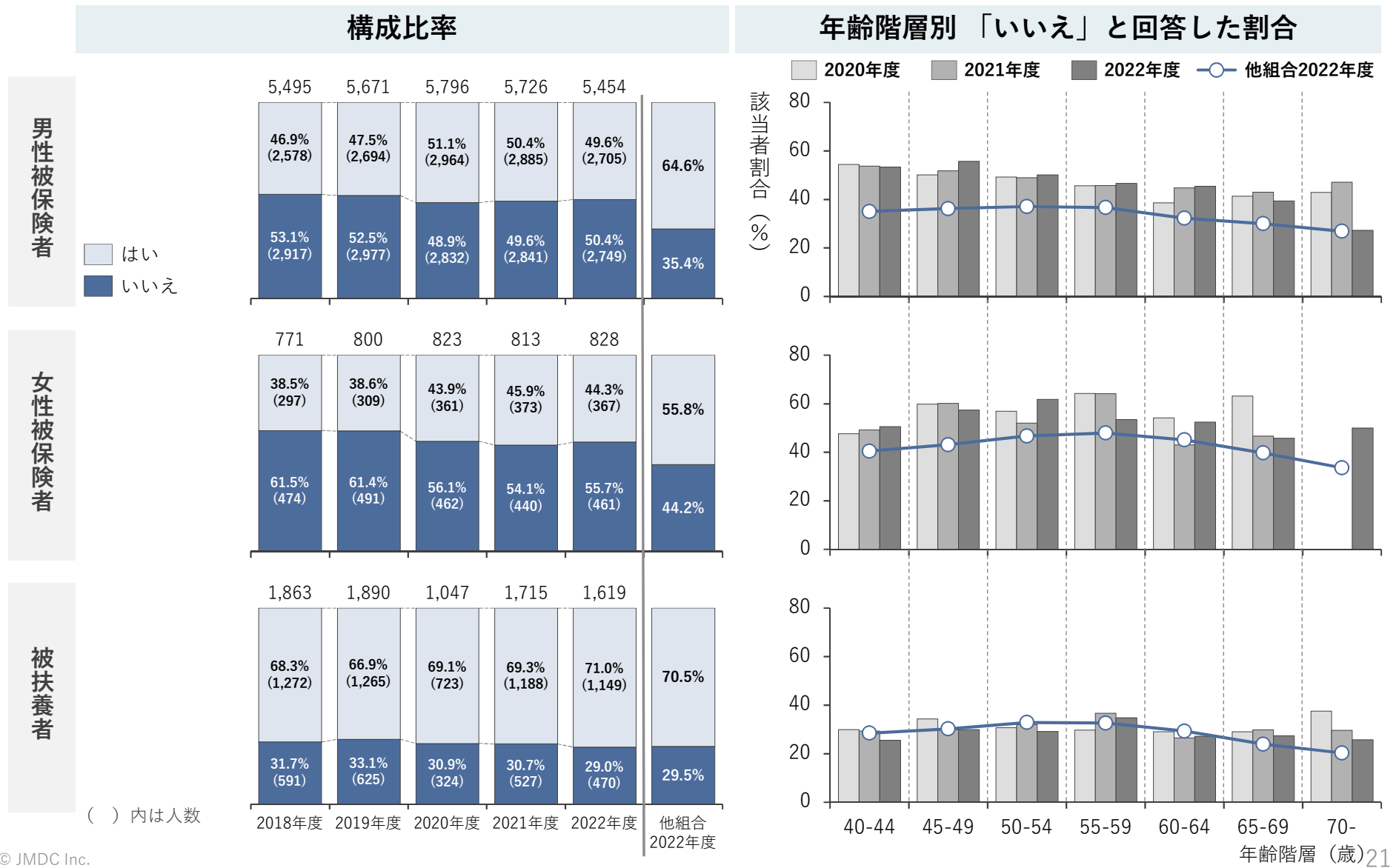


# 問診分析 〈睡眠〉

## 〈睡眠で休養が十分とれていますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

被保険者で男女ともに睡眠が十分にとれていない割合が他組合より高い結果となった。

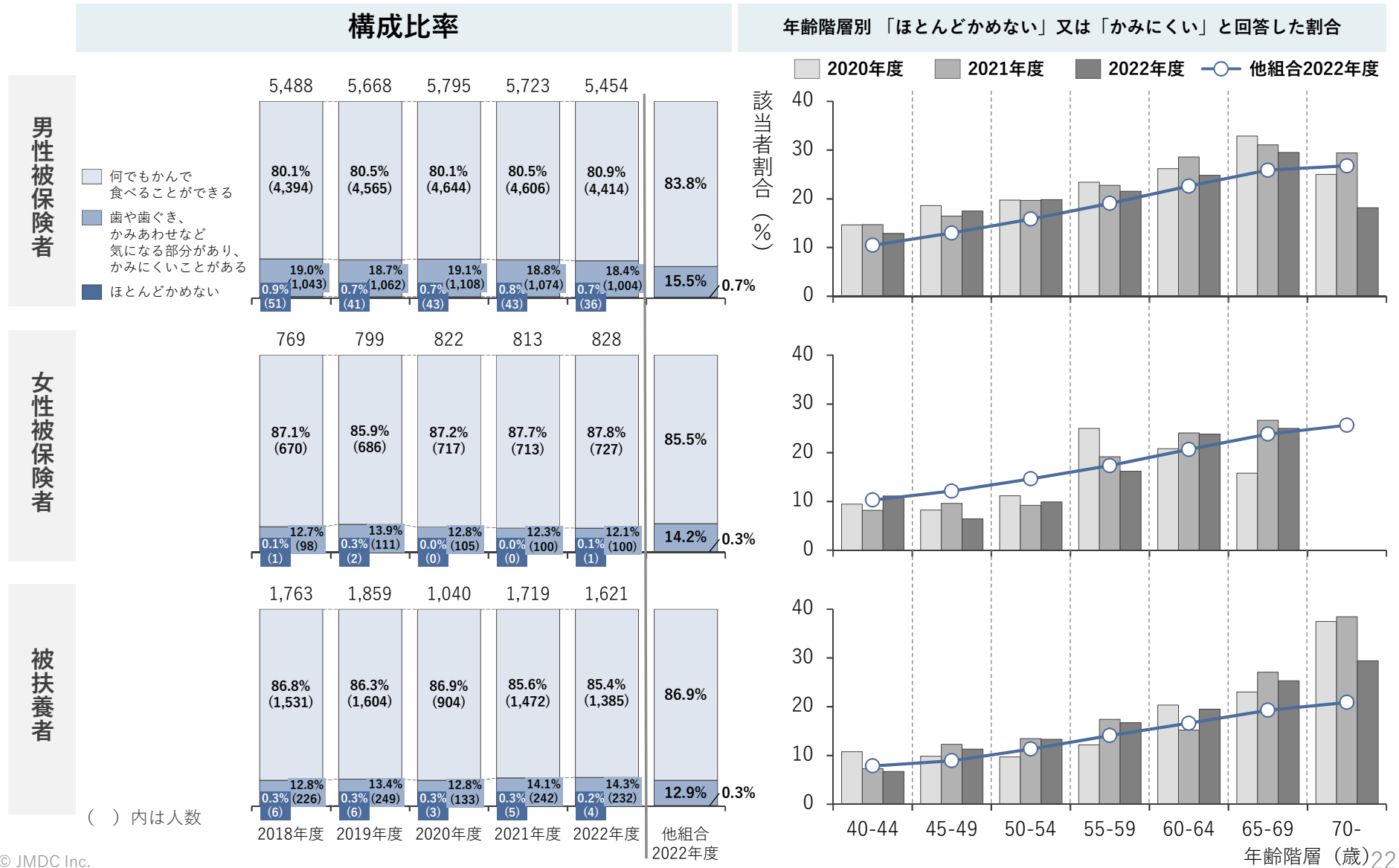


# 問診分析 〈咀嚼〉

## 〈食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

男性被保険者にてかみ合わせが若干悪い方の割合が他組合よりやや高い結果となった。

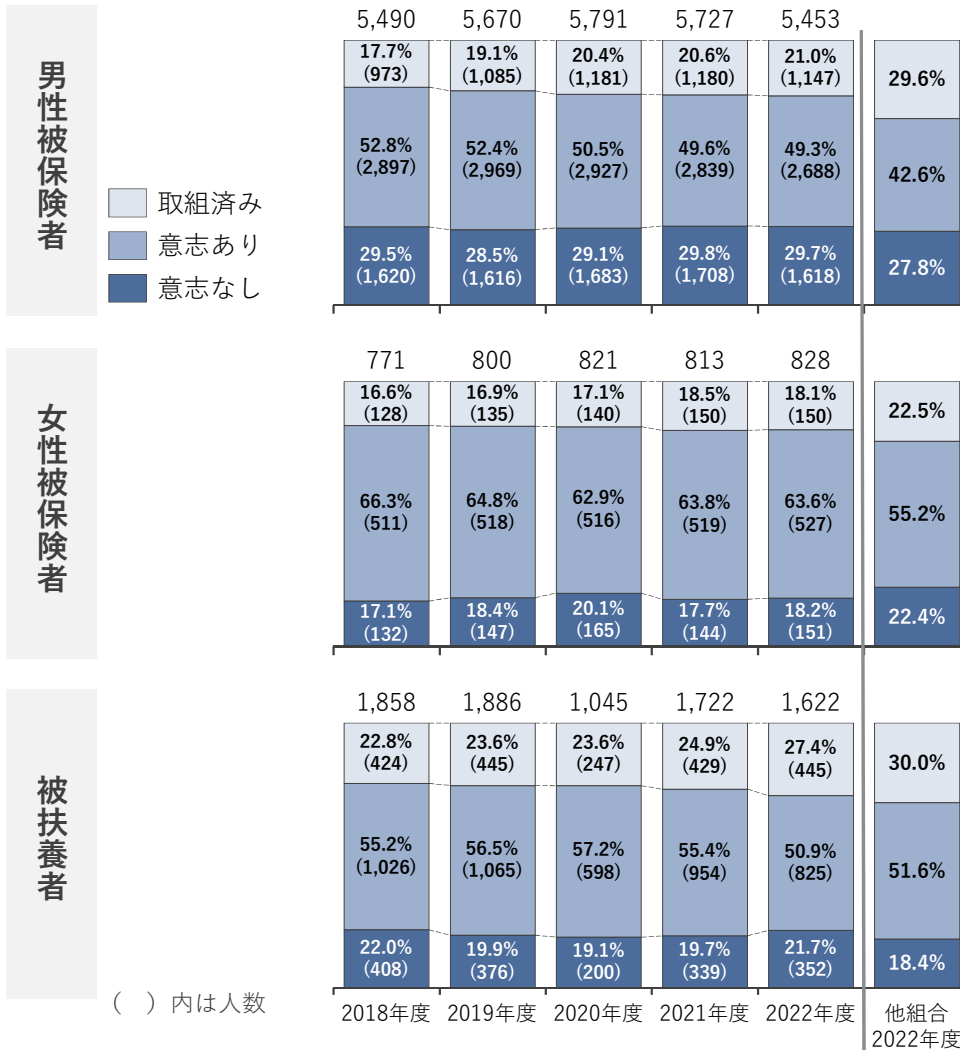


# 問診分析 〈生活習慣改善意欲〉

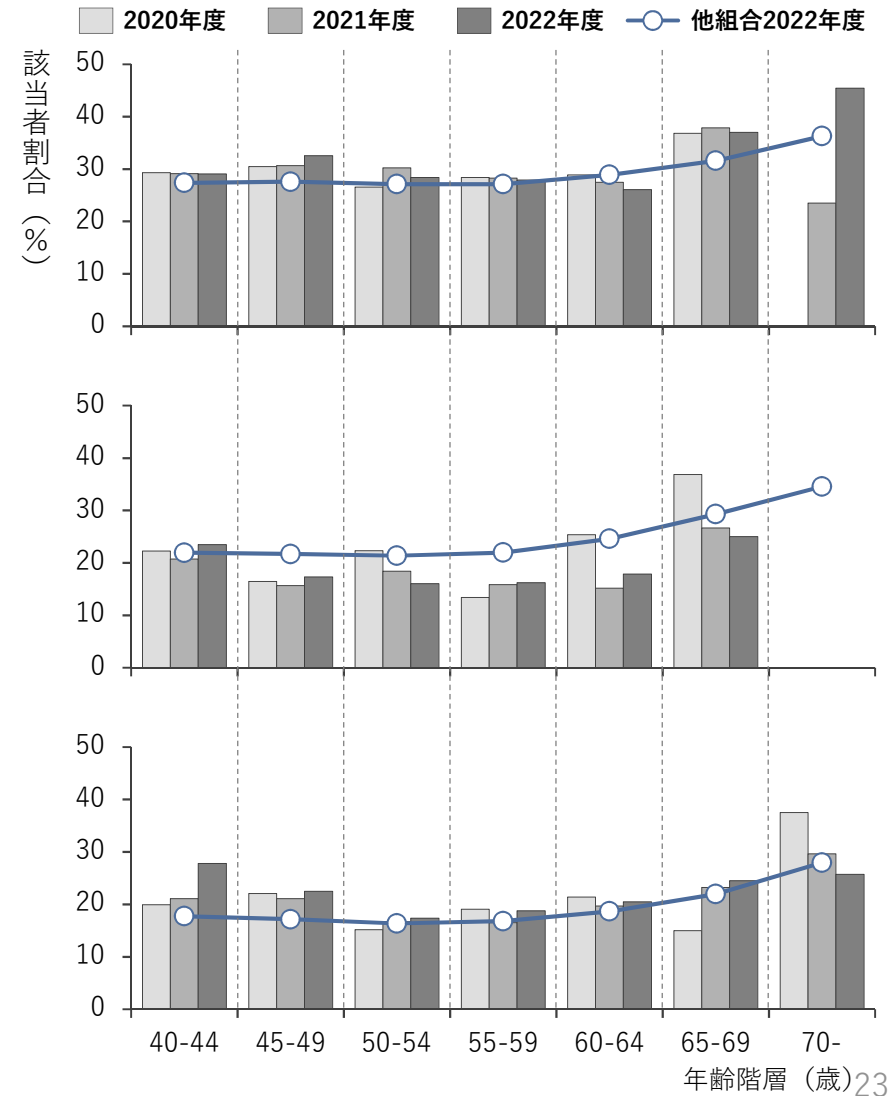
## 〈運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか〉

※年齢：各年度末40歳以上

### 構成比率



### 年齢階層別「意志なし」の割合





# 行動特性

## 〈特定保健指導対象者割合（全体）〉

他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い。

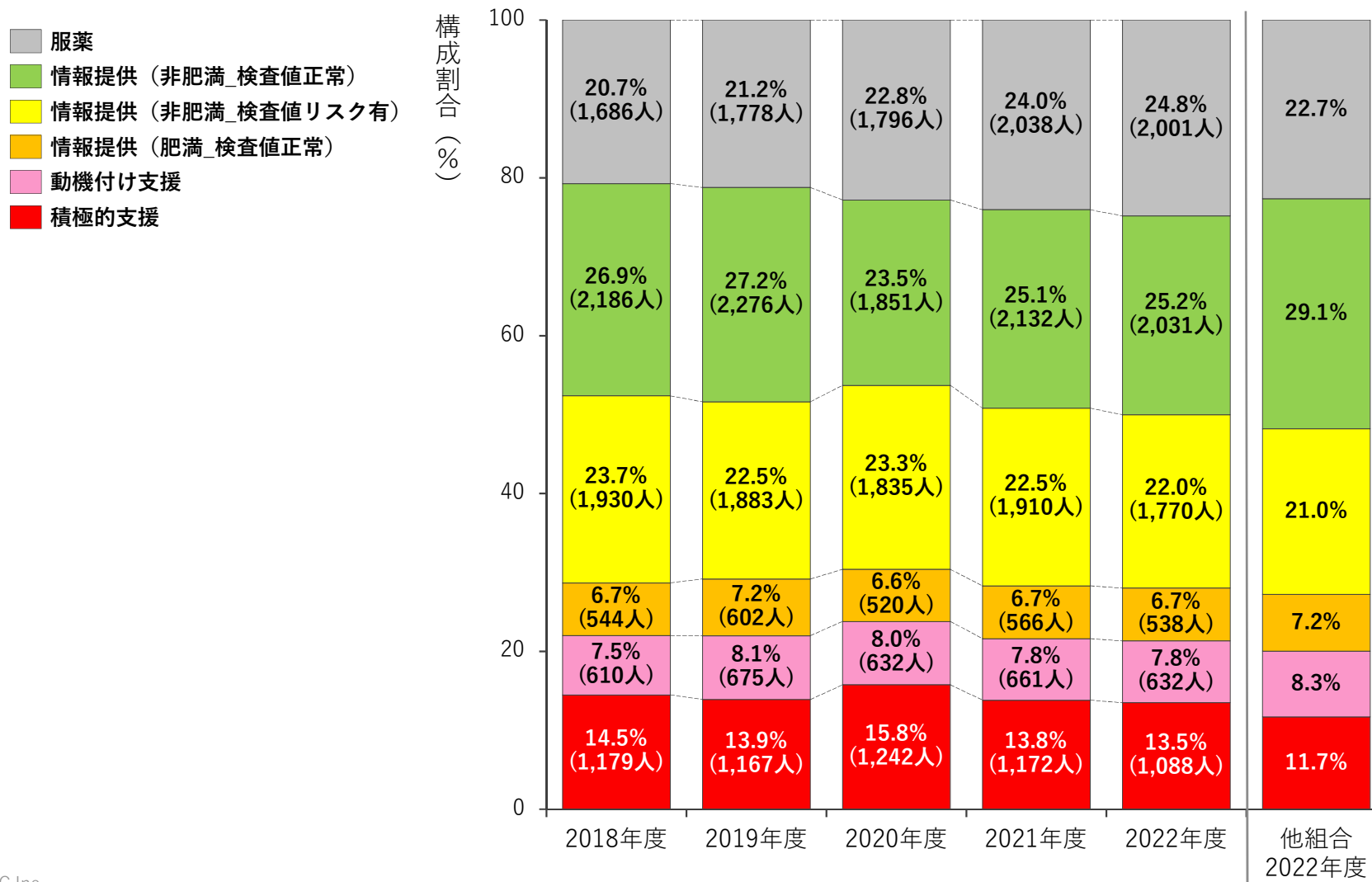
※対象：各年度継続在籍者 ※年齢：各年度末40歳以上

■情報提供の内在リスクの判定基準

- ・肥満：BMI25以上、または腹囲85cm（男性）・90cm（女性）以上
- ・検査値リスク有：下記のいずれか1つ以上該当

- ①血糖：空腹時血糖100mg/dl以上  
(空腹時血糖を未測定の場合は、HbA1c 5.6%以上)
- ②脂質：中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ③血圧：収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上

### 特定保健指導対象者割合（全体）



# 行動特性

## 〈特定保健指導対象者割合（被保険者・被扶養者別）〉

他組合と比較したとき、被保険者における積極的支援の割合は3%ほど高く、事業として介入を強める必要がある。

※対象：各年度継続在籍者 ※年齢：各年度末40歳以上

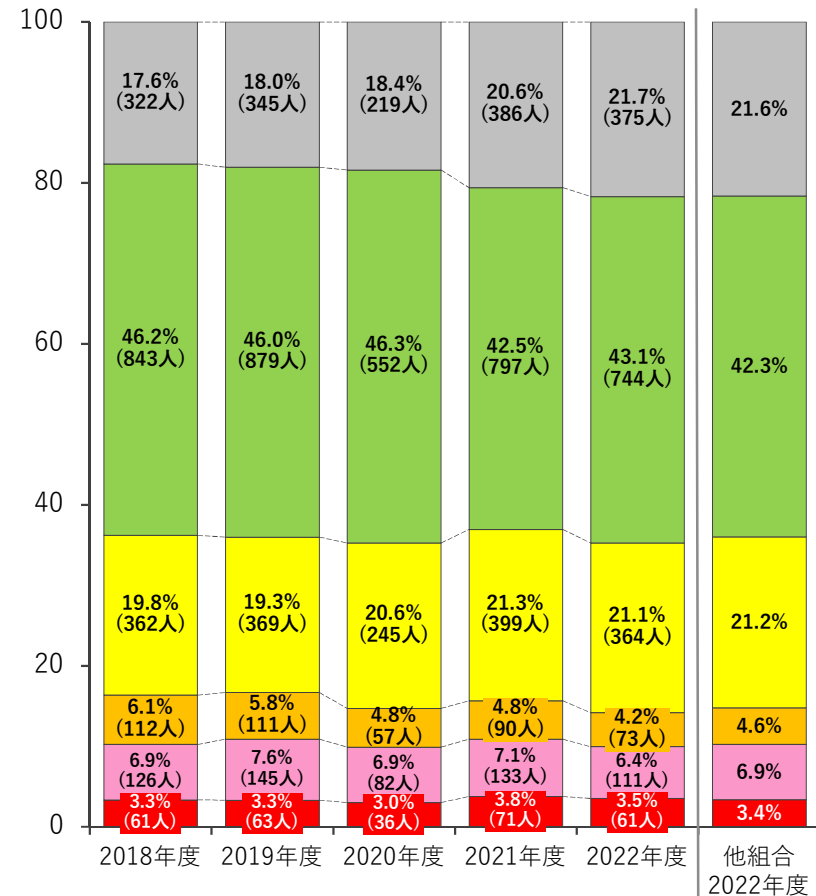
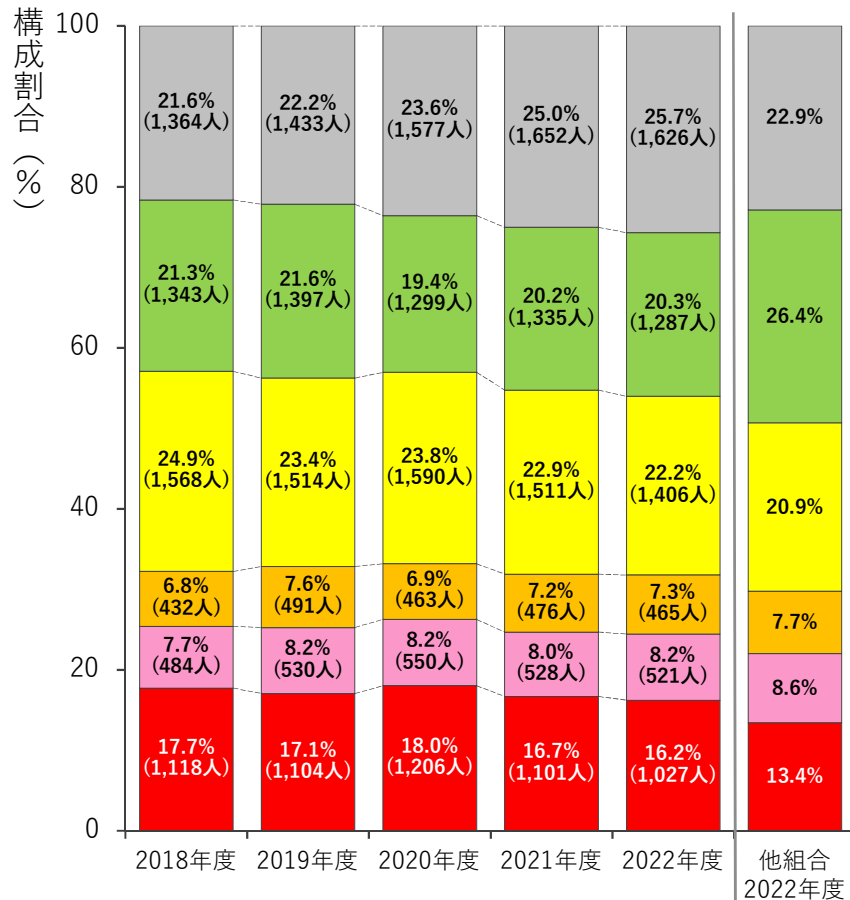
- 情報提供の内在リスクの判定基準
- ・肥満：BMI25以上、または腹囲85cm（男性）・90cm（女性）以上
  - ・検査値リスク有：下記のいずれか1つ以上該当
    - ①血糖：空腹時血糖100mg/dl以上  
(空腹時血糖を未測定の場合は、HbA1c 5.6%以上)
    - ②脂質：中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
    - ③血圧：収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上

### 特定保健指導対象者割合（被保険者・被扶養者別）

#### 被保険者

#### 被扶養者

■ 服薬   
 ■ 情報提供（非肥満\_検査値正常）   
 ■ 情報提供（非肥満\_検査値リスク有）   
 ■ 情報提供（肥満\_検査値正常）   
 ■ 動機付け支援   
 ■ 積極的支援



# 行動特性

## 〈年齢階層別 特定保健指導対象者割合〉

各年代別でも軒並み被保険者の積極的支援割合が他組合比較で高い結果となった。

※対象：2022年度継続在籍者 ※年齢：2022年度末40歳以上

- 情報提供の内在リスクの判定基準
- ・肥満：BMI25以上、または腹囲85cm（男性）・90cm（女性）以上
  - ・検査値リスク有：下記のいずれか1つ以上該当
    - ①血糖：空腹時血糖100mg/dl以上  
(空腹時血糖を未測定の場合は、HbA1c 5.6%以上)
    - ②脂質：中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
    - ③血圧：収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上

### 2022年度 年齢階層別 特定保健指導対象者割合

■ 服薬   
 ■ 情報提供（非肥満\_検査値正常）   
 ■ 情報提供（非肥満\_検査値リスク有）   
 ■ 情報提供（肥満\_検査値正常）   
 ■ 動機付け支援   
 ■ 積極的支援

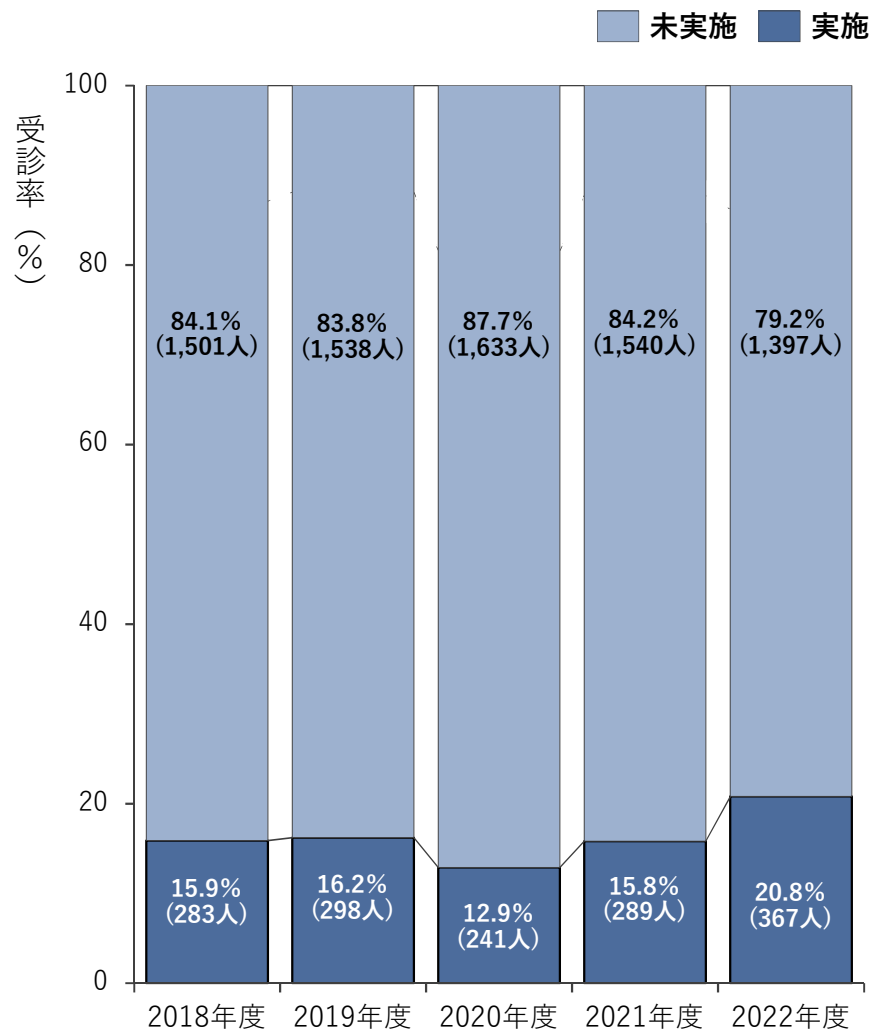


# 行動特性 〈年度別 特定保健指導実施率〉

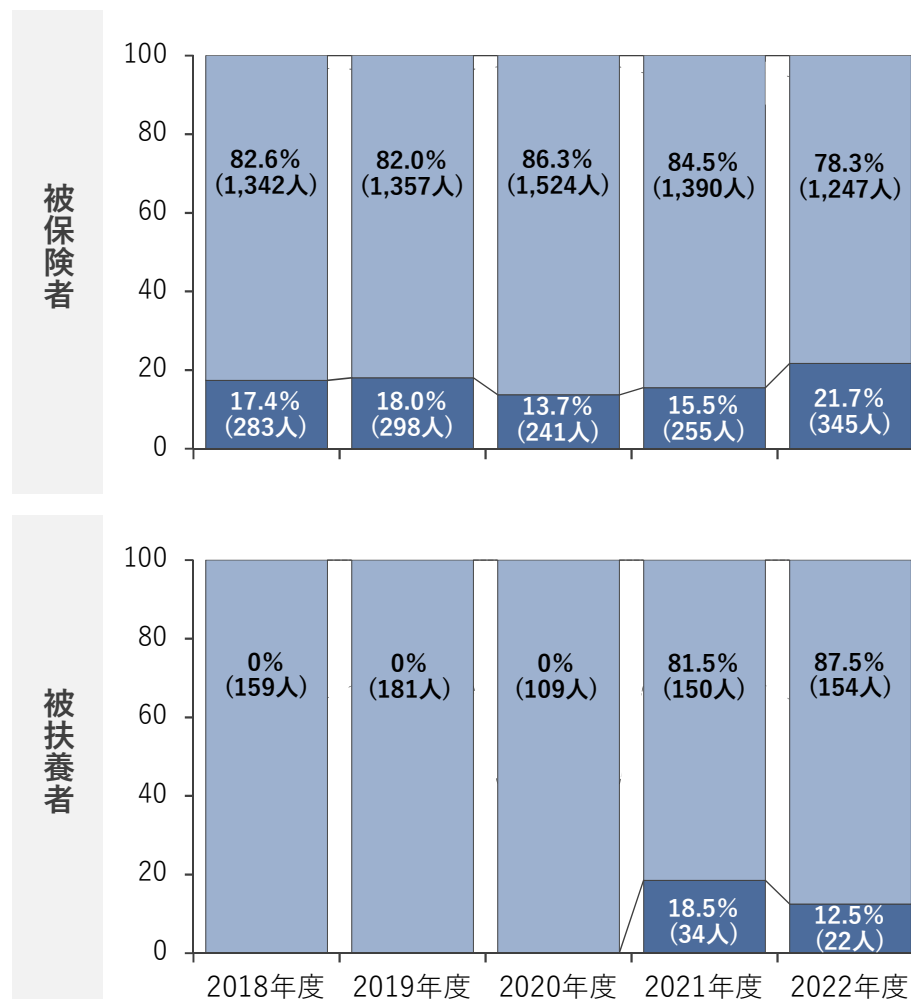
※対象：各年度継続在籍者  
 ※年齢：各年度末40歳以上

直近3年間の実施率は上昇している。2021年度より被扶養者への特定保健指導を開始した。

### 年度別 特定保健指導実施率（全体）



### 年度別 特定保健指導実施率（被保険者・被扶養者別）



# 健診・レセプト突合割合 生活習慣病 リスク分布

※対象：各年度継続在籍者  
 ※年齢：各年度末40歳以上  
 ※医療費：該当者あたり医療費（円） \* 歯科除く

直近3年間に於いて40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である。  
 一方で治療放置群の割合が減っていることについては良い部分でもあり、受診勧奨等継続していきたい。



	年度	生活習慣病では未通院(未治療)					生活習慣病通院(治療)歴あり		
		未把握 (健診未受診)	正常群	不健康群	患者 予備群	治療 放置群	生活 習慣病群	重症化群	生活機能 低下群
該当者数	2022年度	972	1,134	1,808	2,044	567	2,251	812	38
	2021年度	861	1,115	1,885	2,322	671	2,022	748	43
	2020年度	1,337	1,111	1,884	2,031	707	1,844	716	33
割合	2022年度	-	13.1%	20.9%	23.6%	6.6%	26.0%	9.4%	0.4%
	2021年度	-	12.7%	21.4%	26.4%	7.6%	23.0%	8.5%	0.5%
	2020年度	-	13.3%	22.6%	24.4%	8.5%	22.1%	8.6%	0.4%
医療費	2022年度	-	102,288	99,142	69,982	68,771	242,321	560,734	3,258,942

# 生活習慣病対策 重症化予防 CKD（慢性腎臓病）重症度別 受診状況

※対象：尿蛋白とeGFRの検査値が揃っている者  
 ※年度：2022年度継続在籍者  
 ※医療機関未受診：慢性腎臓病、その他腎疾患での未受診者  
 ※疑い傷病：含む ※対象レセプト：医科

赤色の高リスク群のうち()内の未受診者についてはすぐに受診が必要な群であり、受診勧奨等による重症化予防策の強化が必要である。

CKD重症度分類				尿蛋白 区分			合計
				A1	A2	A3	
				正常 【-】	軽度蛋白尿 【±】	高度蛋白尿 【+～】	
eGFR 区分	G1	正常	90以上	2,270 (2,156)	154 (141)	34 (26)	2,458 (2,323)
	G2	正常または軽度低下	60～90未満	6,132 (5,738)	342 (315)	102 (86)	6,576 (6,139)
	G3a	軽度～中等度低下	45～60未満	471 (387)	42 (33)	24 (16)	537 (436)
	G3b	中等度～高度低下	30～45未満	21 (8)	1 (0)	9 (0)	31 (8)
	G4	高度低下	15～30未満	0 (0)	0 (0)	5 (1)	5 (1)
	G5	末期腎不全	15未満	0 (0)	1 (0)	6 (0)	7 (0)
合計				8,894 (8,289)	540 (489)	180 (129)	9,614 (8,907)

上段：該当者数／下段（）内：医療機関未受診者

# 生活習慣病対策 重症化予防 〈糖尿病患者 腎機能マップ〉

※レセプト：医科入院外、調剤（2022年12月～2023年3月）  
 ※健診：2022年度受診分（eGFR低下速度は2021年度受診分も参照）  
 ※除外対象：2022年12月～2023年3月に人工透析が発生している者

2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた。

2型糖尿病治療中患者 424人				
不明者	HbA1c及び空腹時血糖の検査値が無い			
	70人			
コントロール者	HbA1c6.5%未満かつ、空腹時血糖126mg/dl未満			
	67人			
アンコントロール者	HbA1c6.5%以上または、空腹時血糖126mg/dl以上			
	287人			
	不明 eGFR、尿蛋白 検査値無し	糖尿病のみ	腎機能低下疑い ※1	尿蛋白(2+以上)または eGFR30未満 ※2
	0人	162人	113人	12人

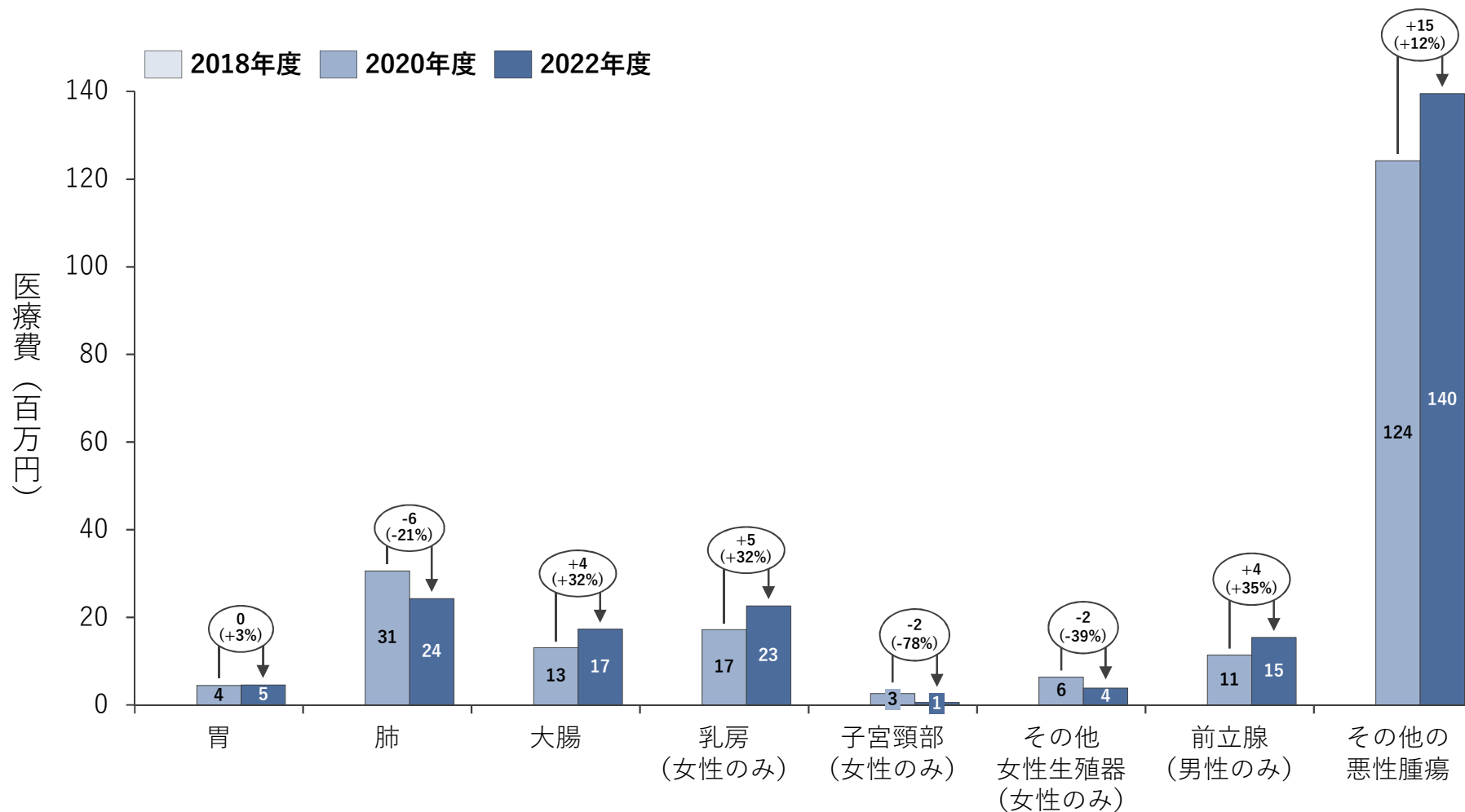
※1 次のいずれかに該当：  
 eGFR30以上45未満／eGFR60未満のうち年間5以上の低下／尿蛋白（±または+）／収縮期血圧140mmHg以上／拡張期血圧90mmHg以上  
 （腎症1期から3期のいずれかに相当）

※2 腎症3期/腎症4期に相当

# がん対策 〈医療費経年比較〉

※医療費抽出方法：PDM法  
 ※対象レセプト：医科、調剤  
 ※疑い傷病：除く

その他のがんを除き、乳房・前立腺の他、肺がん・大腸がんの医療費が少なからず発生している点に注意したい。

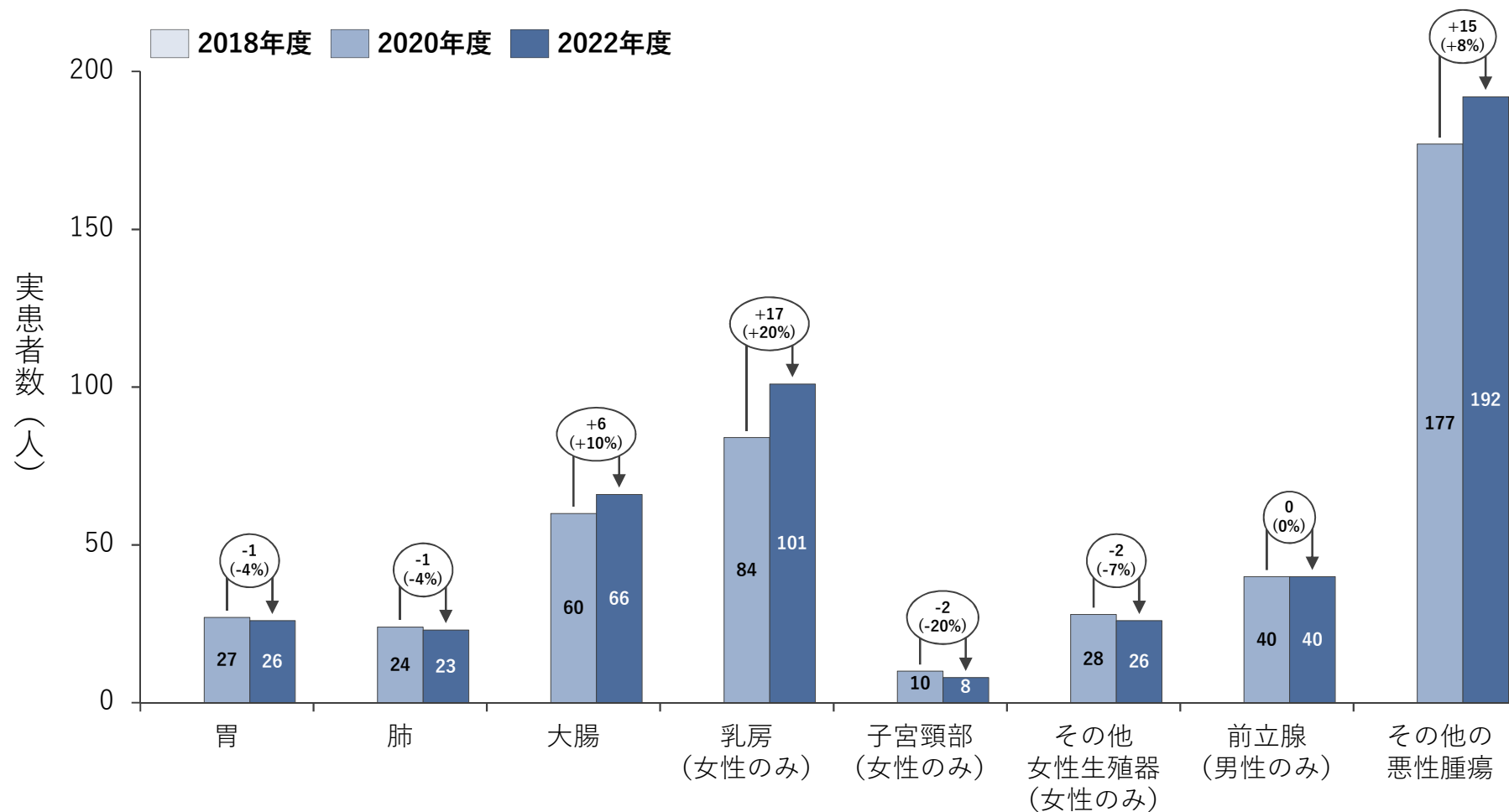




# がん対策 〈患者数経年比較〉

※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く

乳房の他、大腸がんの患者数が増加していることに特に注意していきたい。

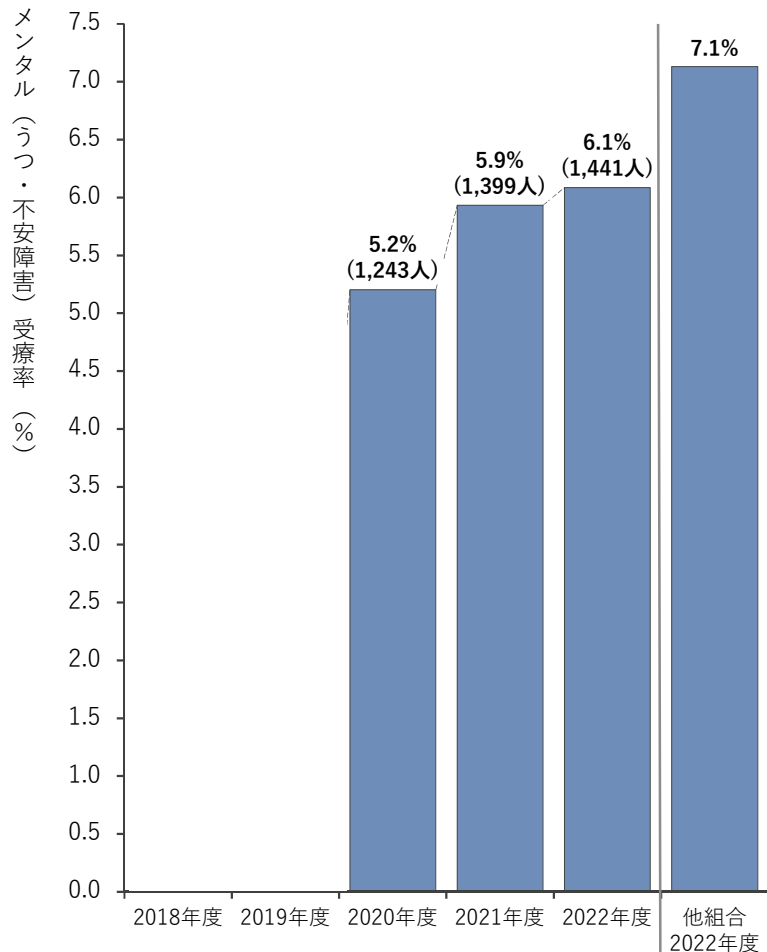


# メンタル疾患対策 〈気分障害（うつ病など）・神経性障害（不安障害など）〉

※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く

経年で受療率が増加傾向。特に被保険者においてはプレゼンティーズムや傷病手当金の観点からも事業主との情報連携が必要だと考えられる。

### 年度別 メンタル受療率

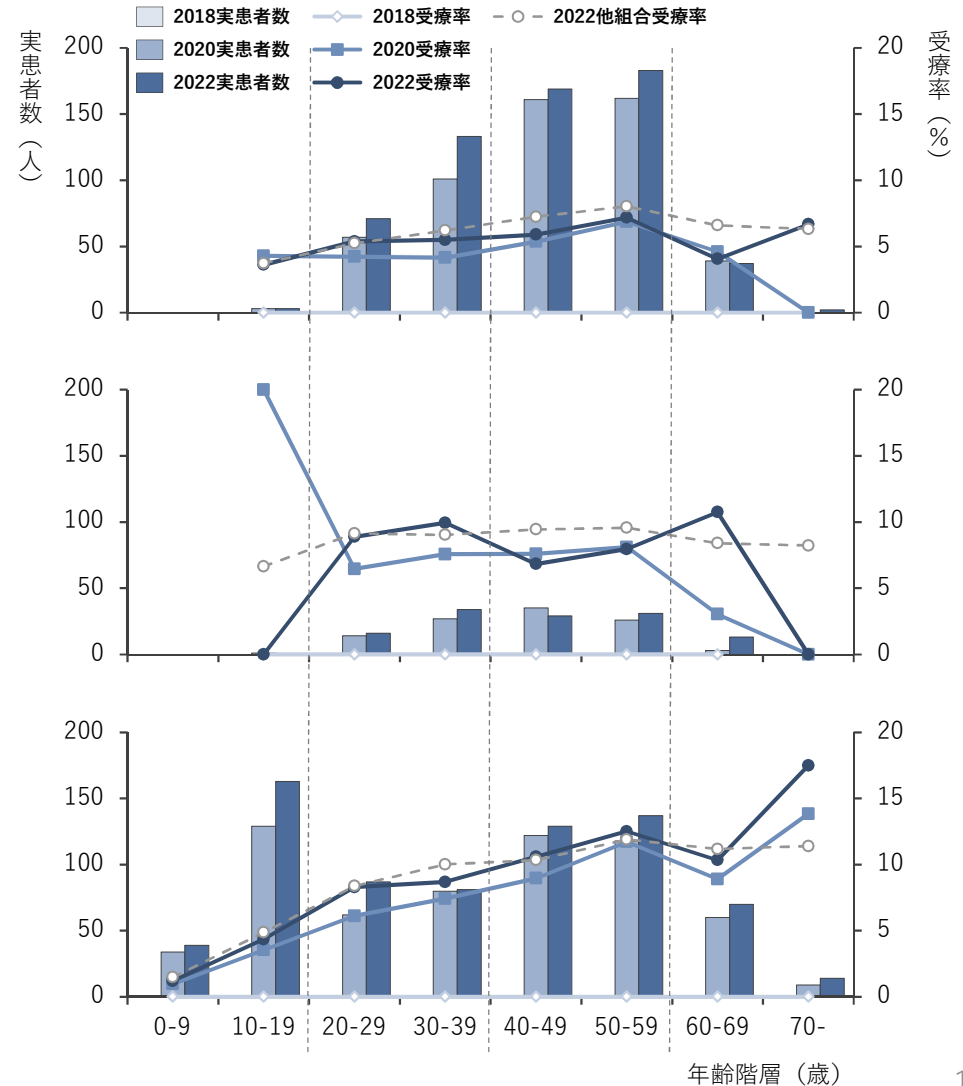


### 年齢階層別 実患者数と受療率（経年比較）

男性被保険者  
メンタル受療率 5.9%

女性被保険者  
メンタル受療率 8.4%

被扶養者  
メンタル受療率 6.0%



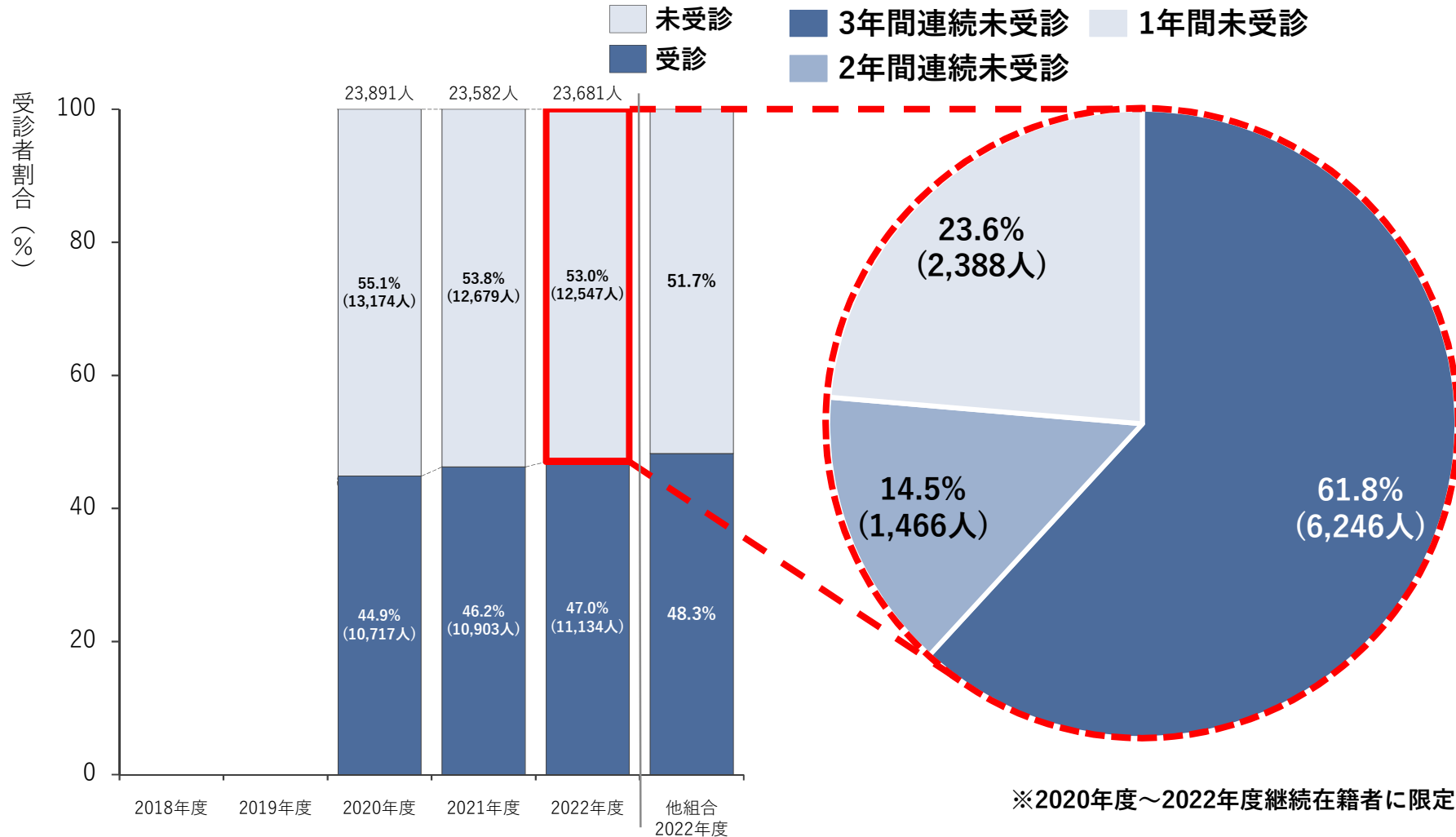
# 歯科対策 重症化予防 〈歯科受診割合〉

※対象レセプト：歯科

全体の過半数が直近1年間で一度も歯科にかからない層であり、その中の約6割（加入者全体の約3割）が直近3年間未受診となっている。

歯科受診者割合

2022年度未受診者の実態



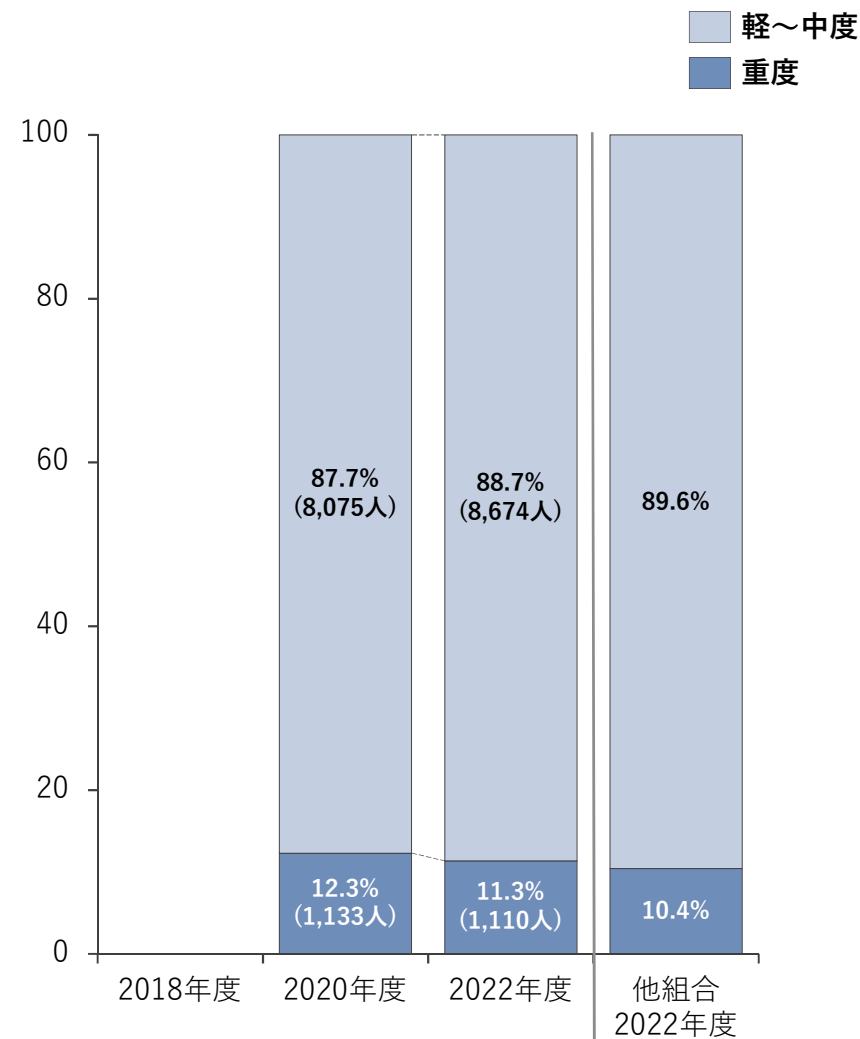
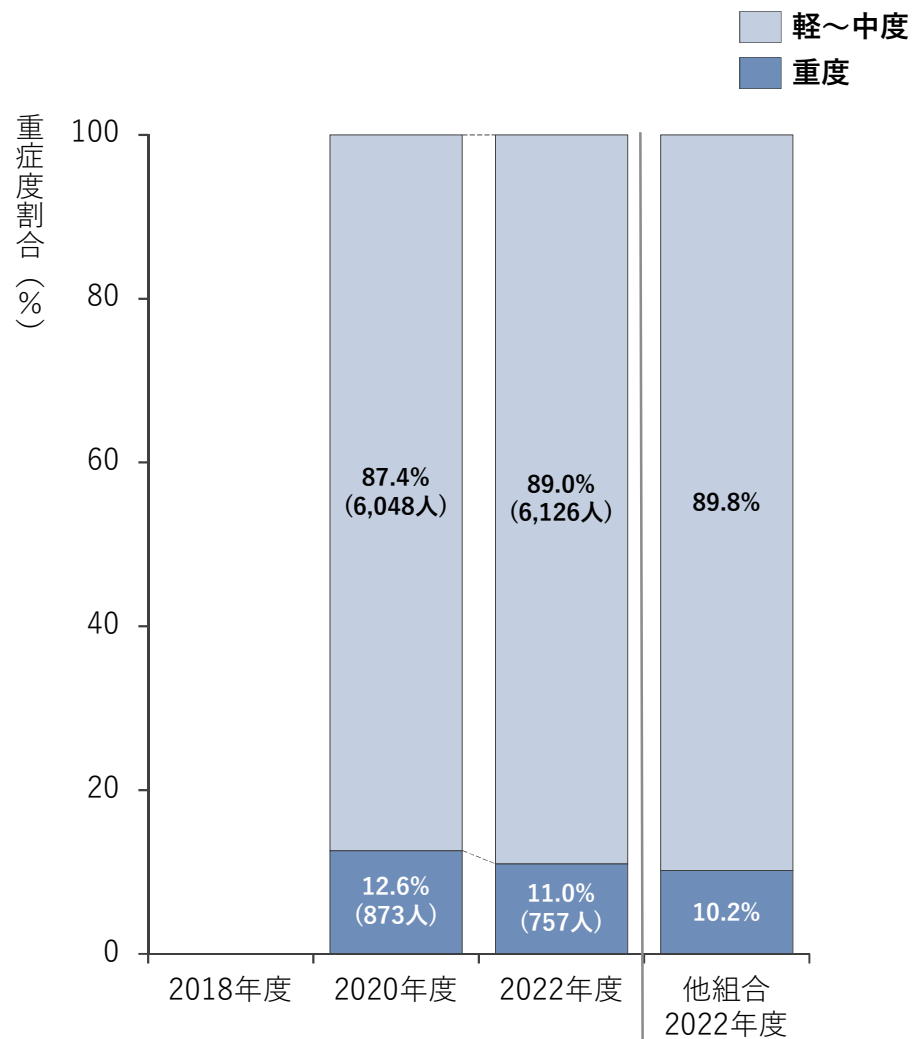
※2020年度～2022年度継続在籍者に限定

# 歯科対策 う蝕/歯周病 重症化率

※対象レセプト：歯科  
※疑い傷病：除く

## う蝕重症度

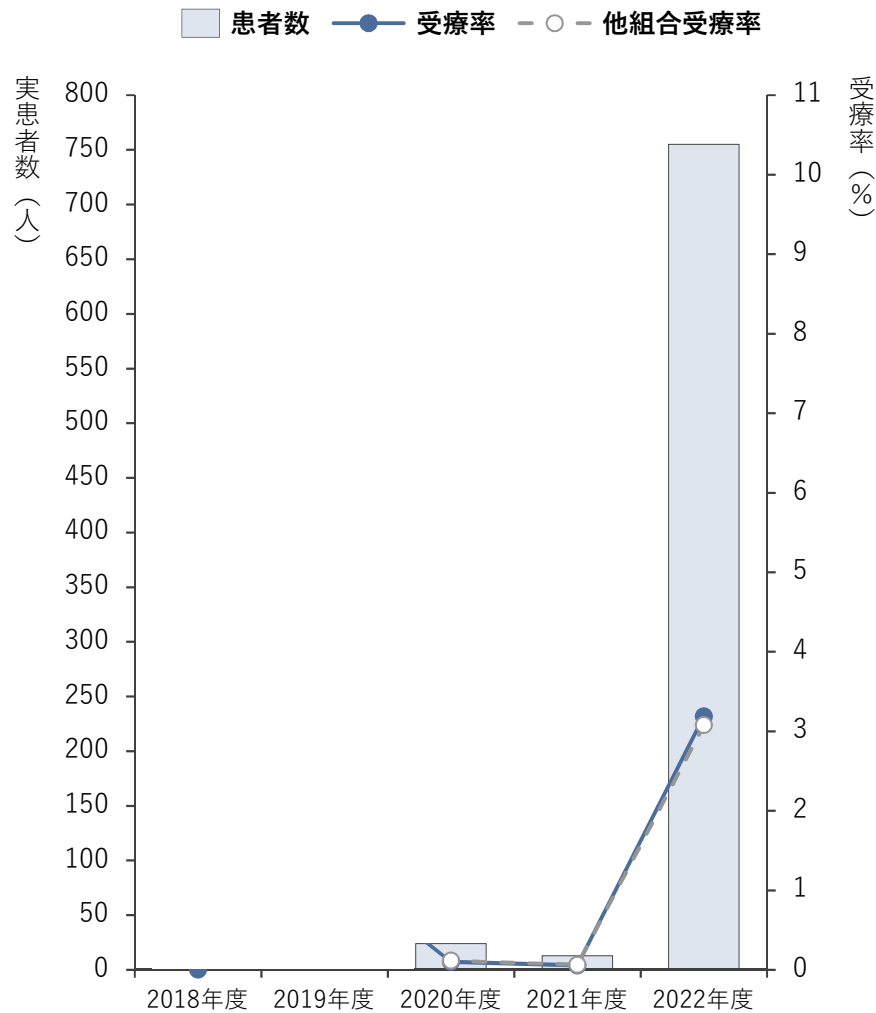
## 歯周病重症度



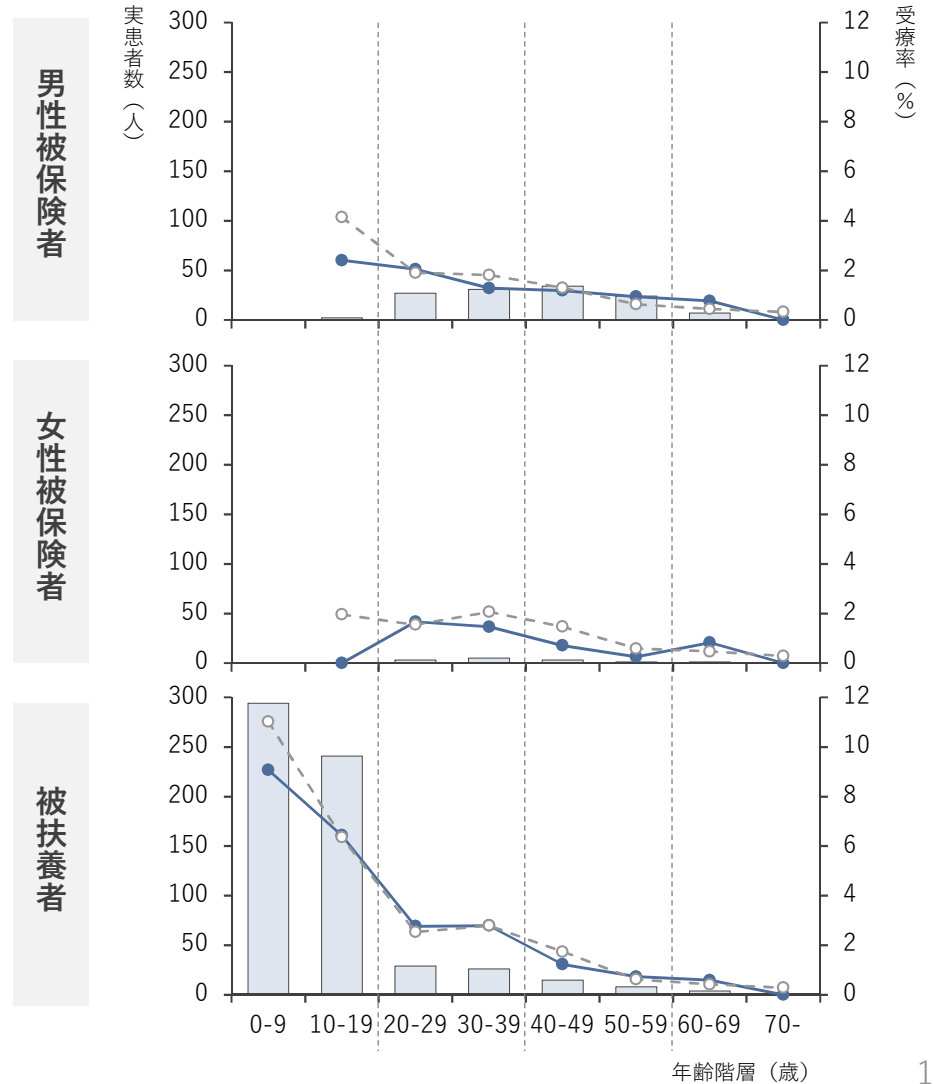
# 予防接種関連疾患分析 インフルエンザ

※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く

## 健保全体 インフルエンザの受療状況

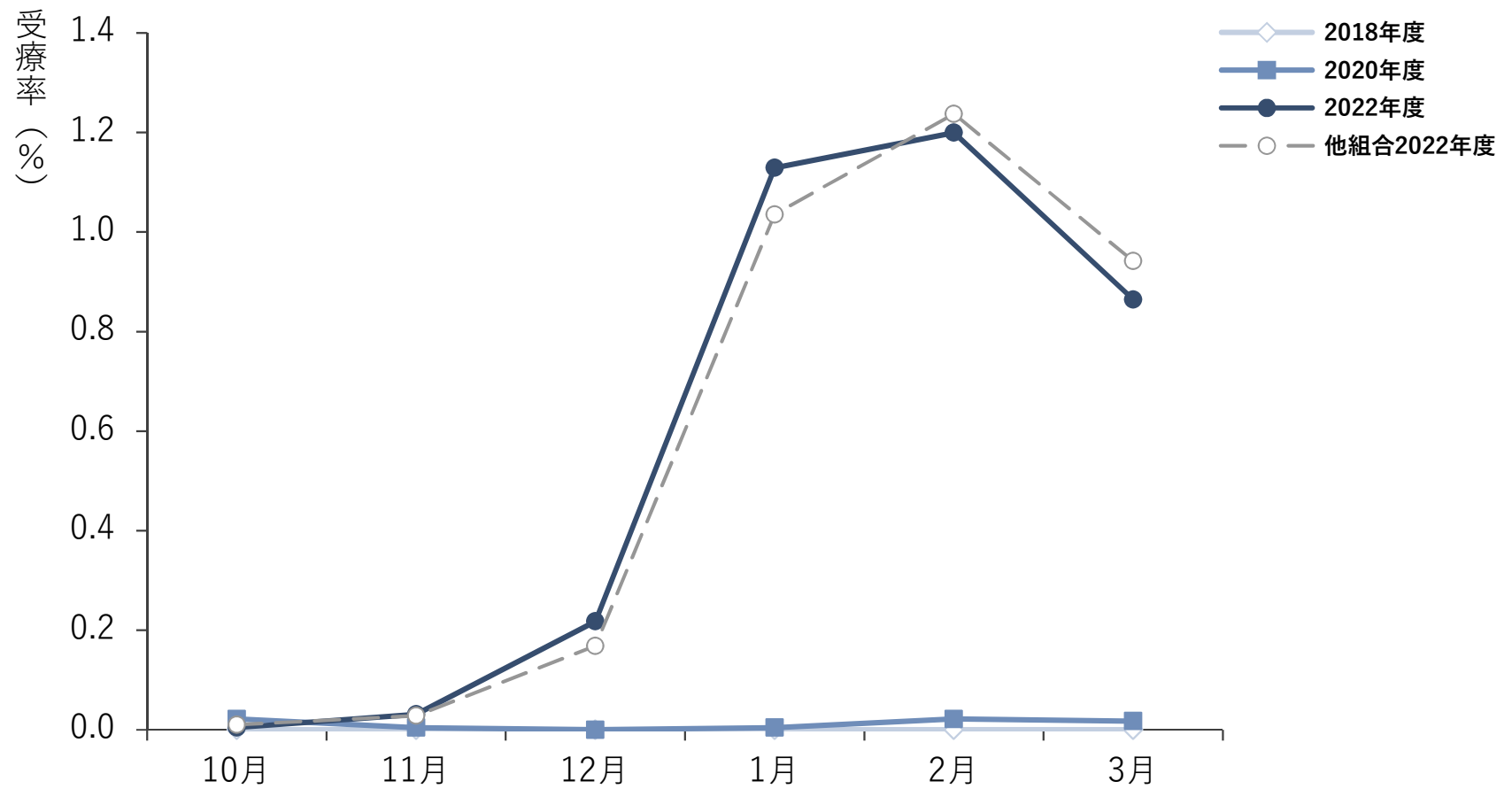


## 2022年度 年齢階層別インフルエンザの受療状況



# 予防接種関連疾患分析 インフルエンザ 〈受療者数の月次推移〉

※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く



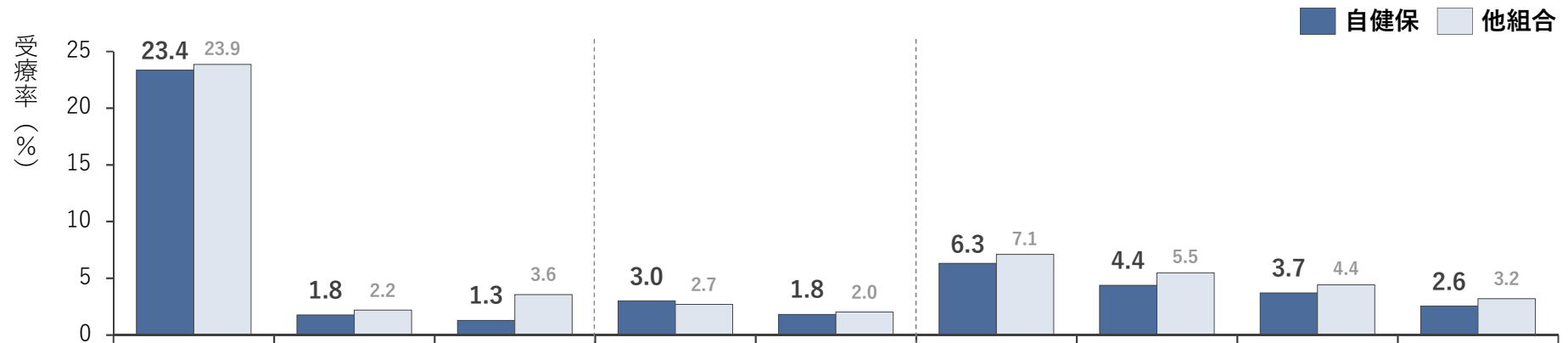
# 事業主と産業医・産業保健師との連携 生産性関連指標 プレゼンティーズム

※対象：2022年度在籍被保険者  
※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く

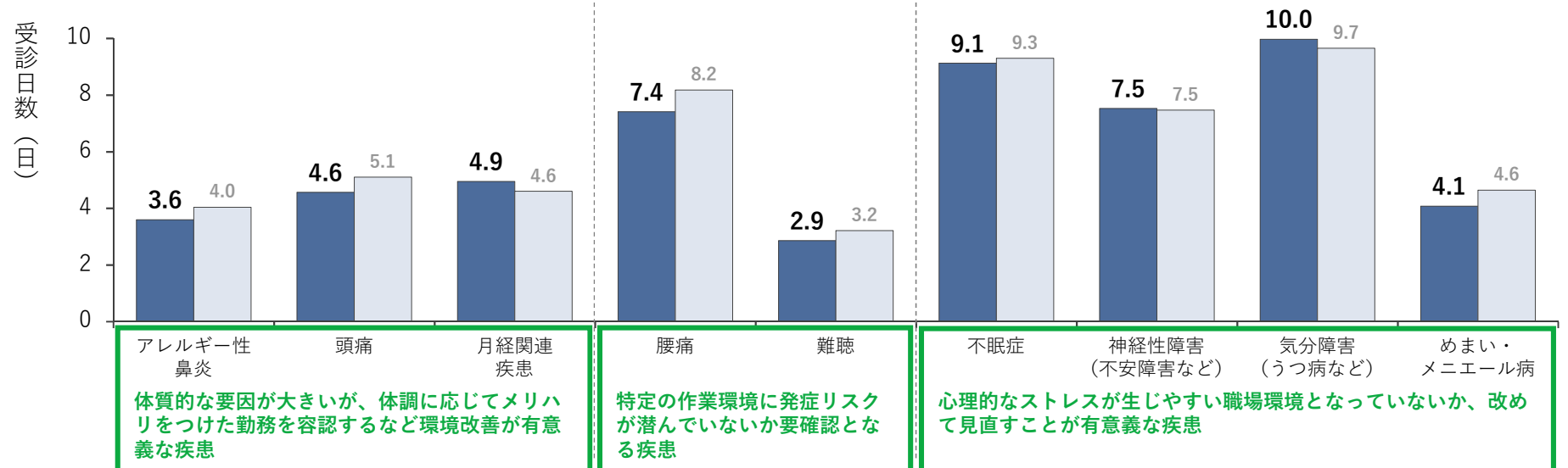
■ プレゼンティーズム  
出勤しているものの、健康問題によって生産性が低下している状態

概ね他組合比では低い受療率であるが、腰痛のみ若干高い受療率となっている。

### 受療率（外来）



### 患者一人あたり受診日数（外来）



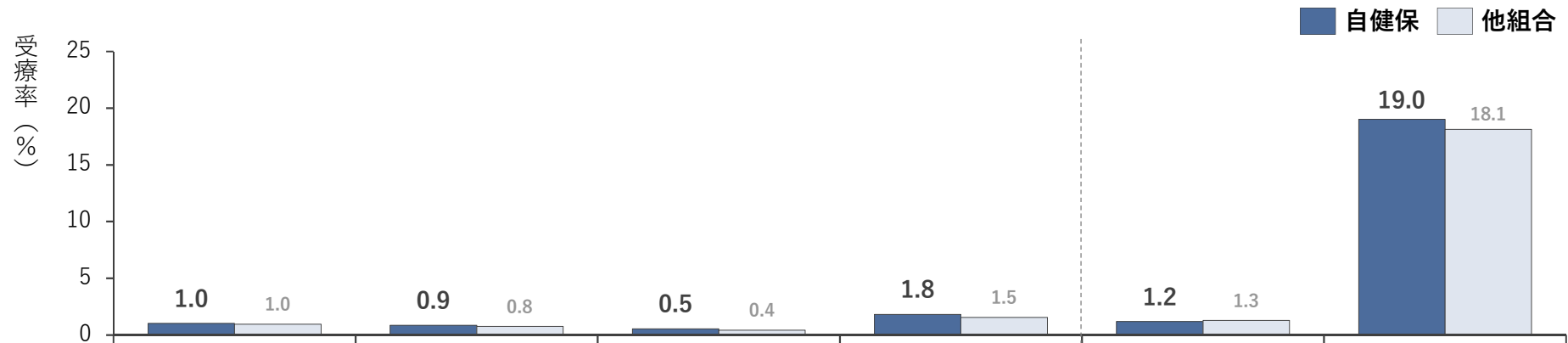
# 事業主と産業医・産業保健師との連携 生産性関連指標 アブセンティーズム

※対象：2022年度在籍被保険者  
※対象レセプト：医科  
※疑い傷病：除く

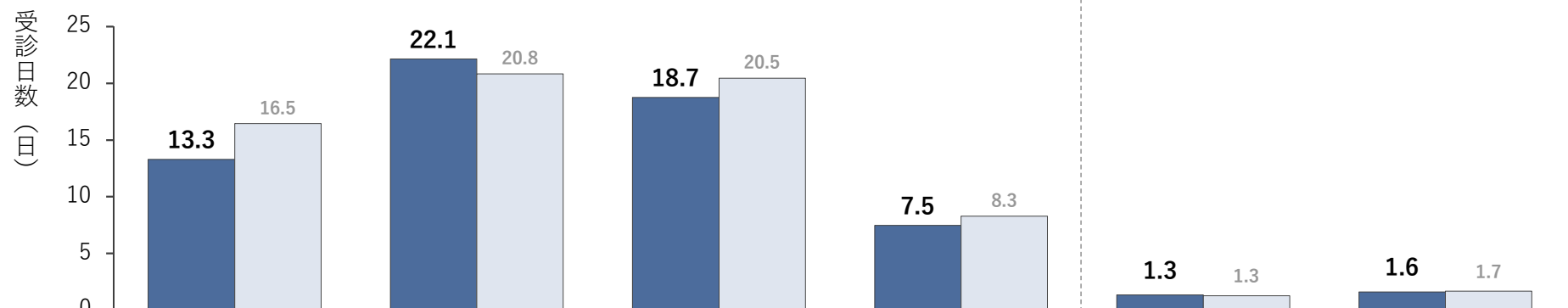
■アブセンティーズム  
健康問題が原因となり欠勤など業務自体が行えない状態

慢性腎臓病、2型糖尿病合併症の受療率について、他組合を上回るものになっている。

## 受療率（入院含む）



## 患者一人あたり受診日数（入院含む）



健診/検診及び、リスク者への早期治療の徹底により抑制が見込める疾患

ワクチン接種/手洗い/うがいなどの徹底により抑制が見込める疾患

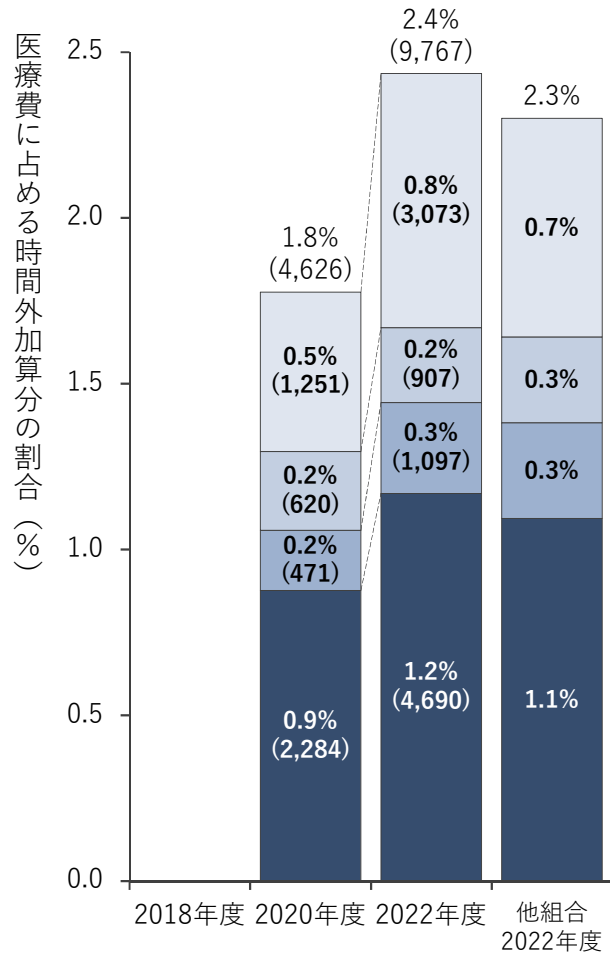


# 小児疾患対策 〈時間外診療〉

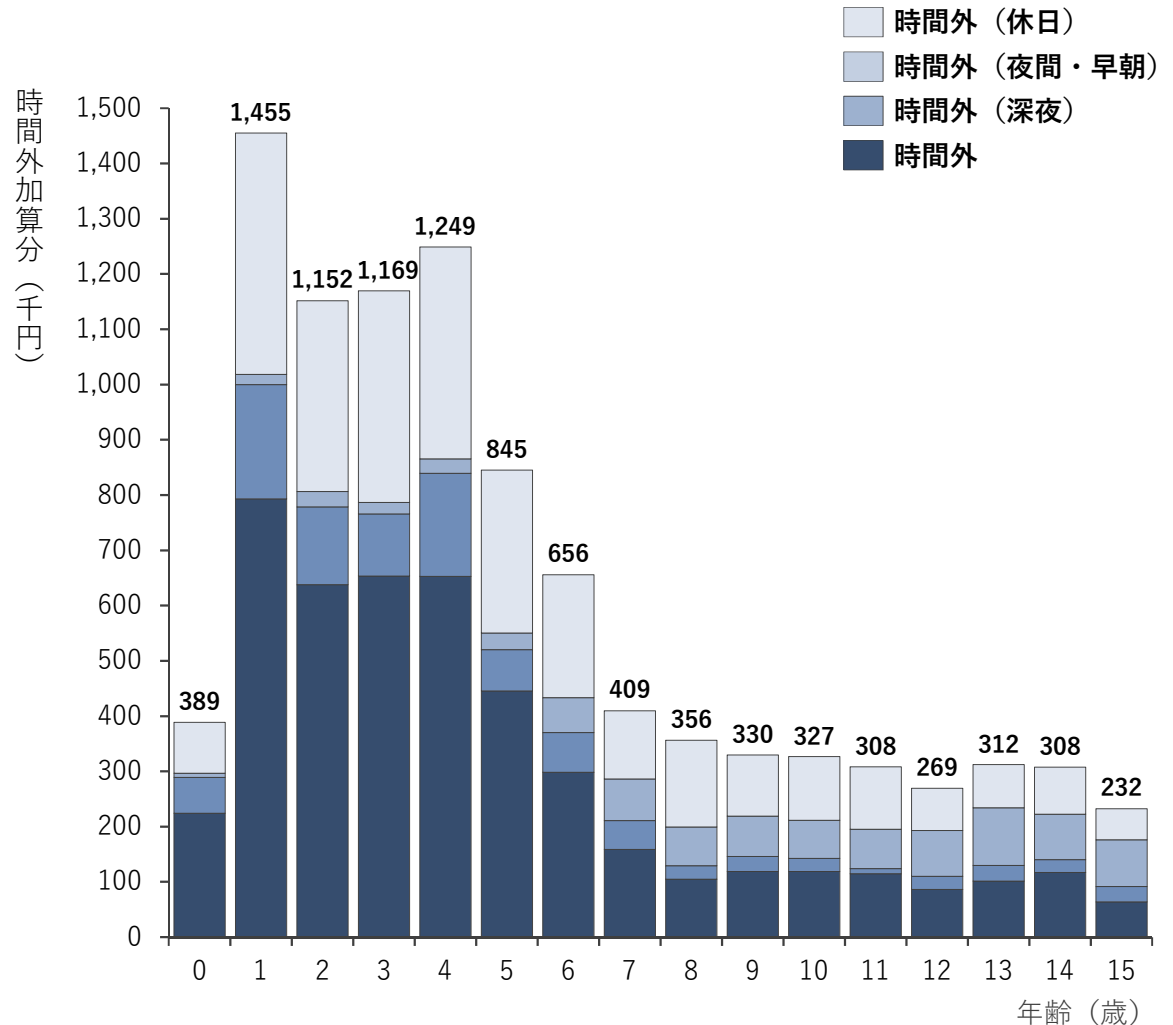
※対象：各年度末15歳以下の被扶養者  
 ※対象レセプト：医科入院外

全体として直近3年間で増加している。乳幼児期の時間外医療費が高い。

年度別 時間外医療費割合



2022年度 年齢別時間外医療費

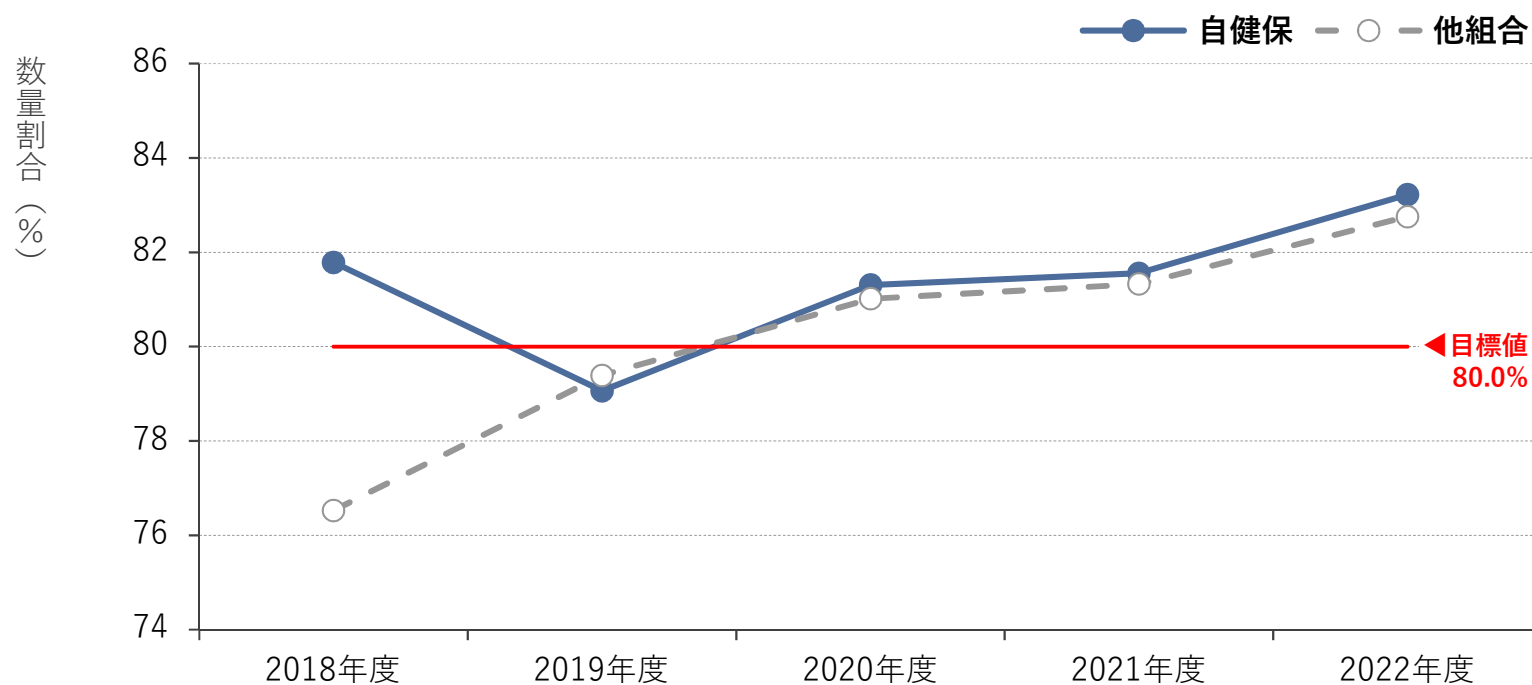


※ ( ) 内：医療費 (千円)

# 行動特性 〈年度別 後発医薬品数量割合推移〉

※対象レセプト：全て  
 ※各年度末月（3月度）の数量割合

国の目標数値である80%を達成。



レセプト種別 後発医薬品数量割合

レセプト種別	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
医科入院	0.0%	79.9%	84.2%	86.2%	80.3%
医科入院外	100.0%	68.6%	66.9%	65.6%	65.9%
調剤	80.2%	81.2%	83.8%	84.1%	86.1%
歯科	0.0%	59.2%	46.5%	56.5%	48.3%
全レセプト	81.8%	79.1%	81.3%	81.6%	83.2%

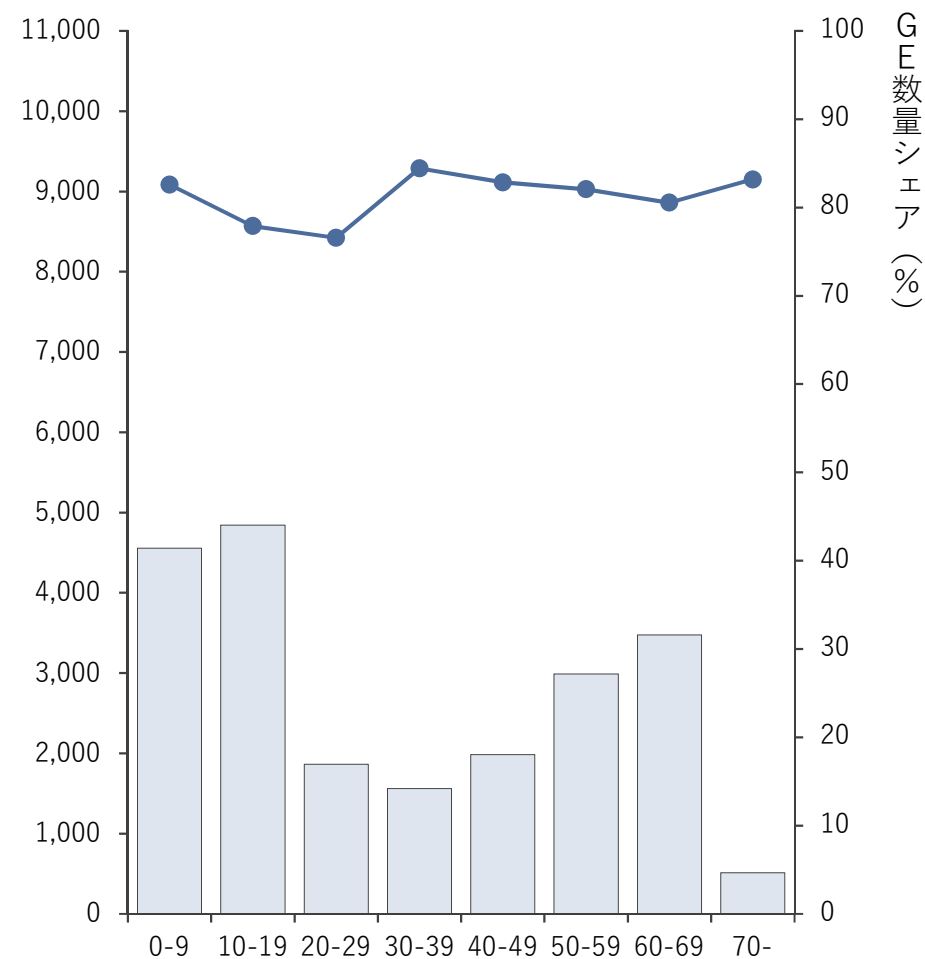
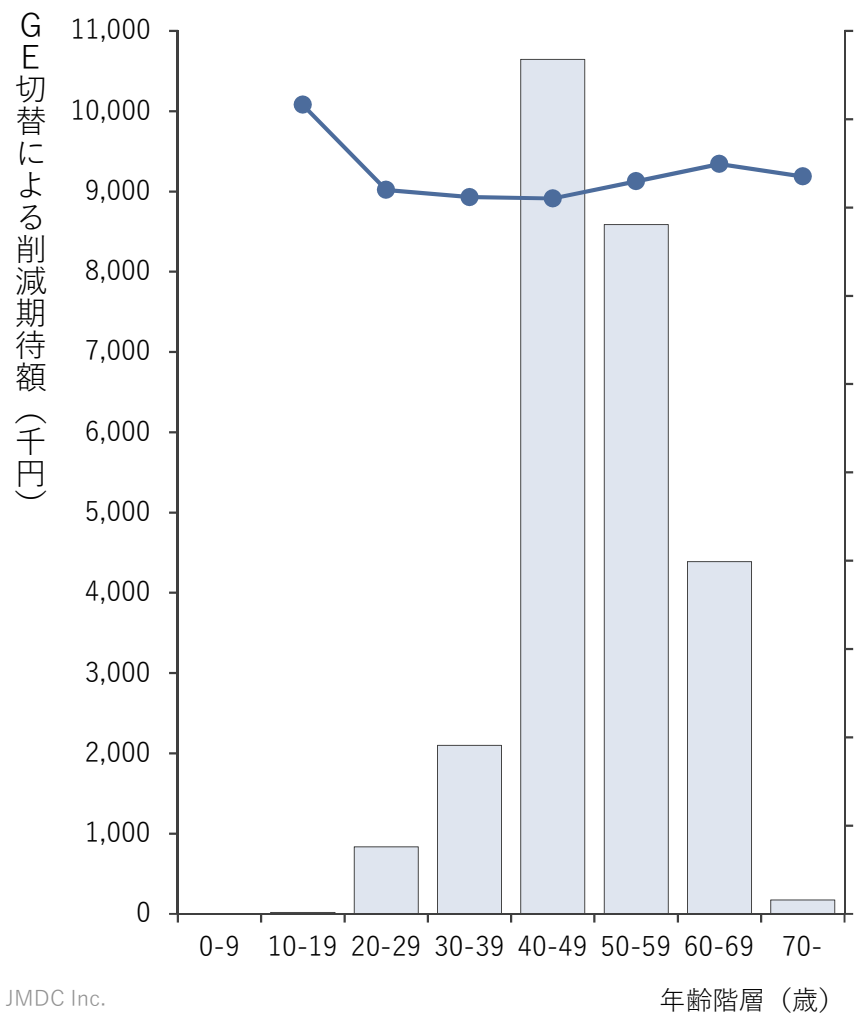
# 医療費適正化対策 〈後発医薬品使用状況：年齢階層別〉

※対象：2022年度診療分  
 ※対象レセプト：全て

## 被保険者

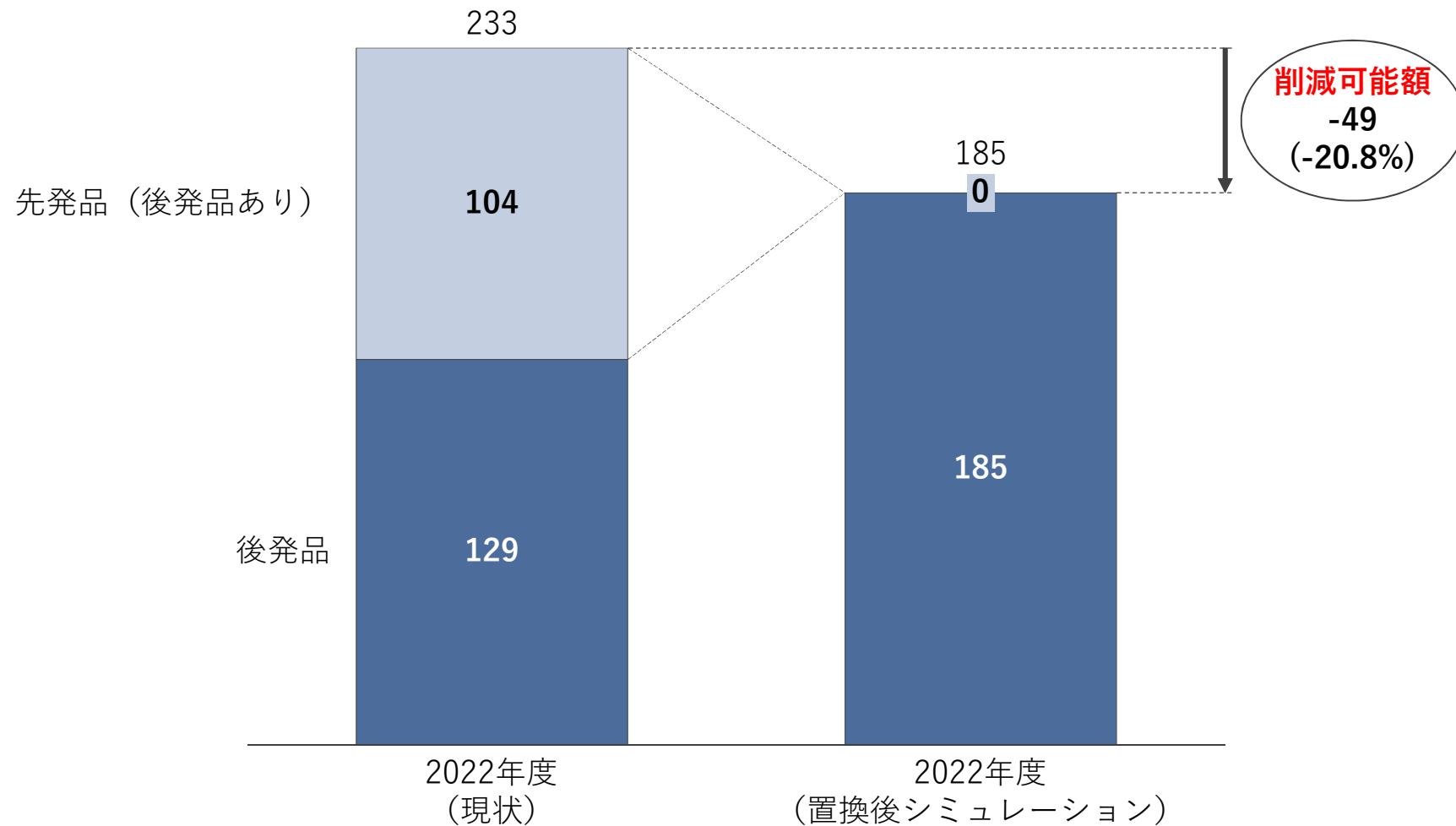
## 被扶養者

■ GE切替による削減期待額 ● GE数量シェア



# 医療費適正化対策 ジェネリック医薬品置換による効果額シミュレーション

※対象レセプト：全て



※薬剤費 (百万円)

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア	・加入者構成としては35-54歳の割合が高い	➔	会社と協働で、将来的な生活習慣病等のリスクを低減させる取り組みを行う	
2	イ	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている	➔	医療費増加抑制へ向け、加入者の健康リテラシーの向上や生活習慣改善を支援するための取り組みを行う	
3	ウ	・患者あたり医療費の上位3つは ①新生物 ②循環器系の疾患 ③内分泌/栄養及び代謝疾患、 となっている	➔	いずれも生活習慣病に関わる疾患であり、生活習慣病予防の取り組みが必要	
4	エ	・歯科医療費は直近3年間で増加傾向となっており、特に50-59歳の医療費増が目立っている	➔	歯科検診・歯科治療・セルフケアの重要性についての啓発活動を行う	
5	オ	・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した	➔	検診受診機会の通知、健診未受診者への受診勧奨	
6	カ, キ	・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能 ・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、 脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、 運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い	➔	会社と協働で生活習慣改善の重要性・必要性の認知度を高めるとともに、 加入者の健康リテラシーの向上や生活習慣改善を支援するための取り組みを行う	✓
7	ク	・特定保健指導実施率について、直近3年間（R2-4年度）で上昇しているものの、 保険者全体目標値の45%には大きく未達である	➔	特定保健指導参加機会の提供・周知	
8	ケ	・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である ・生活習慣病治療放置群が一定数存在する ・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する ・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、 そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた	➔	生活習慣病ハイリスクかつ未通院者に対して、早期に治療を受けるように受診を促し、 疾病の重症化を防ぐ	✓
9	コ	・乳房・前立腺の他、肺がん・大腸がんの医療費が少なからず発生している ・直近3年間で、乳房、大腸がんの患者数が増加している	➔	がん検診受診、要精密検査者への受診の働きかけを行い、がんの早期発見につなげる	
10	サ	・メンタル系の疾患について、経年で受療率が増加傾向である	➔	メンタルヘルスのセルフケアについて継続的な働きかけを実施	
11	シ	・全体の過半数が直近1年間で一度も歯科にかからない層であり、その中の約6割（ 加入者全体の約3割）が直近3年間未受診となっている。 ・他組合と比較して、より重症化した状態で受診している人が多い	➔	歯科のセルフケアについて継続的な働きかけを実施	
12	ス	・インフルエンザの患者数は新型コロナウイルスの影響で激減していたが、 直近年度では大幅に増加	➔	予防接種等による、発症および重症化予防に向けた取り組みが必要	

13	セ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である</li> <li>・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である</li> </ul>	➔	健康維持の重要性について、加入者・事業主に継続的に働きかけを行う	
14	ソ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の時間外医療費が高い</li> </ul>	➔	初産家庭への適切な育児情報提供を通じた、乳幼児の傷病予防、受診判断等の啓蒙活動の実施	
15	タ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェネリック数量比率は目標の80%を達成している</li> <li>・40-50代の被保険者の削減期待値が大きい（現状で先発品の薬剤費シェア率が高い）</li> </ul>	➔	後発医薬品への切替余地の高い被保険者に重点的に切替を促す	

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当健保は横浜ゴム株式会社を中心とした単一健保組合である</li> <li>・被保険者の6割は母体に、4割は38事業所に所属する</li> <li>・被保険者は男性の割合が約9割と多い</li> <li>・特に従業員は35歳～54歳の男性が多い</li> <li>・被扶養者は子供を除くと女性が多い</li> <li>・健保組合が運営する診療所が4か所ある</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健保診療所のある事業所においては、母体事業主と連携した受診勧奨や保健指導が実施しやすい</li> <li>・一方、全国に点在する其他事業所においては、共通の施策を実施しづらい面がある</li> <li>・年齢構成上今後の医療費増加は避けられず、いかにその増加を抑制するかを念頭に置く必要がある</li> </ul>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被保険者の特定健診・がん検診は、事業主の定期健診に含めて実施しているため受診率は高いが、特定保健指導の実施率は高くない</li> <li>・被扶養者の特定健診・特定保健指導の実施率は、他健保と比べると比較的高い</li> <li>・被保険者の健康促進活動へのインセンティブを付与する健康ポータルサイトを運用しており、R6年1月現在43.8%の登録率である</li> <li>・健保診療所におけるインフルエンザ予防接種実施を実施しており、多くの方に利用されている</li> <li>・婦人科がん検診・人間ドック・オンライン禁煙外来への補助を行っているが、利用者は限定的である</li> <li>・歯科対策・メンタル対策については啓蒙活動の実施に留まる</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導の実施率向上へ向けては、各事業主との連携、診療所機能のより一層の活用、ICTの活用などが必要</li> <li>・健康ポータルサイトの登録率・利用率向上へ向けて、特に母体事業主以外へ向けた打ち手が必要</li> <li>・限られた費用の中で、どこに優先順位を置いて取り組むかが重要</li> </ul>

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

事業主との協力体制をベースに、加入者のQOLの維持・改善を支援することにより、将来的な医療費急増を未然に防止する。

### 事業全体の目標

- ・ 特定保健指導対象者割合：20%未満
- ・ 特定保健指導実施率：45%以上

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

予算措置なし	健康管理事業推進委員会
予算措置なし	事業所別健康スコアリングレポート発信

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	健康ポータルサイト運営
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	ジェネリック促進通知
保健指導宣伝	育児指導誌の配付
保健指導宣伝	こころの健康づくり
保健指導宣伝	歯科対策
予算措置なし	常備薬購入斡旋

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診
特定保健指導事業	特定保健指導
疾病予防	被扶養者健診（35～39歳）
疾病予防	がん検診
疾病予防	眼底検査（循環器検診）
疾病予防	人間ドック・脳ドック
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	禁煙促進
体育奨励	体育奨励
その他	糖尿病性腎症重症化予防

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
職場環境の整備												アウトカム指標								
予算措置なし	1	既存	健康管理事業推進委員会	母体企業	男女	0～75	加入者全員	3	ス	安全衛生推進室、人事部、労働組合、健保組合、医療専門職をメンバーとし、「健康管理事業推進委員会」を開催	ア,イ		年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	年1回以上の「健康管理事業推進委員会」開催	事業主経営層の健康経営に対する理解を深め、社員ならびに家族の健康への投資を促すとともに、事業主との連携を強化することで、健保が実施する保健事業効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入者構成としては35-54歳の割合が高い</li> <li>・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている</li> <li>・患者あたり医療費の上位3つは①新生物 ②循環器系の疾患 ③内分泌/栄養及び代謝疾患、となっている</li> <li>・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した</li> <li>・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。</li> <li>・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。</li> <li>・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い</li> <li>・特定保健指導実施率について、直近3年間（R2-4年度）で上昇しているものの、保険者全体目標値の45%には大きく未達である</li> <li>・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である</li> <li>・生活習慣病治療放置群が一定数存在する</li> <li>・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する</li> <li>・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた</li> <li>・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である</li> <li>・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である</li> <li>・インフルエンザの患者数は新型コロナウイルスの影響で激減していたが、直近年度では大幅に増加</li> </ul>
委員会開催回数(【実績値】1回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)								



予算科目	注1) 事業分類	新規/既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
1	既存		事業所別健康スコアリングレポート発信	一部の事業所	男女	18～75	被保険者	1	ス		ア		事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートの発信	事業所別健康スコアリングレポートを各事業所に発信とあわせ、各事業所での健康経営推進の取り組みを促し、健保が実施する保健事業効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入者構成としては35-54歳の割合が高い</li> <li>・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている</li> <li>・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した</li> <li>・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。</li> <li>・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。</li> <li>・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い</li> <li>・特定保健指導実施率について、直近3年間（R2-4年度）で上昇しているものの、保険者全体目標値の45%には大きく未達である</li> </ul>
事業所別健康スコアリングレポート発信(【実績値】1回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)									
加入者への意識づけ												5,432	-	-	-	-	-				

予算科目	注1) 事業分類	新規/既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
保健指導宣伝	2,5	既存	機関誌発行	全て	男女	0~75	加入者全員	1	ス	年2回の機関誌「けんぼのたより」を被保険者自宅宛発送	-	-	アウトプット指標					-	-
													アウトカム指標						
													年2回の機関誌「けんぼのたより」発行	年2回の機関誌「けんぼのたより」発行	年2回の機関誌「けんぼのたより」発行	年2回の機関誌「けんぼのたより」発行	年2回の機関誌「けんぼのたより」発行		
機関誌発行【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回-												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)							
												17,369							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		
アウトプット指標												アウトカム指標								
2,5,7,8	既存	健康ポータルサイト運営	全て	男女	18～75	被保険者	1	ア,エ	健康ポータルサイト「PepUp」を全被保険者向け(任意継続被保険者除く)に運用	シ	-	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催 ・インフルエンザ予防接種費用補助導入	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催	・春/秋のウォーキングラリー実施 ・健診結果インセンティブ付与 ・その他健康増進イベントの開催	・ICTを活用した健康イベント等を展開し、運動習慣や改善意を高める ・ICTを活用した情報提供により、健康リテラシーや医療費に関する意識を高める	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている ・患者あたり医療費の上位3つは①新生物 ②循環器系の疾患 ③内分泌/栄養及び代謝疾患、となっている ・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い ・インフルエンザの患者数は新型コロナウイルスの影響で激減していたが、直近年度では大幅に増加 ・ジェネリック数量比率は目標の80%を達成している ・40-50代の被保険者の削減期待値が大きい(現状で先発品の薬剤費シェア率が高い)	
PepUp登録率(【実績値】45% 【目標値】令和6年度:50% 令和7年度:52% 令和8年度:54% 令和9年度:56% 令和10年度:58% 令和11年度:60%)												適切な運動習慣を有する者の割合(【実績値】24.4% 【目標値】令和6年度:26% 令和7年度:28% 令和8年度:30% 令和9年度:31% 令和10年度:32% 令和11年度:33%)健康スコアリングレポート参考資料「適切な運動習慣を有する者の割合」の数値を使用。(R5年度末の実績値はR4年度の特定健診問診結果)*2/9時点では推定値								
2	既存	医療費通知	全て	男女	0～75	加入者全員	1	ス	年1回「医療費のお知らせ」を送付	シ	-	年1回通知書を発行	年1回通知書を発行	年1回通知書を発行	年1回通知書を発行	年1回通知書を発行	年1回通知書を発行	加入者に、治療等にかかった医療費を確認いただくことを通じ、健康及び健康保険制度に対する意識を深めさせる	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている	
通知の発行(【実績値】1回 【目標値】令和6年度:1回 令和7年度:1回 令和8年度:1回 令和9年度:1回 令和10年度:1回 令和11年度:1回)												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)								
7	既存	ジェネリック促進通知	全て	男女	18～74	被保険者	1	エ	Pep Upの機能を利用して、ジェネリック医薬品に切り替えることで自己負担額が軽減できる可能性がある方に通知を発信(費用はPep Up運営費用に込み)	シ	-	3か月ごと(年4回)の通知発信	3か月ごと(年4回)の通知発信	3か月ごと(年4回)の通知発信	3か月ごと(年4回)の通知発信	3か月ごと(年4回)の通知発信	3か月ごと(年4回)の通知発信	ジェネリック医薬品への切り替えを促し、医療費の適正化を図る。	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている ・ジェネリック数量比率は目標の80%を達成している ・40-50代の被保険者の削減期待値が大きい(現状で先発品の薬剤費シェア率が高い)	
ジェネリック通知発信(【実績値】4回 【目標値】令和6年度:4回 令和7年度:4回 令和8年度:4回 令和9年度:4回 令和10年度:4回 令和11年度:4回)												ジェネリック利用率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度:80% 令和7年度:80% 令和8年度:80% 令和9年度:80% 令和10年度:80% 令和11年度:80%)R4年度実績:83.2%								
2	既存	育児指導誌の配付	全て	男女	0(上限なし)	基準該当者	1	ク	初産家庭に、育児指導誌「赤ちゃん!」を配付	シ	-	初産家庭への育児指導誌配付	初産家庭への育児指導誌配付	初産家庭への育児指導誌配付	初産家庭への育児指導誌配付	初産家庭への育児指導誌配付	初産家庭への育児指導誌配付	・初産家庭への適切な育児情報提供を通じた、乳幼児の傷病予防、受診判断等の啓蒙活動の実施	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている ・乳幼児期の時間外医療費が高い	
月平均発送部数(【実績値】12人 【目標値】令和6年度:10人 令和7年度:10人 令和8年度:10人 令和9年度:10人 令和10年度:10人 令和11年度:10人)申込から12か月間(一人あたり計12部)送付												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)								
5	既存	こころの健康づくり	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	シ	-	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	・メンタルヘルスのセルフケアについて継続的な働きかけの実施	・メンタル系の疾患について、経年で受療率が増加傾向である ・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である ・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である	
機関紙への記事掲載回数(【実績値】1回 【目標値】令和6年度:1回 令和7年度:1回 令和8年度:11回 令和9年度:1回 令和10年度:1回 令和11年度:1回)メンタルヘルスのセルフケアに関連する記事を機関紙「けんぼのたより」に掲載												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)								
0												-								

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
	2	既存	歯科対策	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載		機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	機関紙「けんぼのたより」への啓発記事掲載	・歯の健康維持・疾病予防についての継続的な働きかけの実施	・歯科医療費は直近3年間で増加傾向となっており、特に50-59歳の医療費増が目立っている ・全体の過半数が直近1年間で一度も歯科にかからない層であり、その中の約6割（加入者全体の約3割）が直近3年間未受診となっている ・他組合と比較して、より重症化した状態で受診している人が多い	
機関紙への記事掲載回数(【実績値】1回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)							
予算措置なし	2	既存	常備薬購入幹旋	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	・年に1～2回案内を機関誌に同封し配布		年に1～2回案内を機関誌に同封し配布	年に1～2回案内を機関誌に同封し配布	年に1～2回案内を機関誌に同封し配布	年に1～2回案内を機関誌に同封し配布	年に1～2回案内を機関誌に同封し配布	疾病の早期対応・セルフケアを促し、医療費軽減を目指す	・総医療費は直近3年間で増加傾向となっている	
案内配布回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)							
個別の事業																			
特定健康診査事業	3	既存(法定)	特定健診	全て	男女	40～74	加入者全員	3	ケ,サ	(被保険者) ・予め健診のガイドラインを健保から事業主に提示し、事業主が行う定期健診の中において実施 ・健診未受診者・要再検者へは事業主経由での受診勧奨実施 (被扶養者) ・対象者へ直接受診案内を送付 ・健診未受診者へは電話等での受診勧奨実施		・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	・被保険者：対象者全員に実施 ・被扶養者：対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	メタボリックシンドロームや高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を早期発見し、早期対策に結びつける	・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した ・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い
特定健診実施率(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：89% 令和7年度：89% 令和8年度：89% 令和9年度：90% 令和10年度：90% 令和11年度：90%)-												内臓脂肪症候群該当者割合(【実績値】 - 【目標値】令和6年度：18% 令和7年度：18% 令和8年度：18% 令和9年度：17% 令和10年度：17% 令和11年度：17%)R4年度実績：18.3%(メタボリックシンドローム判定の基準該当者数/特定健康診査受診者数)							
特定保健指導事業	4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	エ,ケ,サ	・特定健診結果より、対象者に対し特定保健指導を実施		ICTの活用拡大・直営診療所医療専門職による内部実施の拡大、母体事業主とのコラボヘルス推進による実施率向上	実施率向上の取り組み継続	実施率向上の取り組み継続	実施率向上の取り組み継続	実施率向上の取り組み継続	実施率向上の取り組み継続	生活習慣の改善を促し、糖尿病等の生活習慣病を予防する	・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した ・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い ・特定保健指導実施率について、直近3年間(R2-4年度)で上昇しているものの、保険者全体目標値の45%には大きく未達である ・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である ・生活習慣病治療放置群が一定数存在する ・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する ・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連																						
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度																					
アウトプット指標												アウトカム指標																													
特定保健指導実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：25% 令和7年度：29% 令和8年度：33% 令和9年度：37% 令和10年度：41% 令和11年度：45%) R4年度実施率：20.8%												特定保健指導対象者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：20% 令和7年度：20% 令和8年度：20% 令和9年度：19% 令和10年度：19% 令和11年度：19%)R4年度実績：21.0%																													
疾病予防	3	既存	被扶養者健診(35～39歳)	全て	男性	35～39	被扶養者	1	ス	・対象者へ直接受診案内を送付 ・健診未受診者へは電話等での受診勧奨実施	シ	-	20,800	-	-	-	-	-	・被保険者の特定健診受診率は高い水準で推移。被扶養者は2020年度に受診率の低下があったが翌年度以降は回復した ・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い																						
													対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施												対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施					対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施					対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施					対象者全員に実施案内発信、未受診者へは受診勧奨実施	
受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：50% 令和7年度：52% 令和8年度：54% 令和9年度：56% 令和10年度：58% 令和11年度：60%)R4年度実績：約50% (年間受診数/4月時点の案内発信数)												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)																													
3	既存	がん検診	全て	男女	25～74	加入者全員	1	ス	(被保険者) ・事業主が行う定期健診と共同実施 ・乳がん・子宮頸がん検診への別途費用補助(被扶養者) ・乳がん・子宮頸がん検診(自治体検診)への費用補助 ・その他がん検診費用補助(健診費用補助内)	シ	-	44,436	-	-	-	-	-	胃がん、大腸がん、前立腺がん、乳がん、子宮頸がんの早期発見 ・患者あたり医療費の上位3つは①新生物②循環器系の疾患③内分泌/栄養及び代謝疾患、となっている ・乳房・前立腺の他、肺がん・大腸がんの医療費が少なからず発生している ・直近3年間で、乳房、大腸がんの患者数が増加している ・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である ・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である																							
												事業主が行う定期健診との共同実施、その他がん検診補助の継続実施												事業主が行う定期健診との共同実施、その他がん検診補助の継続実施					事業主が行う定期健診との共同実施、その他がん検診補助の継続実施					事業主が行う定期健診との共同実施、その他がん検診補助の継続実施					事業主が行う定期健診との共同実施、その他がん検診補助の継続実施		
機関紙への記事掲載回数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回)-												大腸がん検診受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：75% 令和7年度：76% 令和8年度：77% 令和9年度：78% 令和10年度：79% 令和11年度：80%)35歳以上被保険者についての実施率とする																													
3	既存	眼底検査(循環器検診)	全て	男女	35～74	被保険者	1	サ	事業所定期健康診断内において健保費用補助にて実施	ア	-	8,216	-	-	-	-	-	高血圧・脂質異常症・糖尿病等の循環器疾患および眼疾患の予防・管理 ・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である ・生活習慣病治療放置群が一定数存在する ・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する ・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた																							
												事業主が行う定期健診の中において実施												事業主が行う定期健診の中において実施					事業主が行う定期健診の中において実施					事業主が行う定期健診の中において実施					事業主が行う定期健診の中において実施		
眼底検査実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：90% 令和7年度：90% 令和8年度：90% 令和9年度：90% 令和10年度：90% 令和11年度：90%)実施率=実施数/35歳以上加入者数												効果測定困難なため(アウトカムは設定されていません)																													
3	既存	人間ドック・脳ドック	全て	男女	18～74	加入者全員	1	ケ	母体事業主において、健保補助と連携した別の補助支給有り	ア	-	6,250	-	-	-	-	-	・人間ドック受診による疾病の早期発見 ・人間ドック受診を通じて、自分の状態を知り、健康への意識を高めてもらうことで、将来的なリスクを低減させる ・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である ・生活習慣病治療放置群が一定数存在する ・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する ・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた ・乳房・前立腺の他、肺がん・大腸がんの医療費が少なからず発生している ・直近3年間で、乳房、大腸がんの患者数が増加している																							
												人間ドック・脳ドック費用補助の継続実施												人間ドック・脳ドック費用補助の継続実施					人間ドック・脳ドック費用補助の継続実施					人間ドック・脳ドック費用補助の継続実施					人間ドック・脳ドック費用補助の継続実施		



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連						
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度					
アウトプット指標												アウトカム指標													
人間ドック受診者数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：150人 令和7年度：160人 令和8年度：170人 令和9年度：180人 令和10年度：190人 令和11年度：200人)人間ドック受診者数には脳ドックのみの受診者は含まない R4年度実績：147人(被保険者+被扶養者)												効果測定困難なため (アウトカムは設定されていません)													
8	既存		インフルエンザ予防接種	全て	男女	18～74	被保険者	1	工	・健保診療所の事業所：診療所での予防接種実施 ・それ以外の事業所：健康ポータルサイト利用者へのインフルエンザ予防接種費用補助の実施（R6年度～）	シ	-	4,950	-	-	-	-	-	・予防接種を受けることによりインフルエンザの感染と重症化の予防を図る ・あわせて健康ポータルサイトの登録・利用促進を図る	・インフルエンザの患者数は新型コロナウイルスの影響で激減していたが、直近年度では大幅に増加 ・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である ・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である					
PepUpでの費用補助実施数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：1,000人 令和7年度：1,100人 令和8年度：1,200人 令和9年度：1,300人 令和10年度：1,400人 令和11年度：1,500人)-												効果測定困難なため (アウトカムは設定されていません)													
5	既存		禁煙促進	全て	男女	18～74	被保険者	1	工	オンライン禁煙外来への費用補助実施	カ	メドケア社のオンライン禁煙外来プログラムにて実施	847	-	-	-	-	-	加入者の喫煙率低下を目指す	・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い					
機関紙への記事掲載回数(【実績値】 2回 【目標値】 令和6年度：2回 令和7年度：2回 令和8年度：2回 令和9年度：2回 令和10年度：2回 令和11年度：2回)-												プログラム利用者数(【実績値】 3人 【目標値】 令和6年度：5人 令和7年度：7人 令和8年度：9人 令和9年度：11人 令和10年度：13人 令和11年度：15人)-													
5	既存		体育奨励	全て	男女	15～74	加入者全員	1	ス	・スポーツクラブとの提携 ・健康増進行事への一部費用補助	シ	-	500	-	-	-	-	-	運動による健康増進奨励	・健診・問診結果を他組合と比較したとき、健康状況は肥満・血圧・肝機能・脂質・血糖の5項目すべてにおいて他組合比でのリスク者の割合が高く、脂質については特に悪い。 ・生活習慣では喫煙・運動・睡眠の3項目のリスク者の割合が非常に高く、運動については特に悪い。 ・他組合と比較し、特定保健指導対象者の割合が高い					
機関紙への記事掲載回数(【実績値】 1回 【目標値】 令和6年度：1回 令和7年度：1回 令和8年度：1回 令和9年度：1回 令和10年度：1回 令和11年度：1回) 提携スポーツクラブ紹介記事を年1～2回機関誌に掲載												効果測定困難なため (アウトカムは設定されていません)													
4	既存		糖尿病性腎症重症化予防	母体企業	男女	35～74	被保険者、基準該当者	1	イ,オ,ク,サ	健保診療所のある事業所での糖尿病性腎症重症化予防のための受診勧奨実施	イ,ケ	-	-	-	-	-	-	-	生活習慣病ハイリスク者の重症化予防	・40歳以上の加入者全体では、生活習慣病群の割合増加が高く注意が必要である ・生活習慣病治療放置群が一定数存在する ・CKDステージマップ上、ハイリスクにもかかわらず腎症の治療実績のない加入者が一定数存在する ・2型糖尿病治療中患者のうち6割以上が血糖値のアンコントロール者となっており、そのうちの約4割に腎機能の低下疑いがみられた ・プレゼンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合比では低い受療率である ・アブセンティーズムに影響を及ぼす特徴的な疾患について、概ね他組合並みの受療率である					
受診勧奨実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)・実施率=面談実施数/対象事業所における対象者数												受診勧奨後の受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：90% 令和7年度：91% 令和8年度：92% 令和9年度：93% 令和10年度：94% 令和11年度：95%)・受診率=受診者/受診勧奨実施対象者数													

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業  
注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業  
注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施  
ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他  
注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協議会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築  
ケ. 保険者内の専門職の活用(共同設置保健師等を含む) コ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) サ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) シ. その他